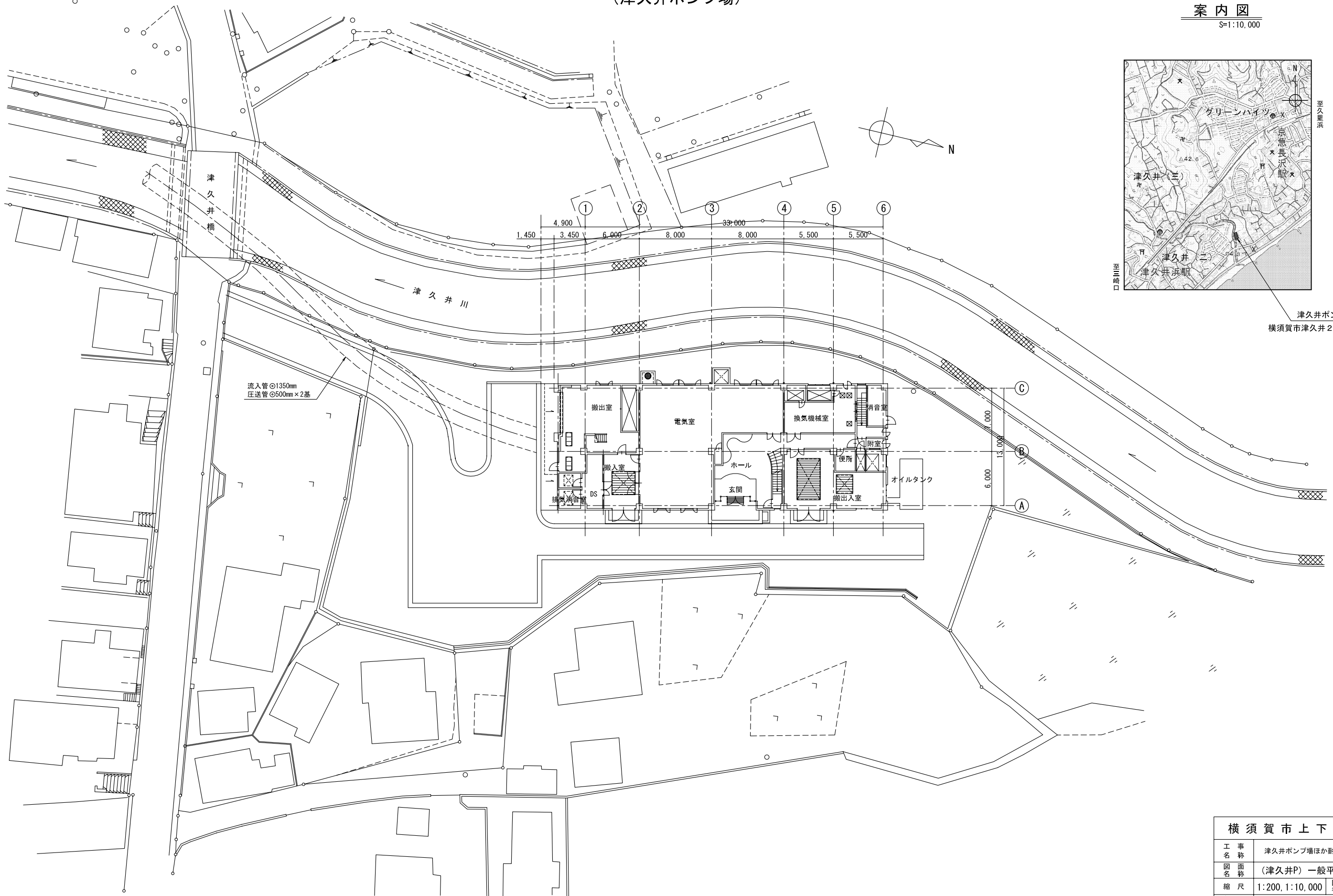


一般平面図・案内図 S=1:200, 1:10,000

(津久井ポンプ場)

案内図

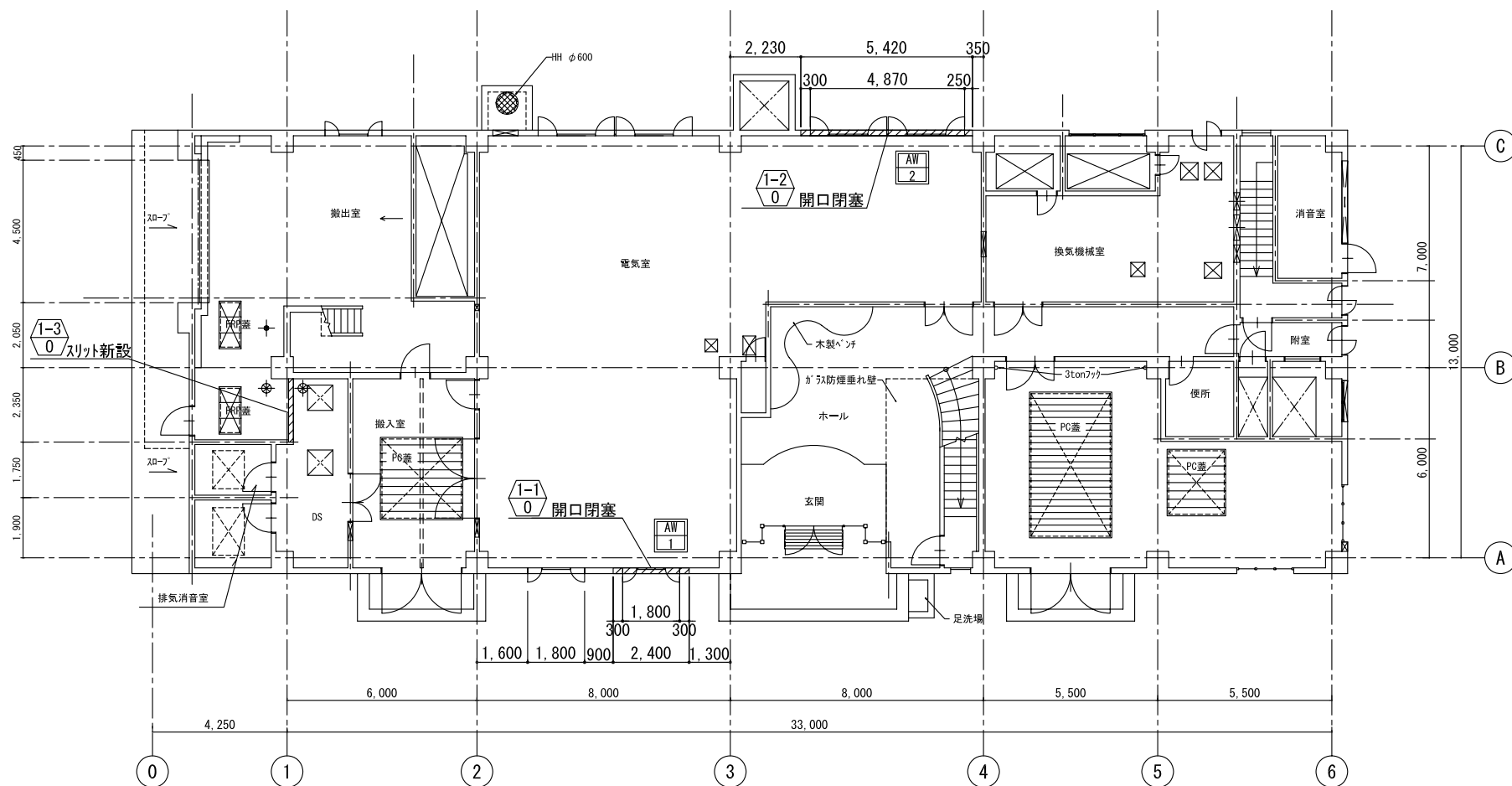
S=1:10,000



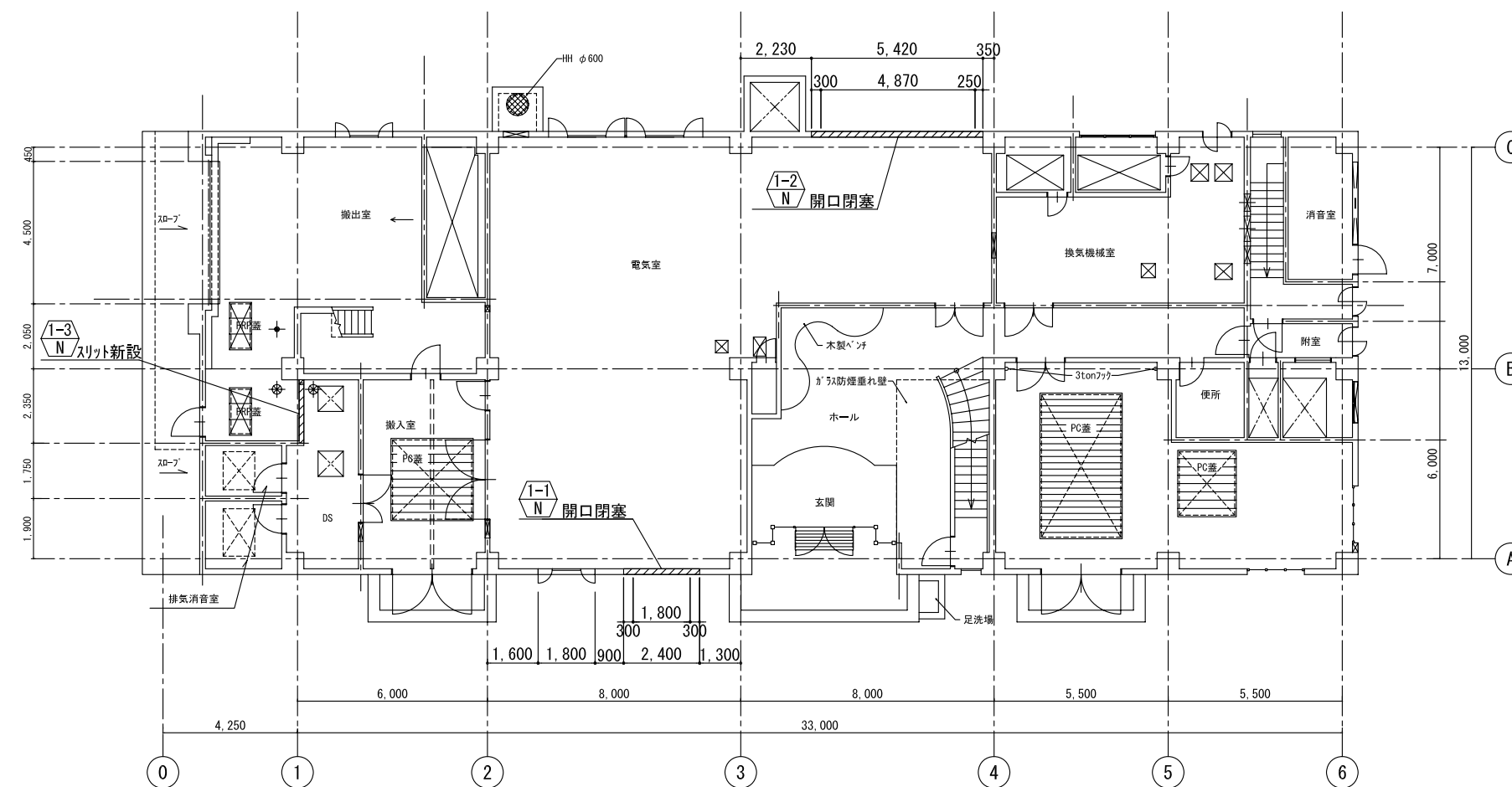
津久井ポンプ場  
横須賀市津久井2丁目10番20号

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 名	(津久井P) 一般平面図・案内図			
縮 尺	1:200, 1:10,000	図 号	A-T1	
制 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

改修前・改修後 1階 補強範囲図 S=1:100



改修前 1階 平面図 S=1:100



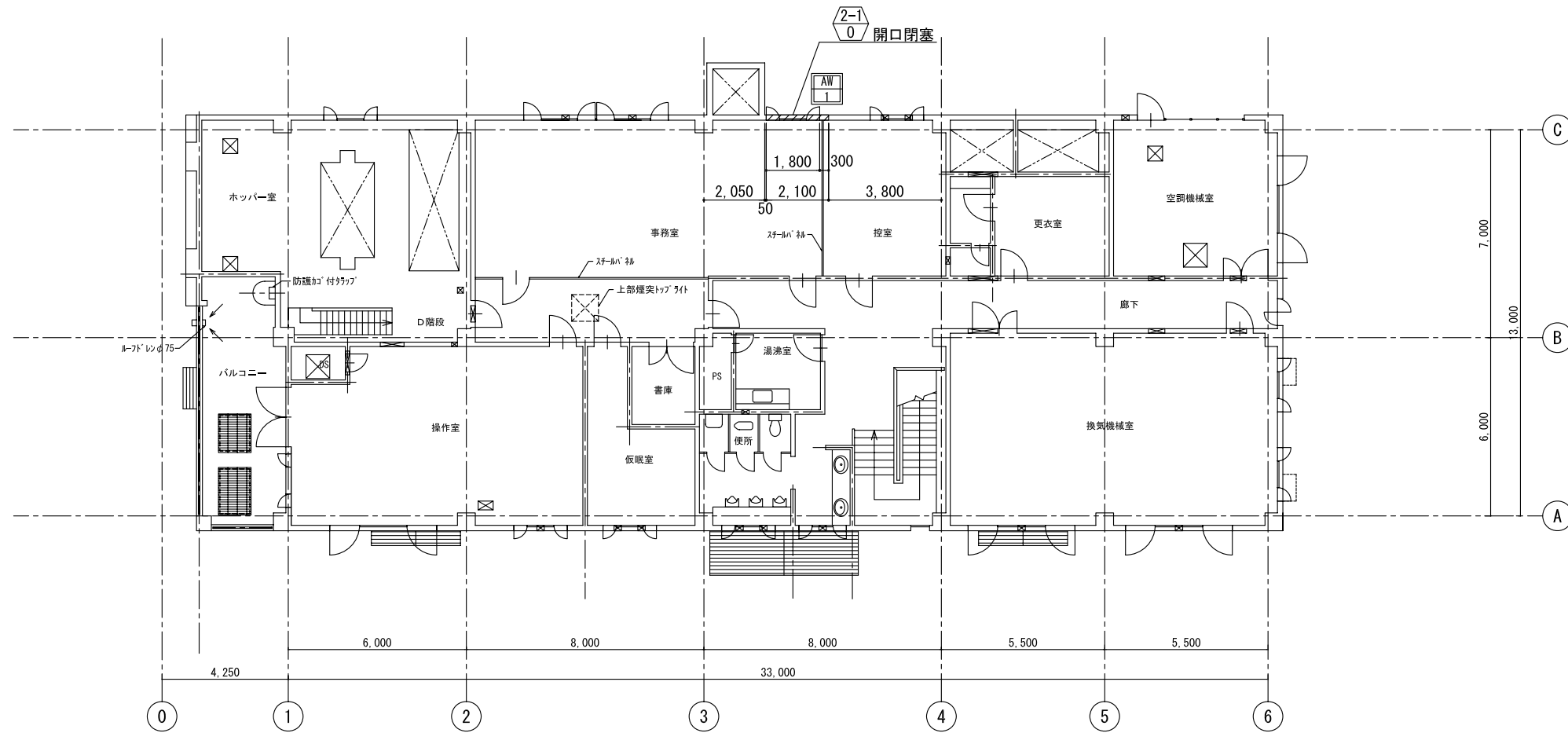
改修後 1階 平面図 S=1:100

建具 リスト	撤去	
符号・名称・個数	AW 1 アルミ製 両袖可動嵌殺し窓 2	AW 2 アルミ製 両袖可動嵌殺し窓 1
姿 図		

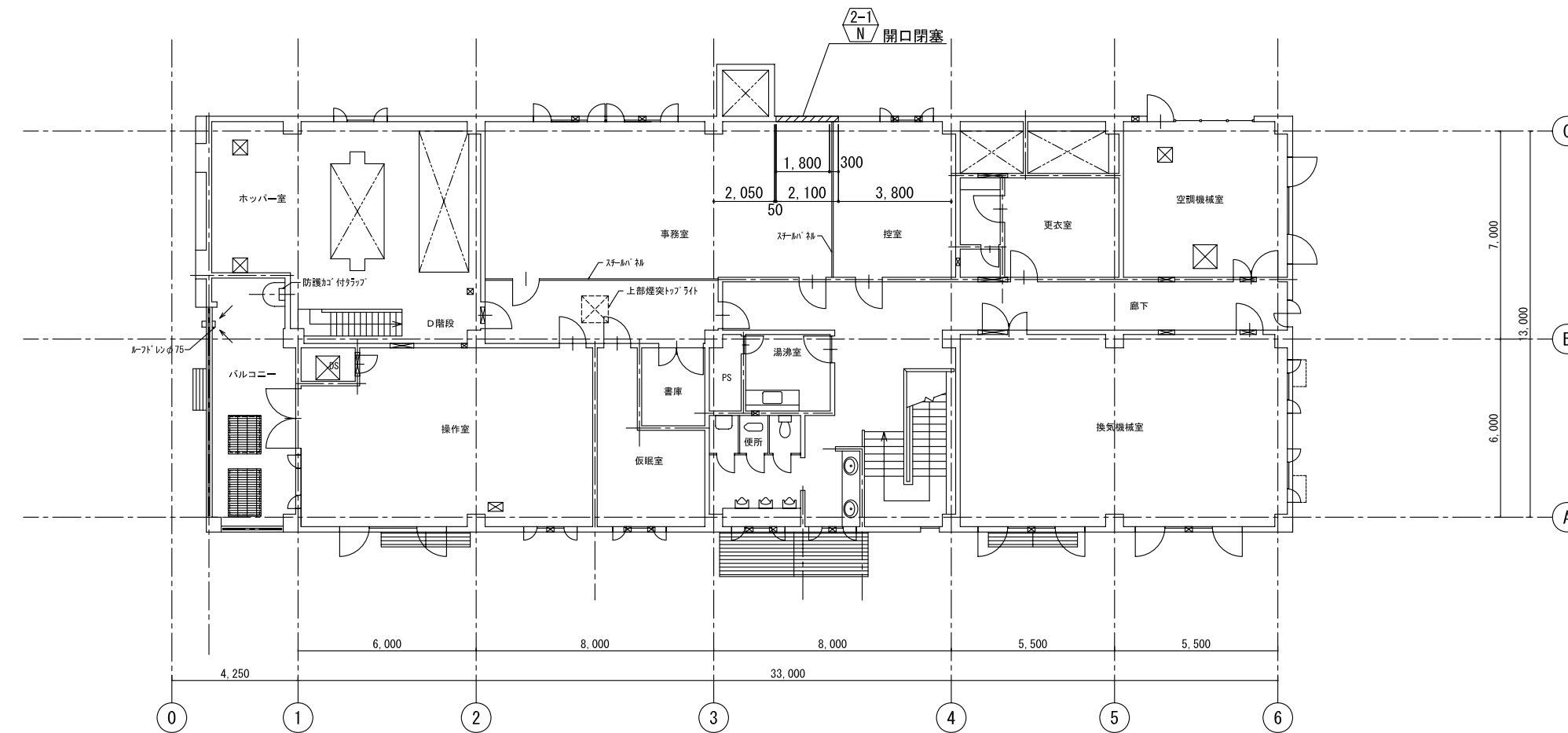
凡 例	
	改修工事範囲
階数 〇-〇	部位番号 〇
	〇:改修前
階数 〇-〇	部位番号 N
	N:改修後

横 須 賀 市 上 下 水 道 局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 1階 補強範囲図		
縮 尺	1:100	図 番 号	A-T2
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	製 図 者

改修前・改修後 2階 補強範囲図 S=1:100



改修前 2階 平面図 S=1:100



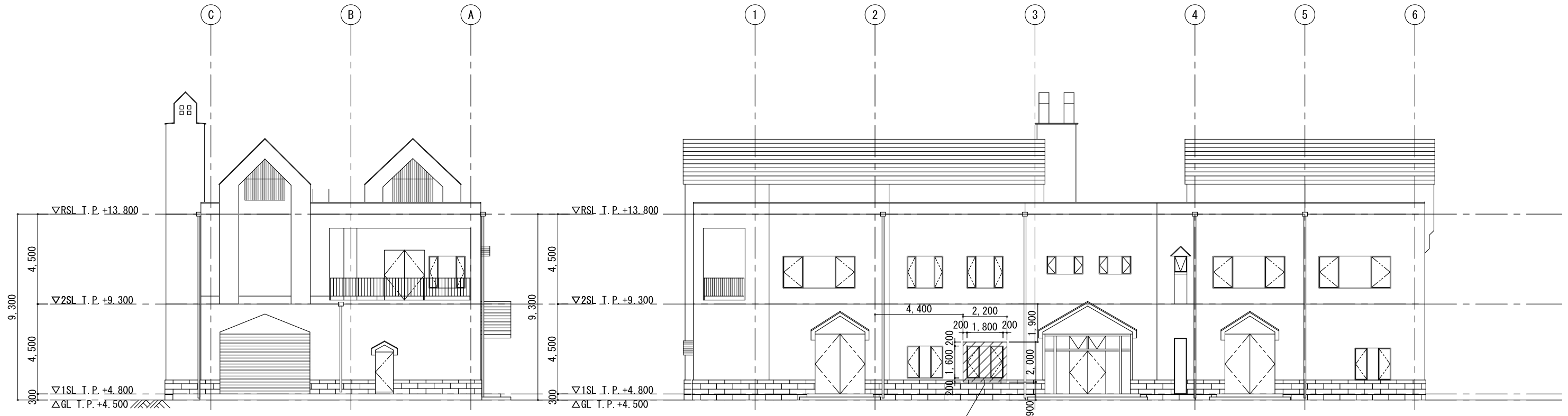
改修後 2階 平面図 S=1:100

凡例

	改修工事範囲
階数 0-0	部位番号 0
	0:改修前
階数 0-0	部位番号 N
	N:改修後

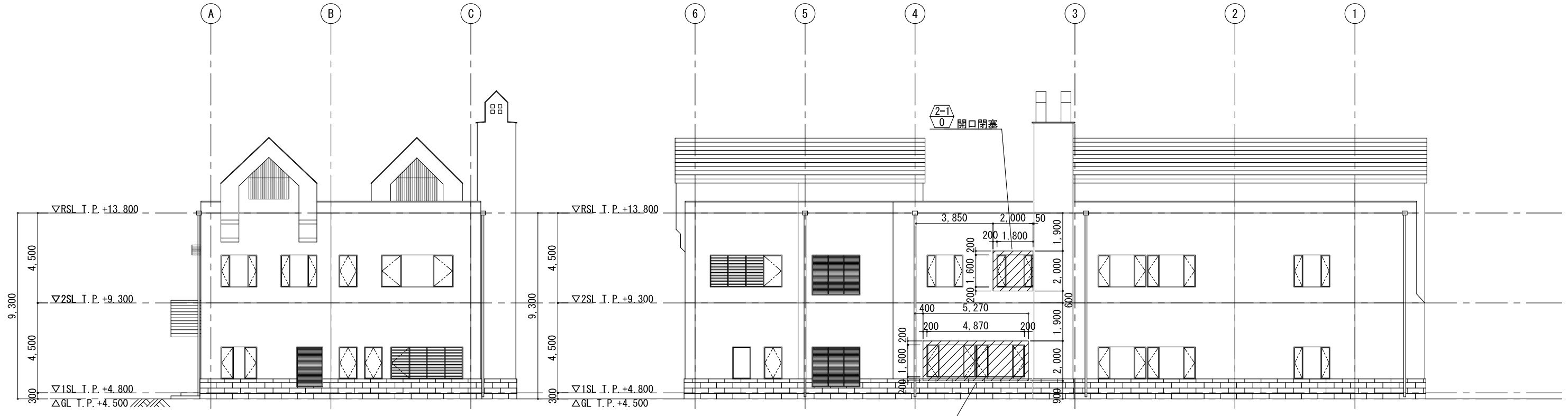
横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 2階 補強範囲図			
縮 尺	1:100	図 番 号	A-T3	
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	校 對 者	

改修前 補強範囲立面図 S=1:100



南立面図 S=1:100

東立面図 S=1:100



北立面図 S=1:100

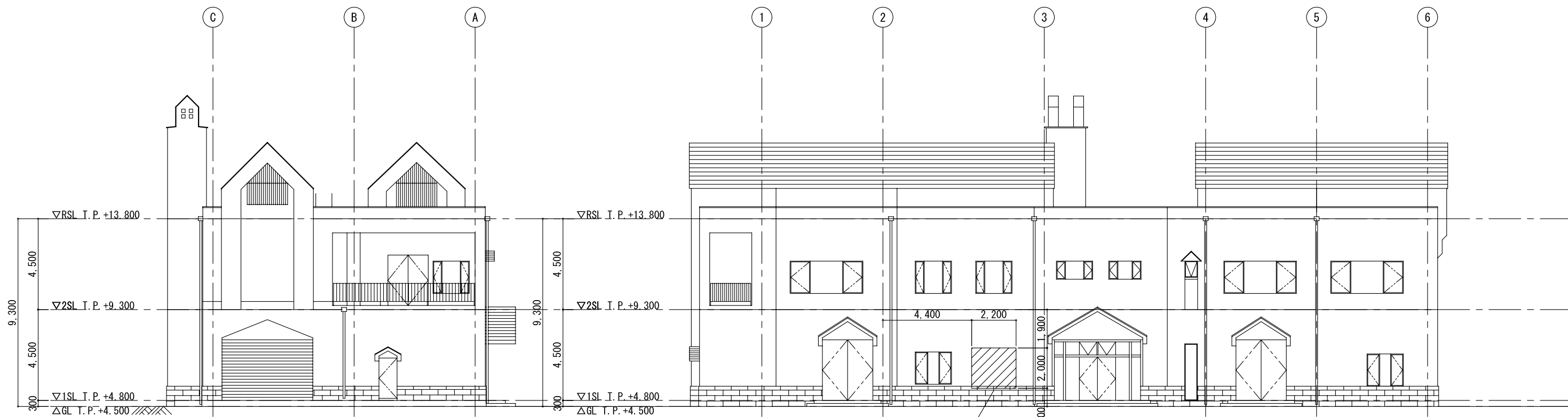
西立面図 S=1:100

凡例

- 改修工事範囲
- 階数  $\frac{0-0}{0}$  部位番号 0: 改修前
- 階数  $\frac{0-0}{N}$  部位番号 N: 改修後

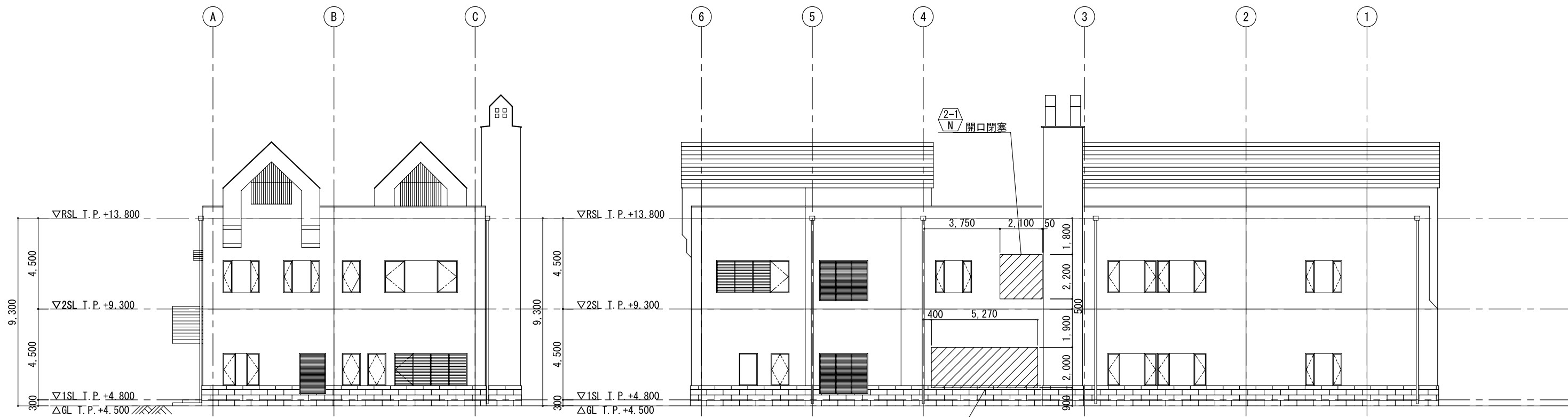
横須賀市上下水道局				
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面名称	(津久井P) 改修前 補強範囲立面図			
縮尺	1:100	図番	A-T4	
制作年	平成 30 年 7 月 日			
課長	係長	担当者	設計者	

改修後 補強範囲立面図 S=1:100



南立面図 S=1:100

東立面図 S=1:100



北立面図 S=1:100

西立面図 S=1:100

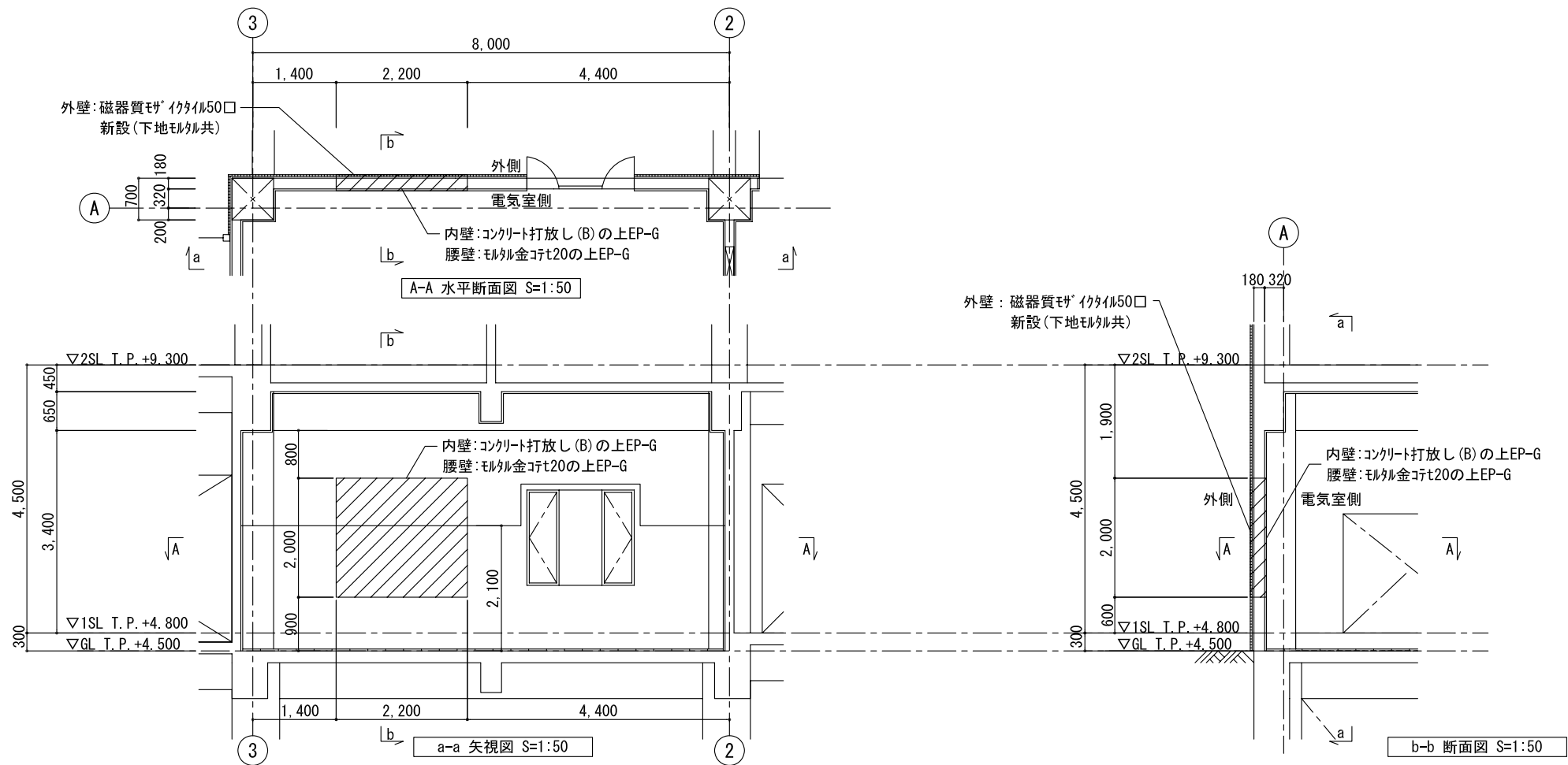
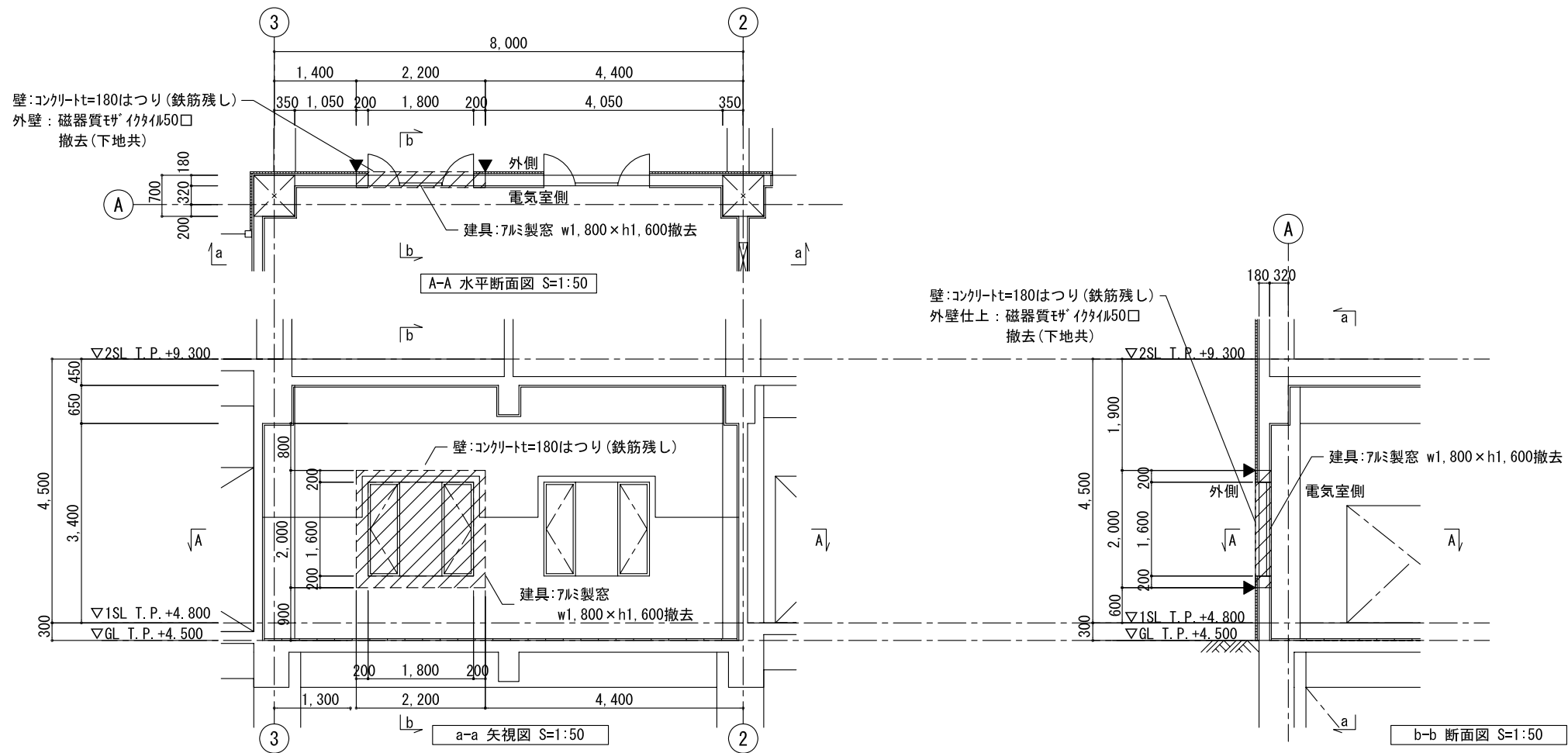
凡例

改修工事範囲

階数 部位番号  
 0: 改修前

階数 部位番号  
 N: 改修後

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修後 補強範囲立面図		
縮 尺	1:100	図 番 号	A-T5
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者



凡例

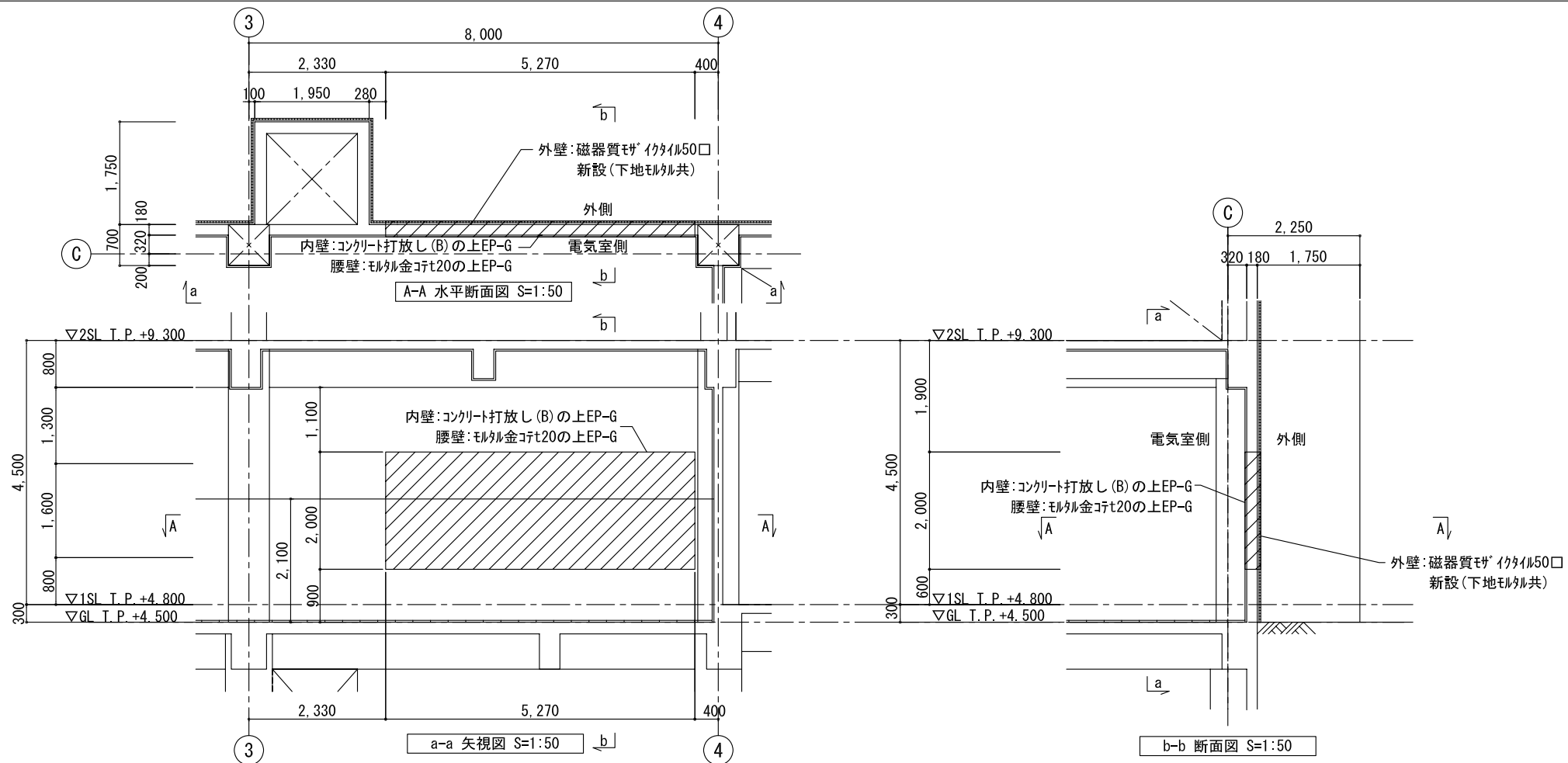
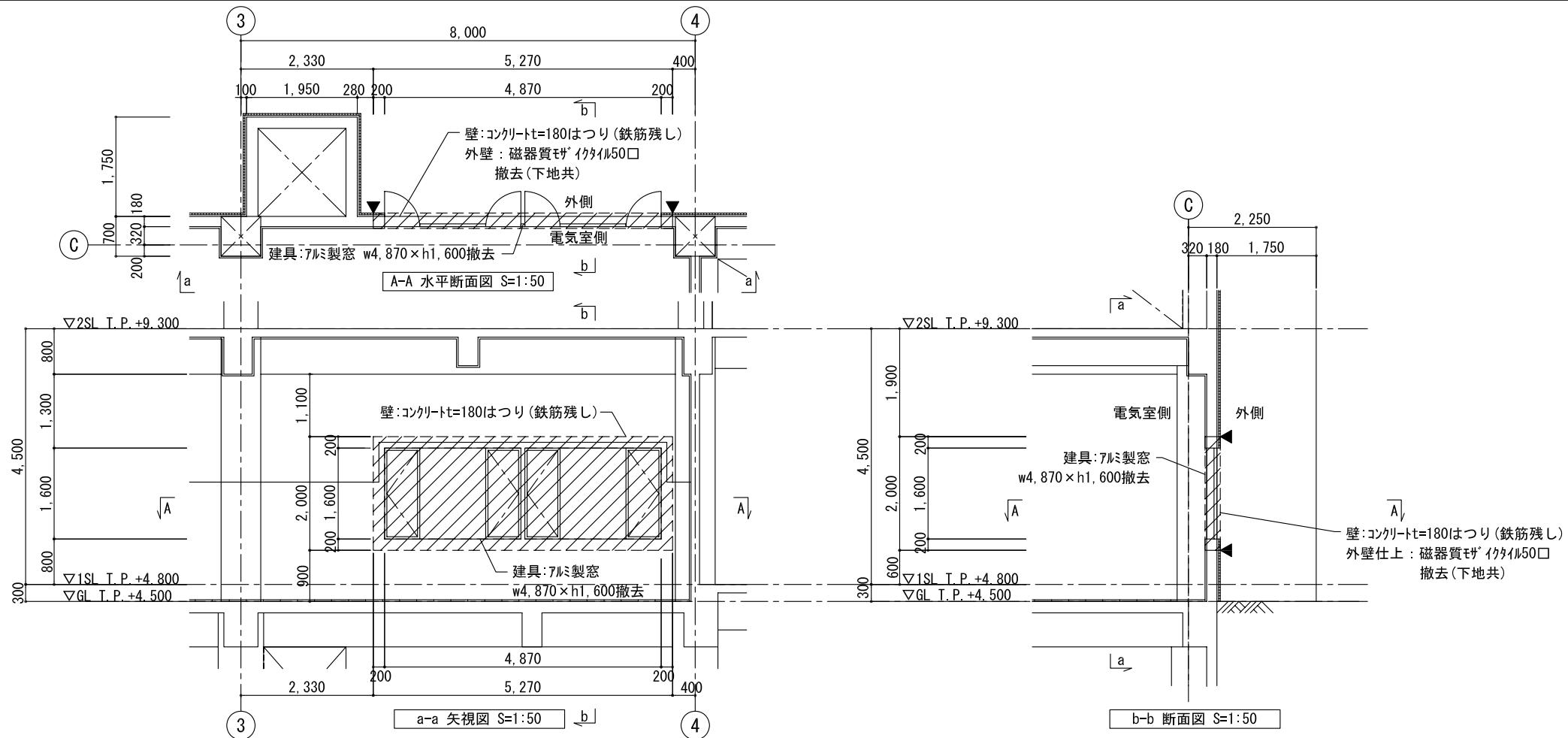
	改修工事前範囲
	改修工事後範囲
階数 0-0 部位番号 0	0:改修前
階数 0-0 部位番号 N	N:改修後
	カッター入れ

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 1階A通 詳細図		
縮 尺	1:50	図 番 号	A-T6
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

改修前

改修後



凡例

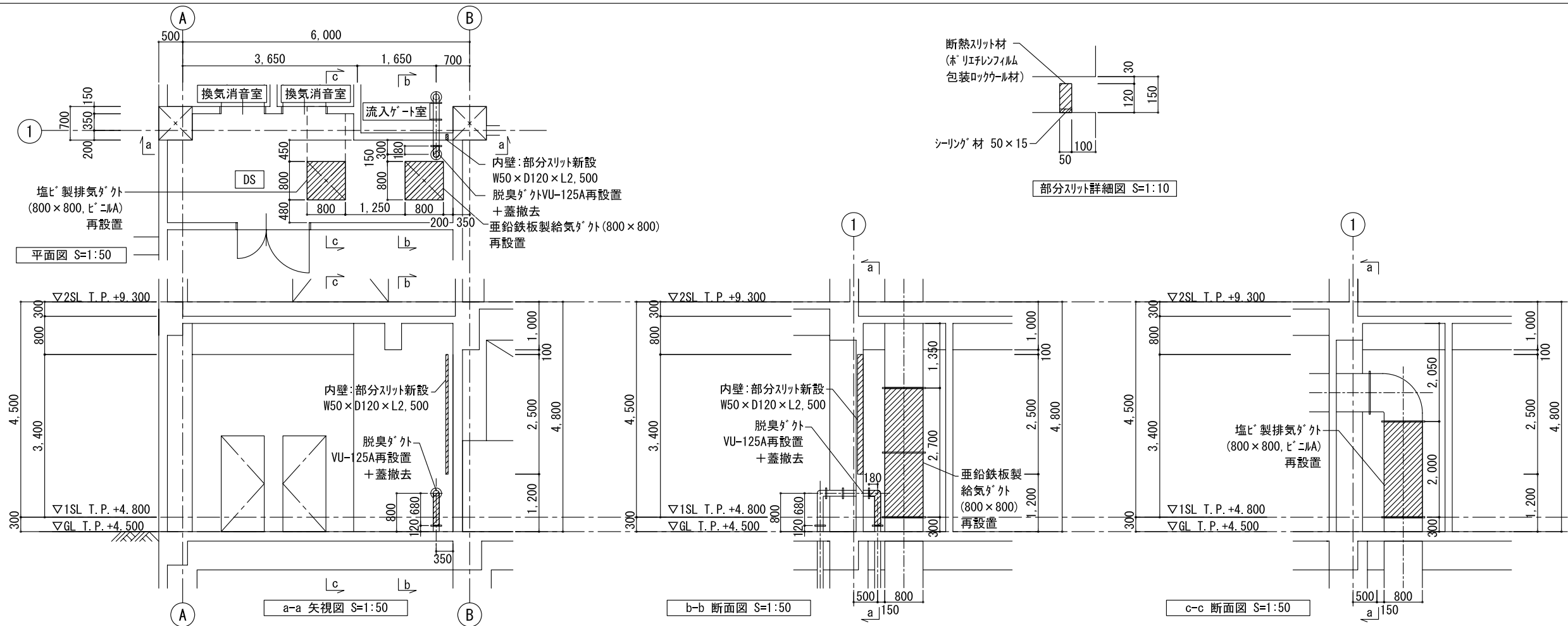
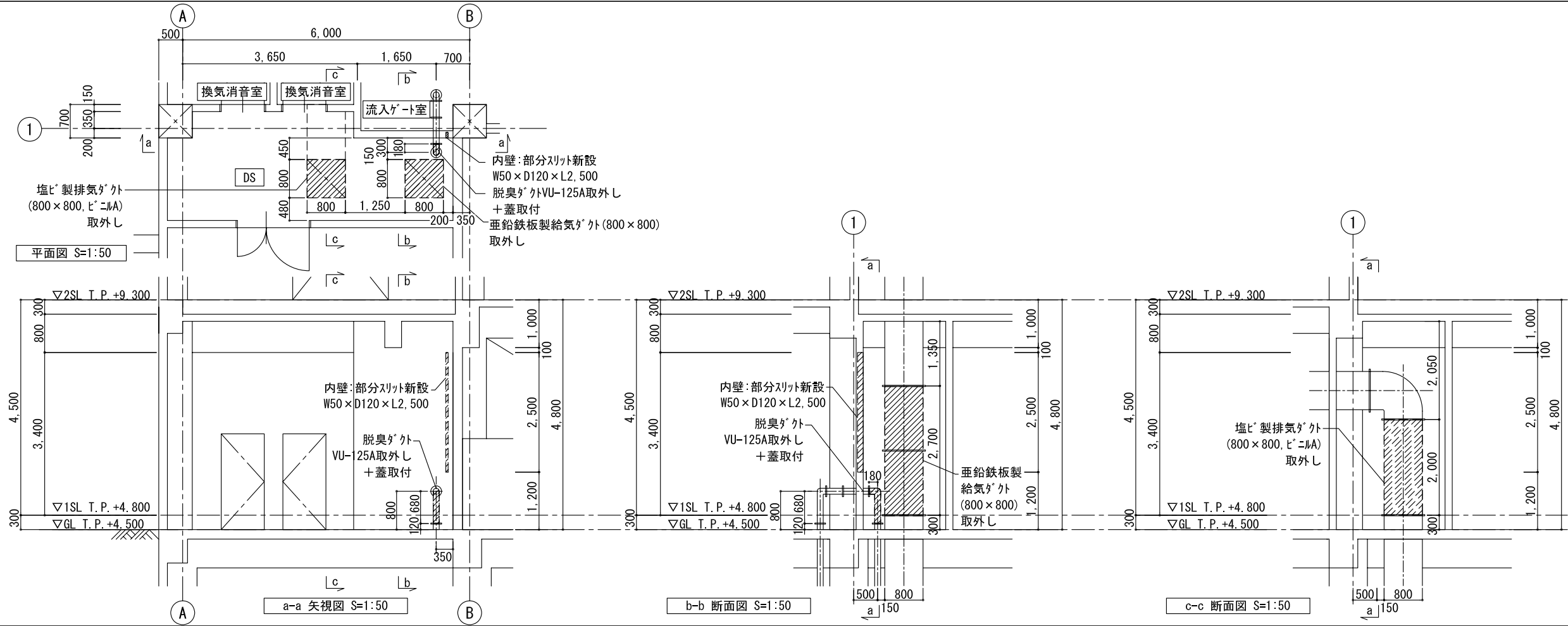
	改修工事前範囲
	改修工事後範囲
階数 0-0 部位番号 0	0:改修前
階数 0-0 部位番号 N	N:改修後
	カッター入れ

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 1階C通り 詳細図		
縮 尺	1:50	図 号	A-T7
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

改修前

改修後



注) 1. スリット部の鉄筋は全切断とする

凡例

	改修工事前範囲
	改修工事後範囲
階数 0-0 部位番号 0	0:改修前
階数 0-0 部位番号 N	N:改修後
	カッター入れ

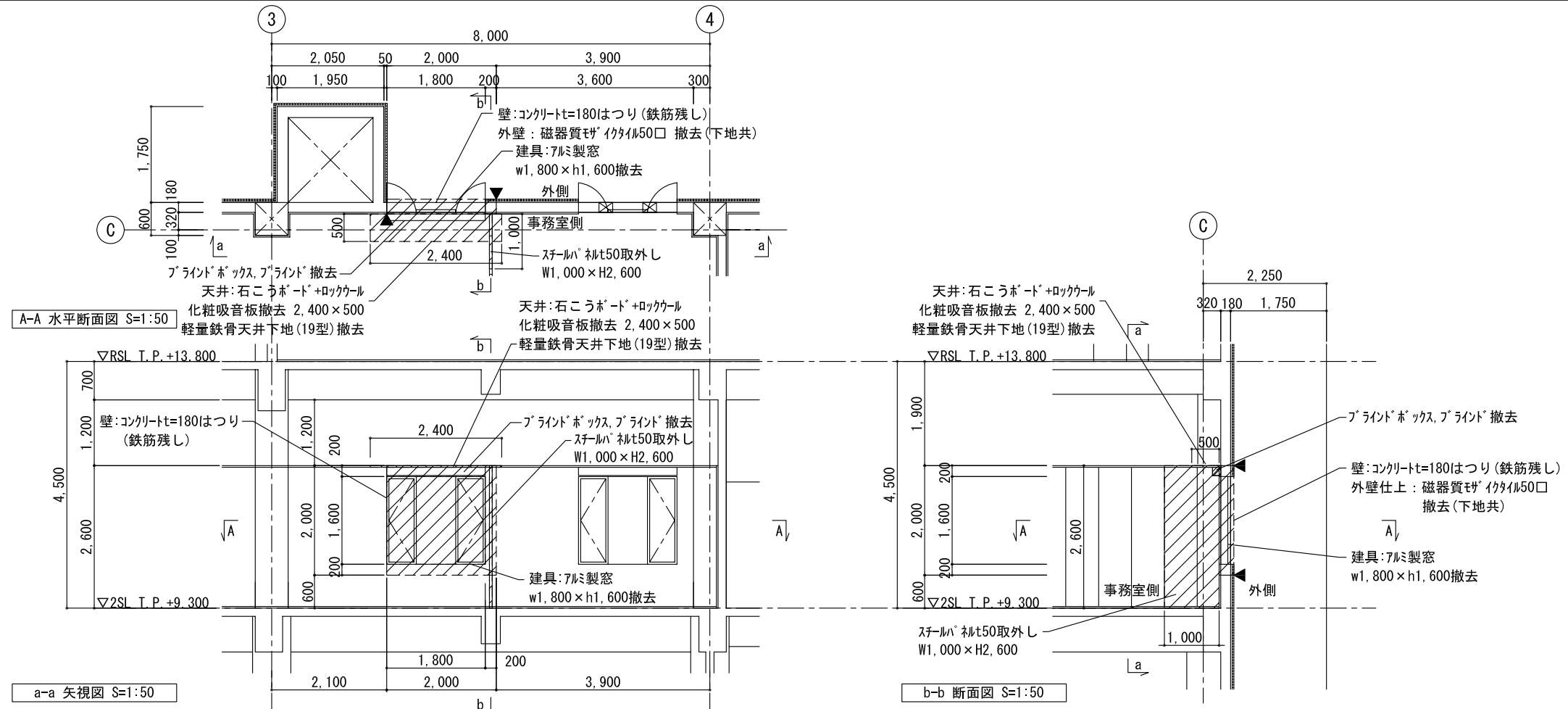
横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 1階1通り 詳細図		
縮 尺	1:50	図 面 号	A-T8
制 作 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

改修前

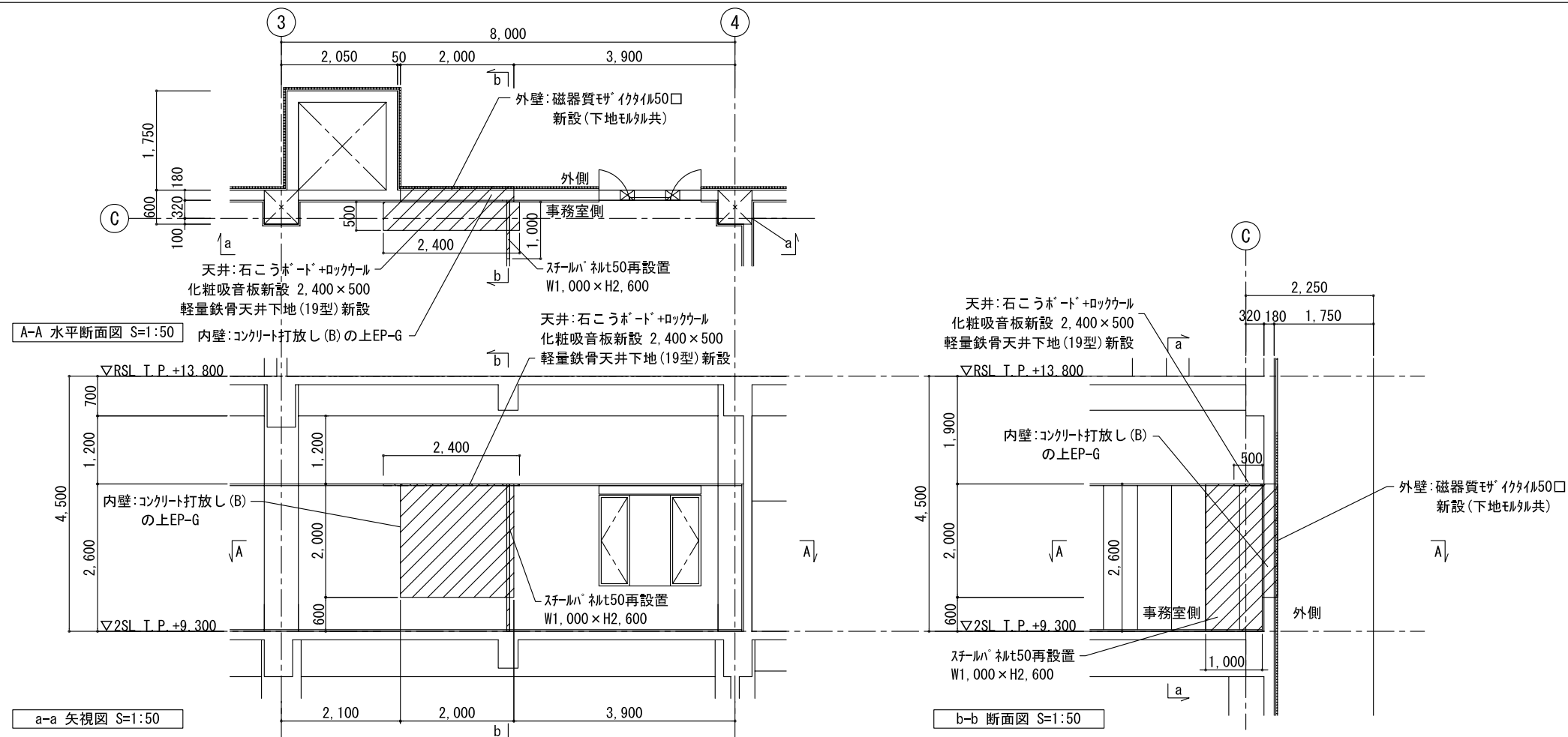
改修後



改修前



改修後

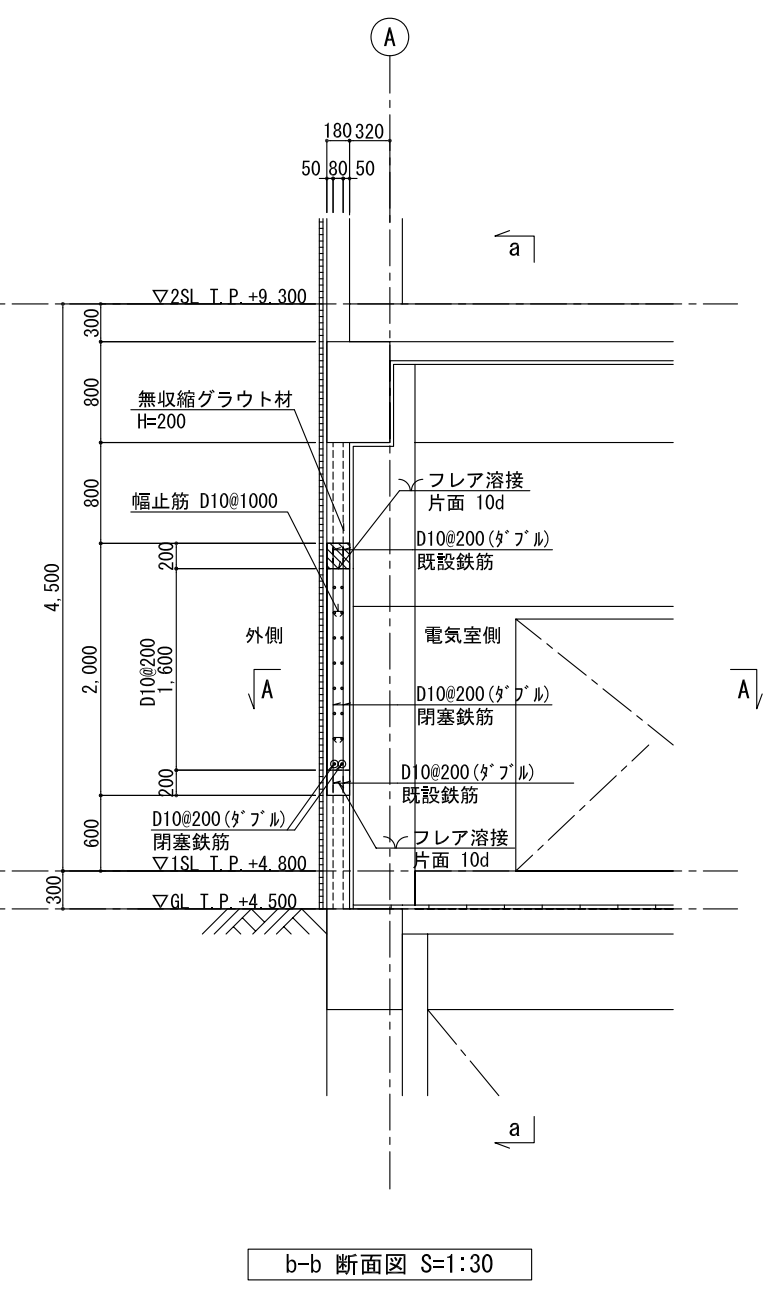
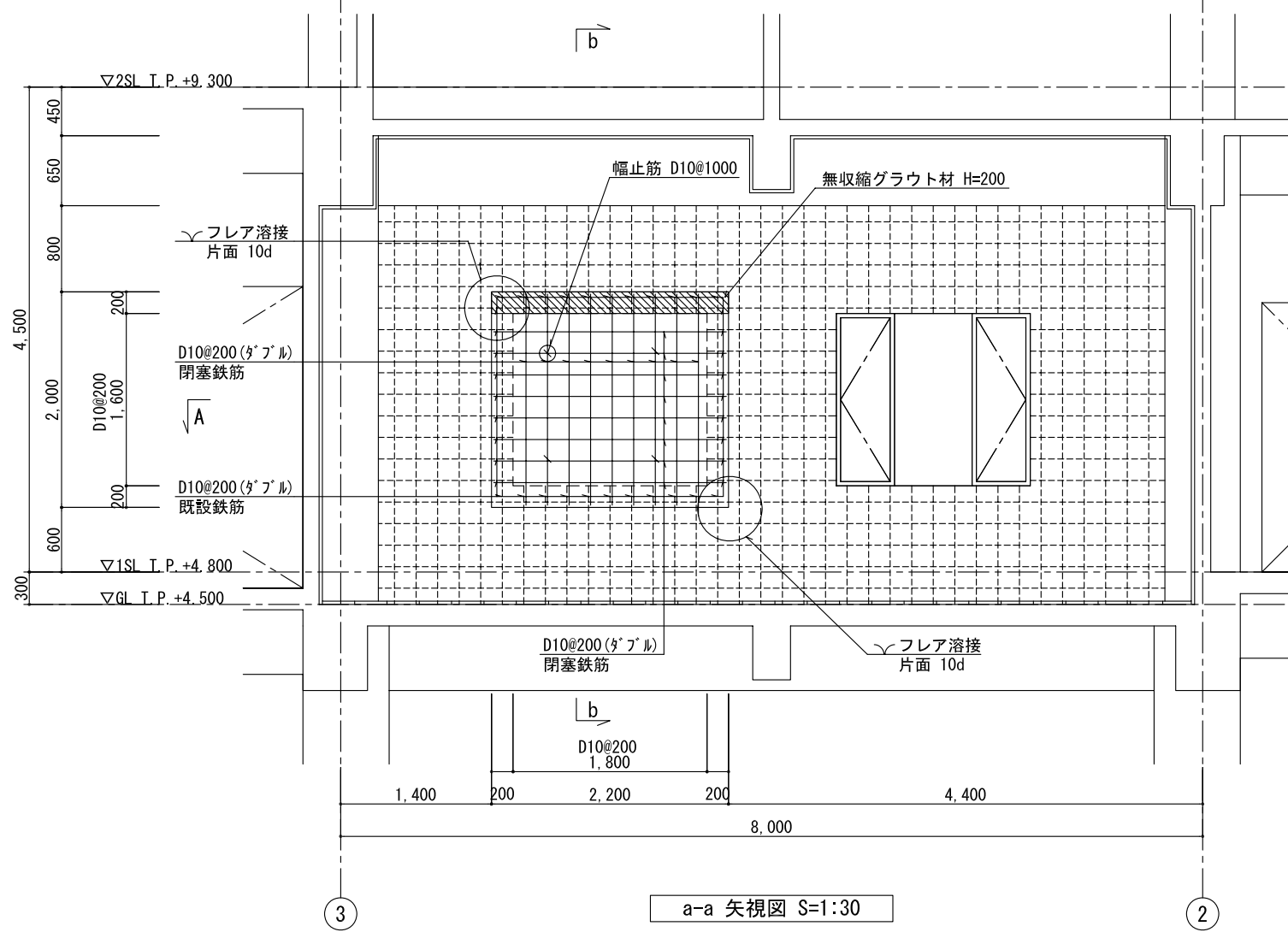
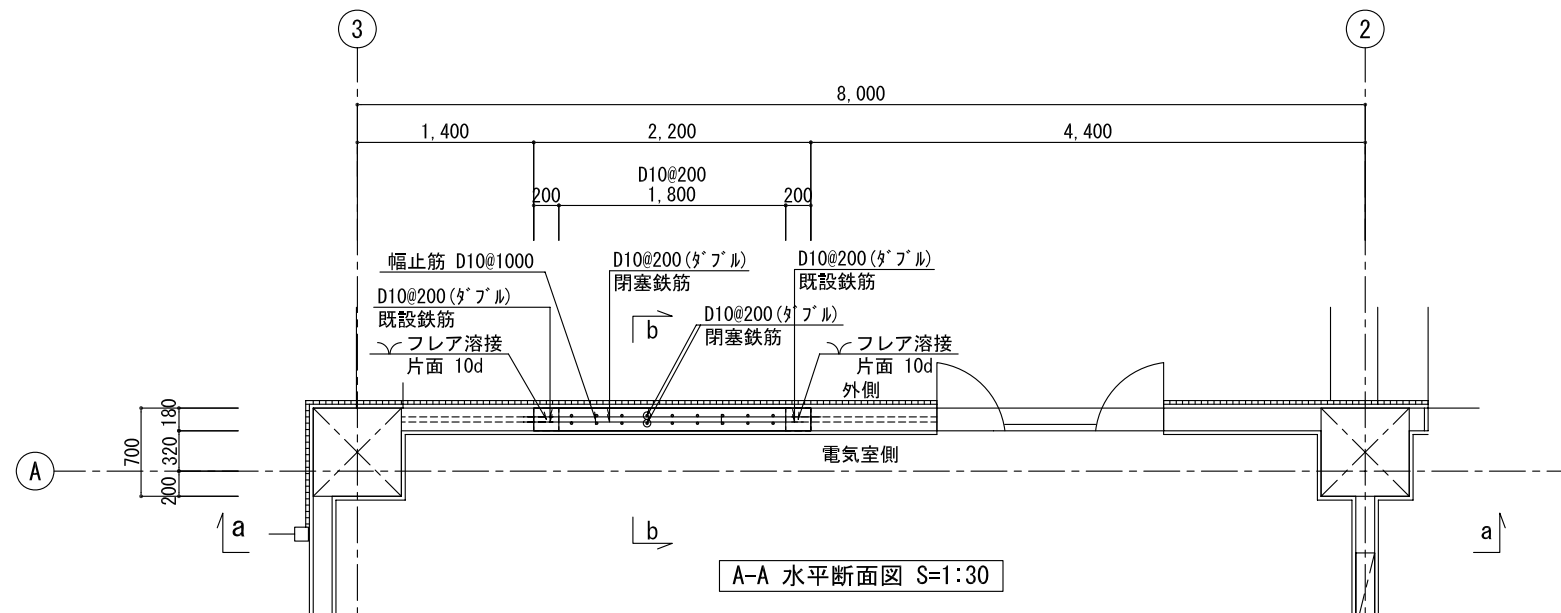
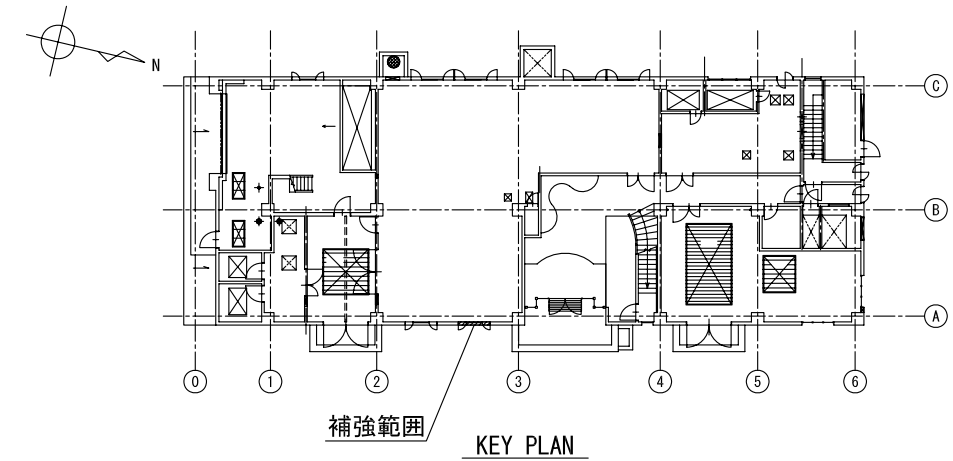


凡例

	改修工事前範囲
	改修工事後範囲
階数 0-0 部位番号 0	0:改修前
階数 0-0 部位番号 N	N:改修後
	カッター入れ

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(津久井P) 改修前・改修後 2階C通り 詳細図		
縮 尺	1:50	図 番 号	A-T9
制 作 月 日	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

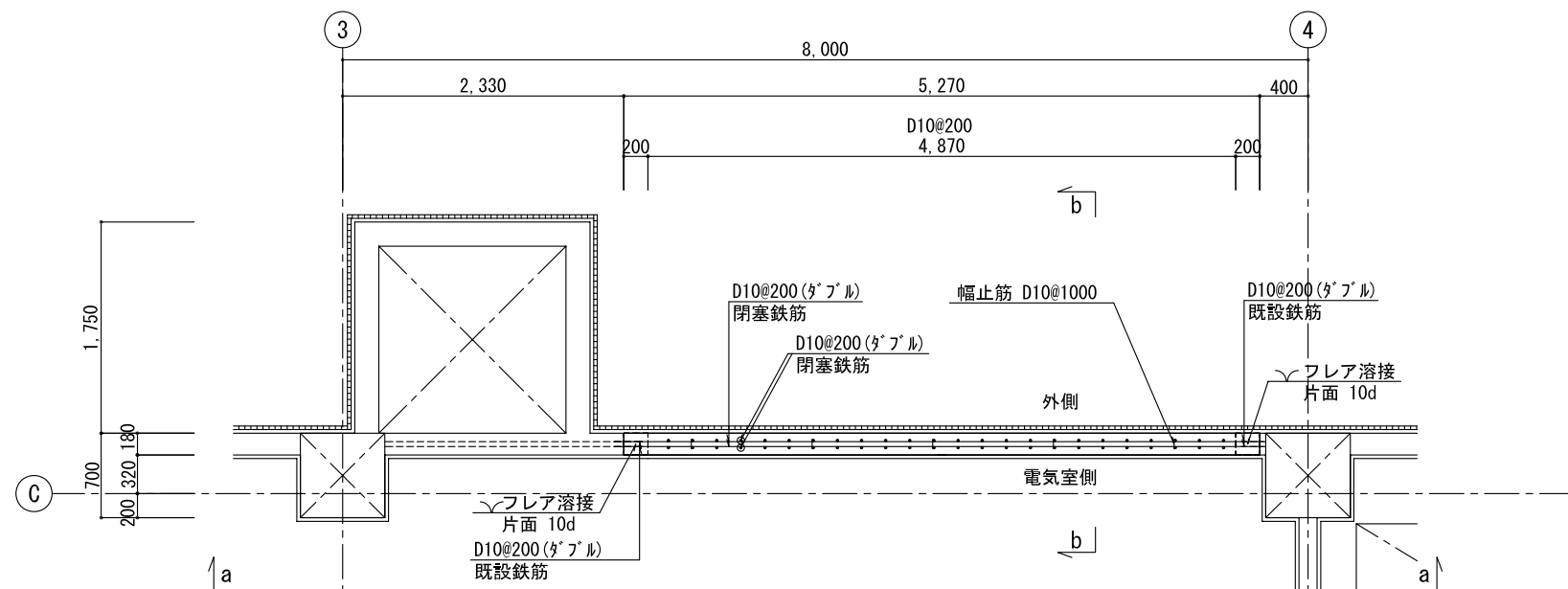
1階A通り 2-3間 壁 耐震補強配筋図 S=1:30



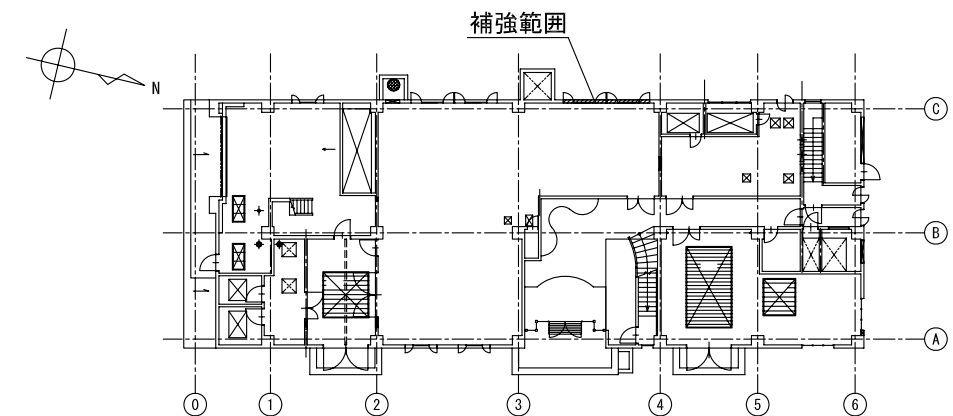
- 注) ・改修部の寸法は、現場測量後決定すること。  
 ・はつり範囲は、意匠図による。  
 ・鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上、行う。  
 ・鉄筋の継手は、フレア溶接を標準とする。  
 ・使用する鉄筋はSD295とする。

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(津久井P) 1階A通り 2-3間 壁 耐震補強配筋図			
縮 尺	1:30	図 番	A-T10	
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

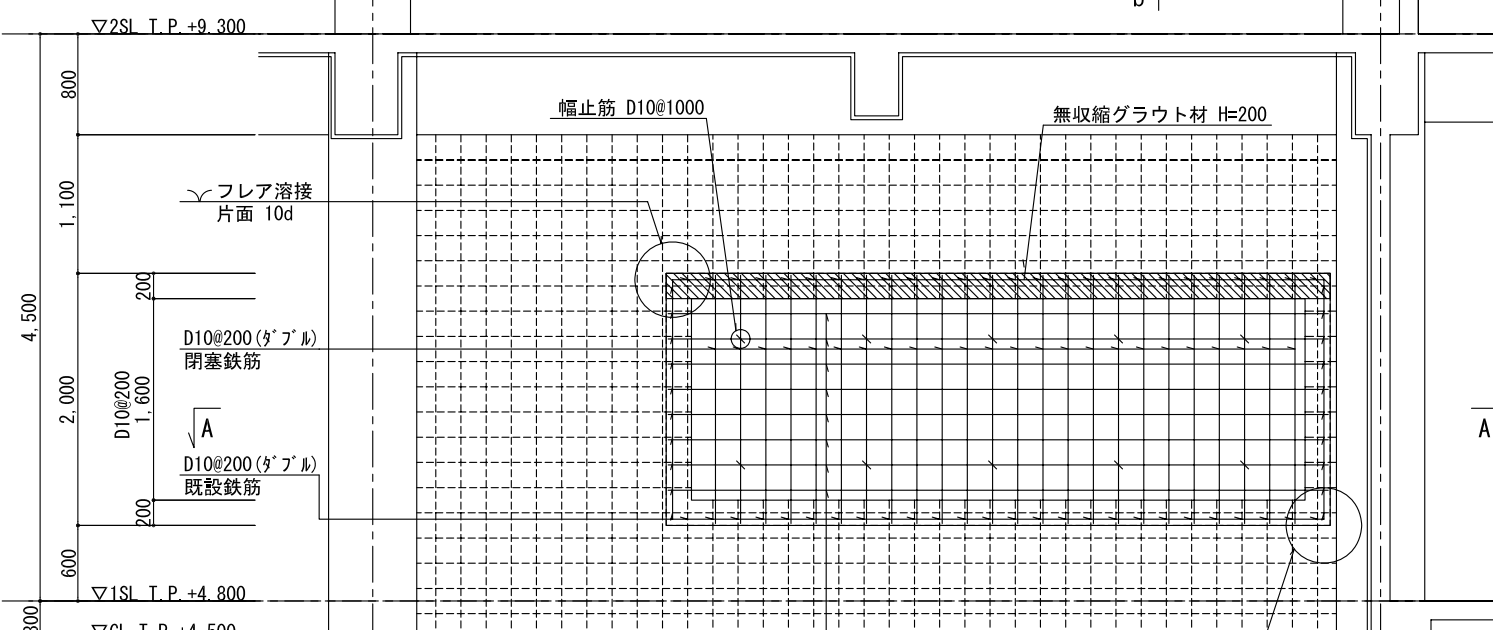
1階C通り 3-4間 壁 耐震補強配筋図 S=1:30



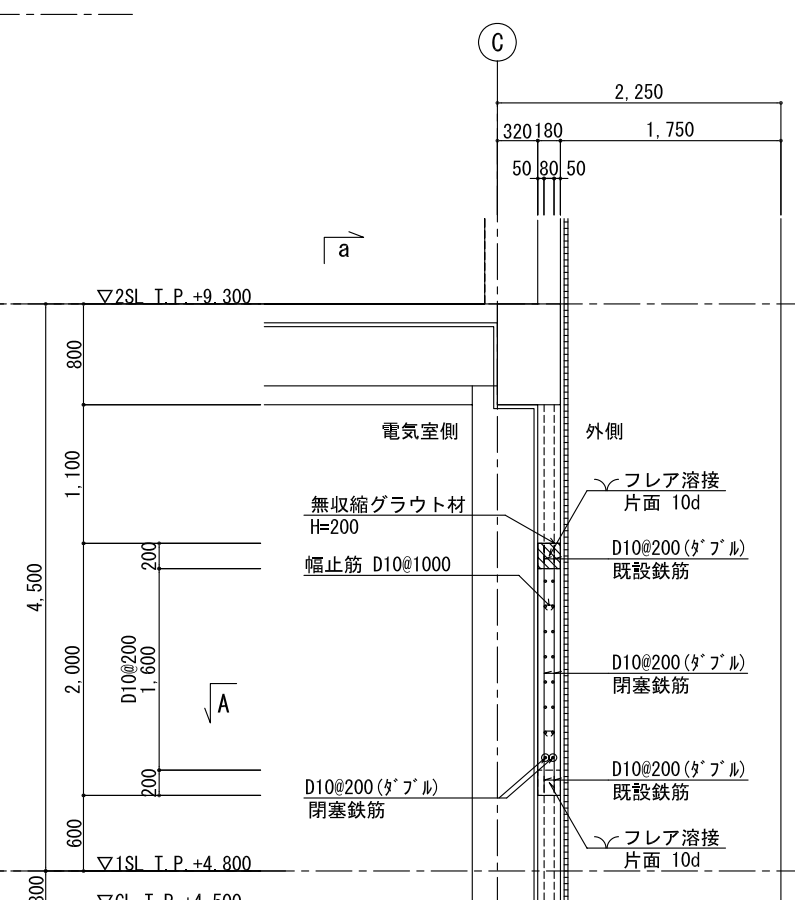
A-A 水平断面図 S=1:30



KEY PLAN



a-a 矢視図 S=1:30

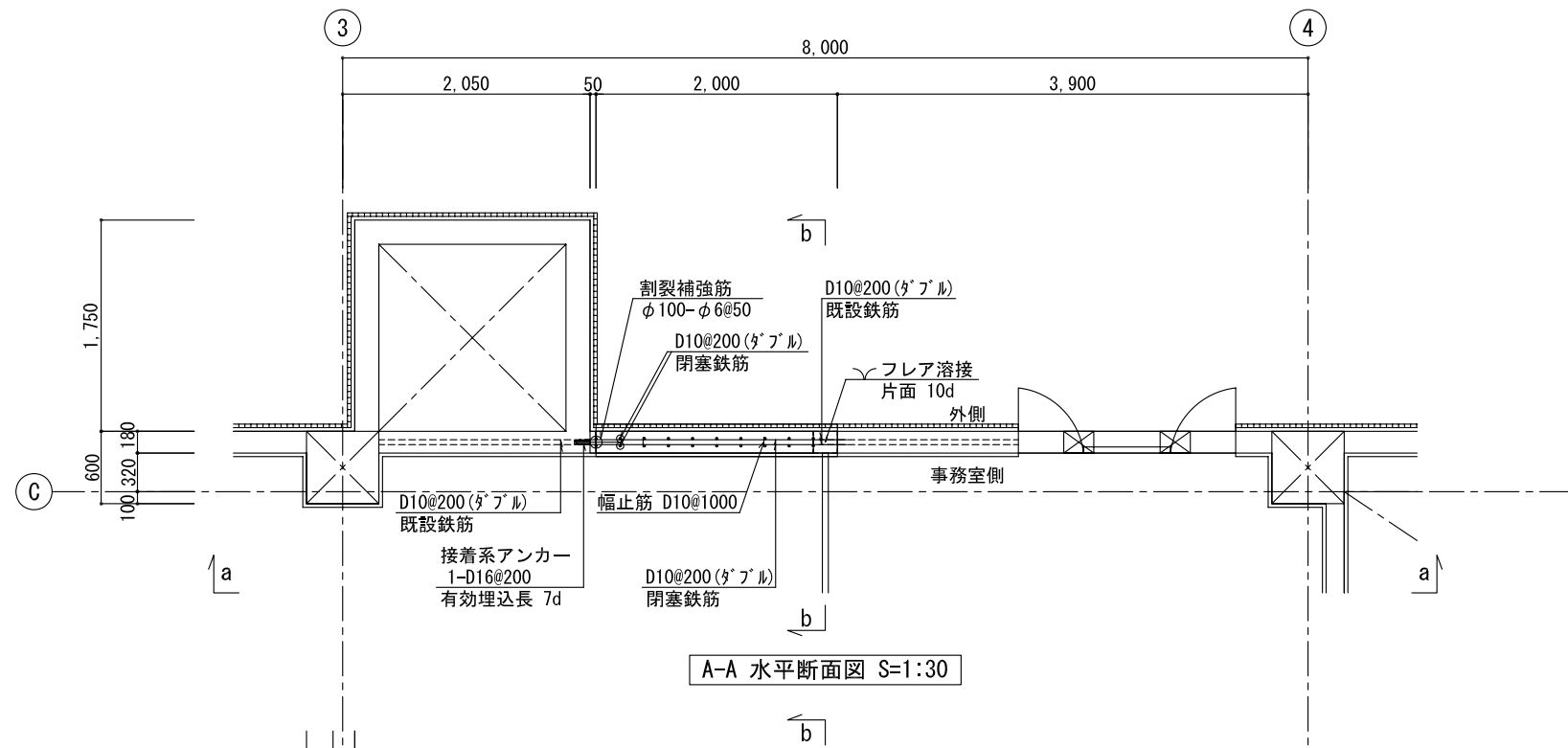


b-b 断面図 S=1:30

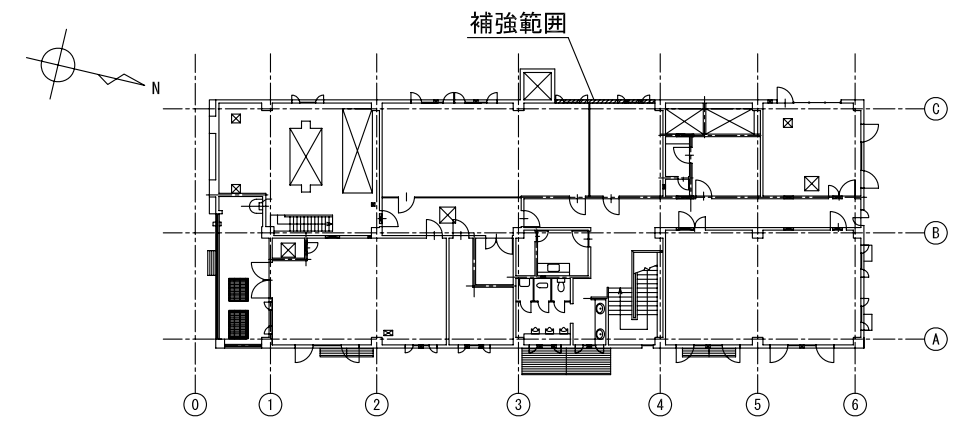
- 注)
- ・改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
  - ・はつり範囲は、意匠図による。
  - ・鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上、行う。
  - ・鉄筋の継手は、フレア溶接を標準とする。
  - ・使用する鉄筋はSD295とする。

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(津久井P) 1階C通り 3-4間 壁 耐震補強配筋図			
縮 尺	1:30	図 番	A-T11	面 号
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	監 査 者	

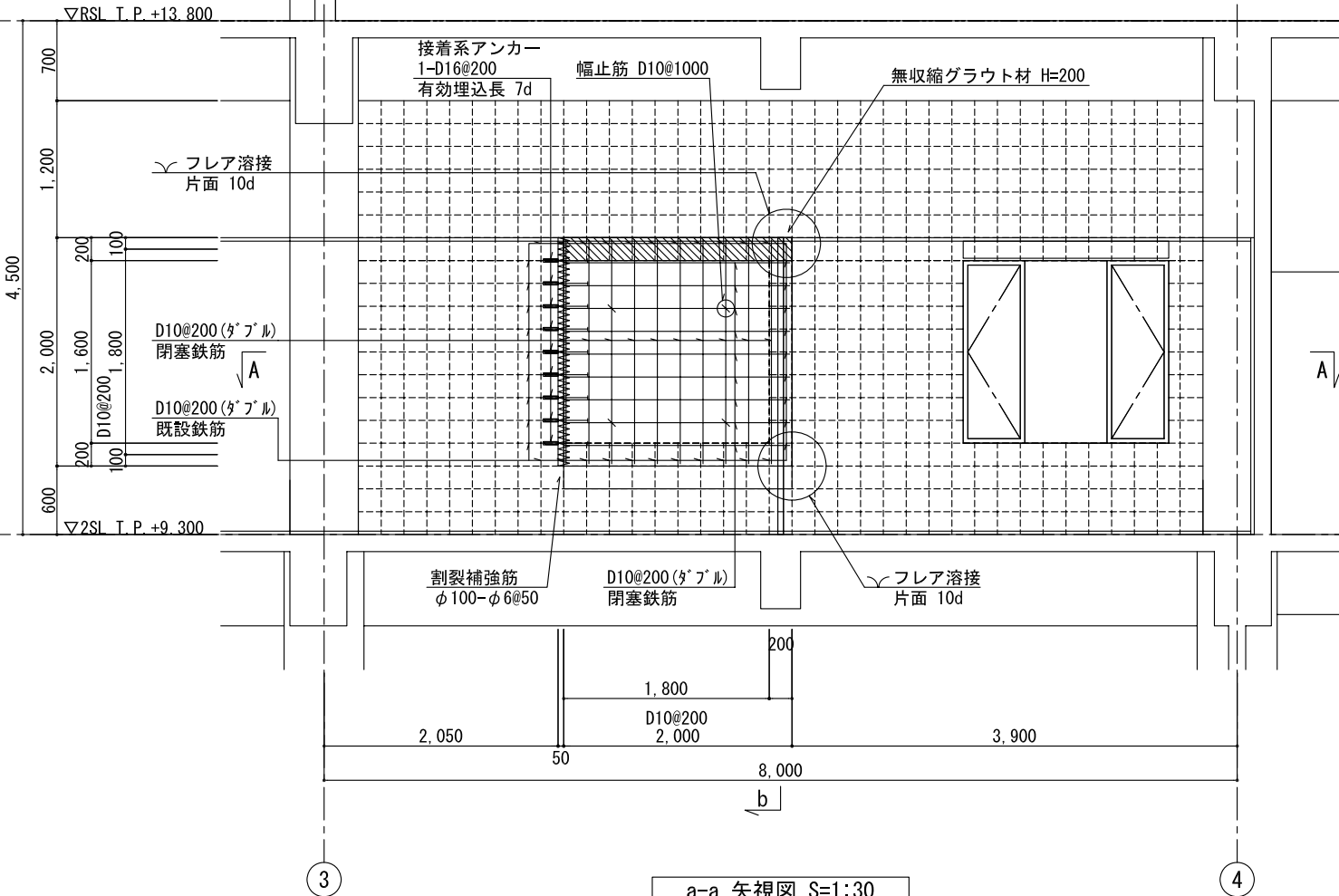
2階C通り 3-4間 壁 耐震補強配筋図 S=1:30



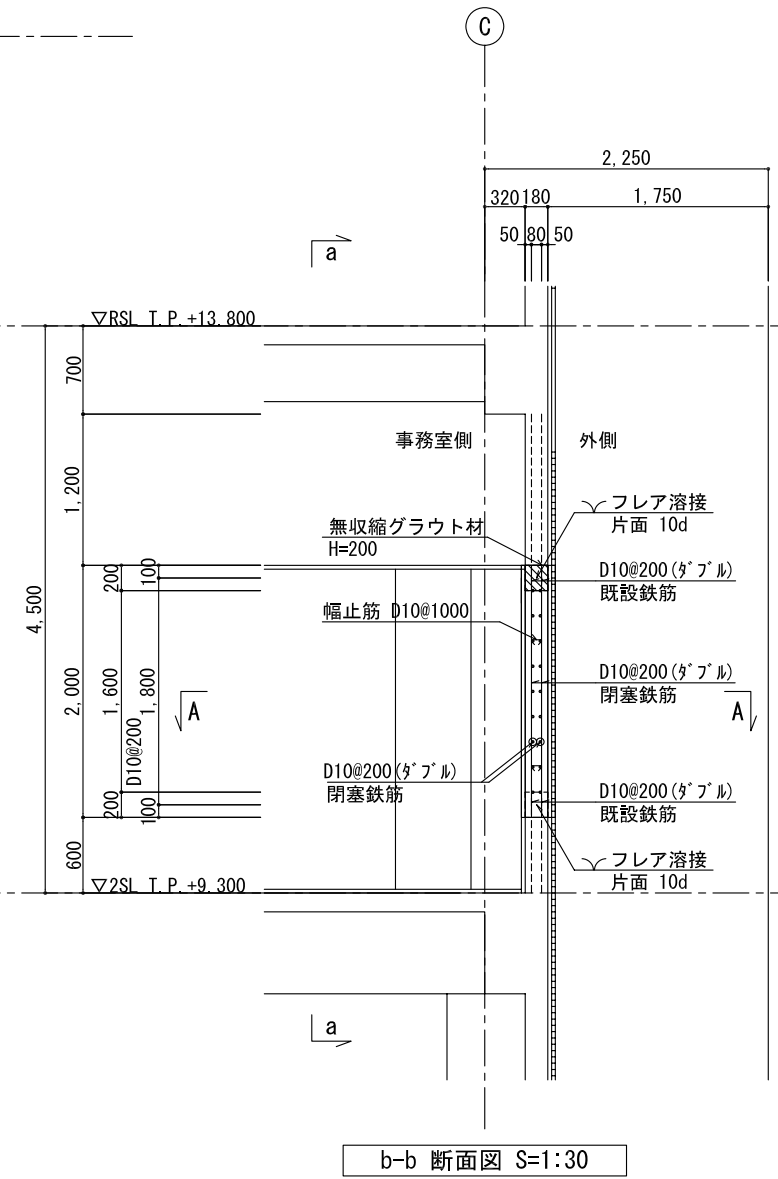
A-A 水平断面図 S=1:30



KEY PLAN



a-a 矢視図 S=1:30

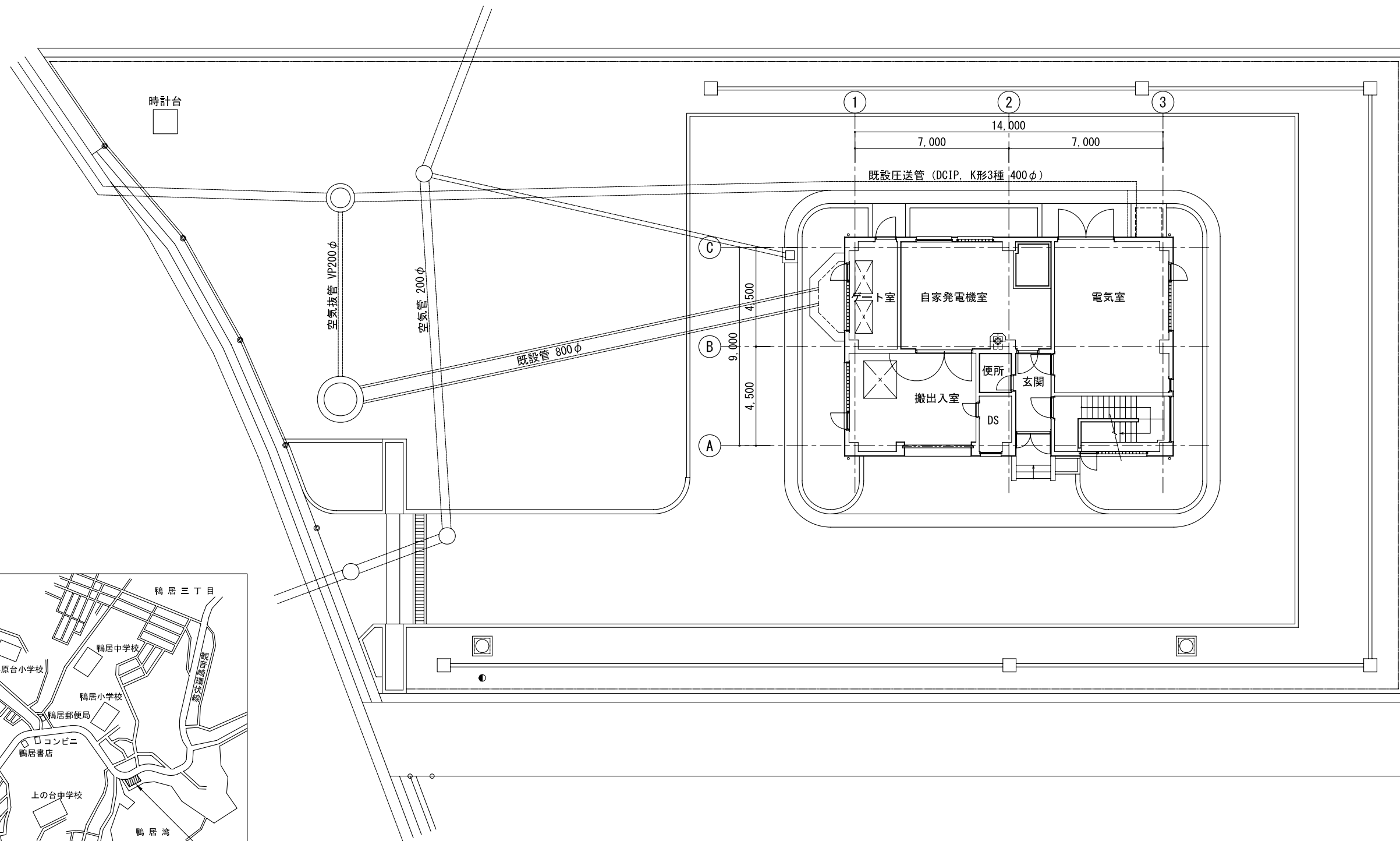
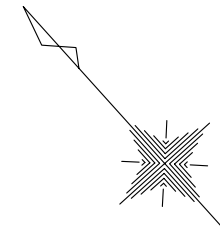


b-b 断面図 S=1:30

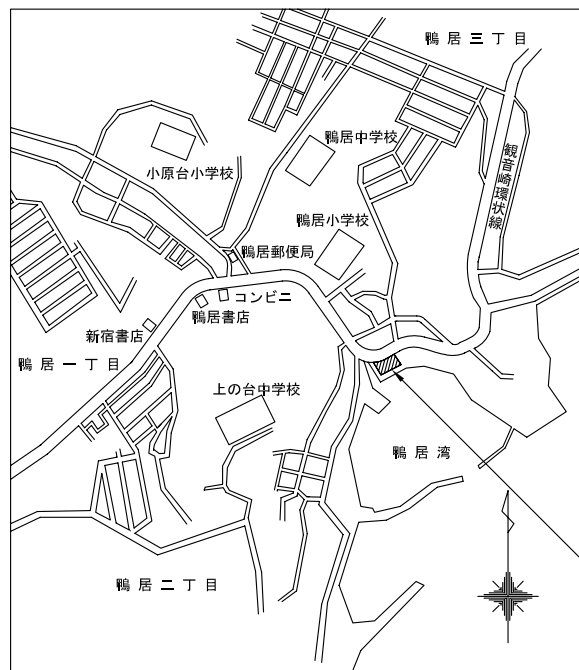
- 注) ・改修部の寸法は、現場測量後決定すること。  
 ・はつり範囲は、意匠図による。  
 ・鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上、行う。  
 ・鉄筋の継手は、フレア溶接を標準とする。  
 ・使用する鉄筋はSD295とする。

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(津久井P) 2階C通り 3-4間 壁 耐震補強配筋図			
縮 尺	1:30	図 番	A-T12	
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

(鴨居ポンプ場)



一般平面図 S=1:100

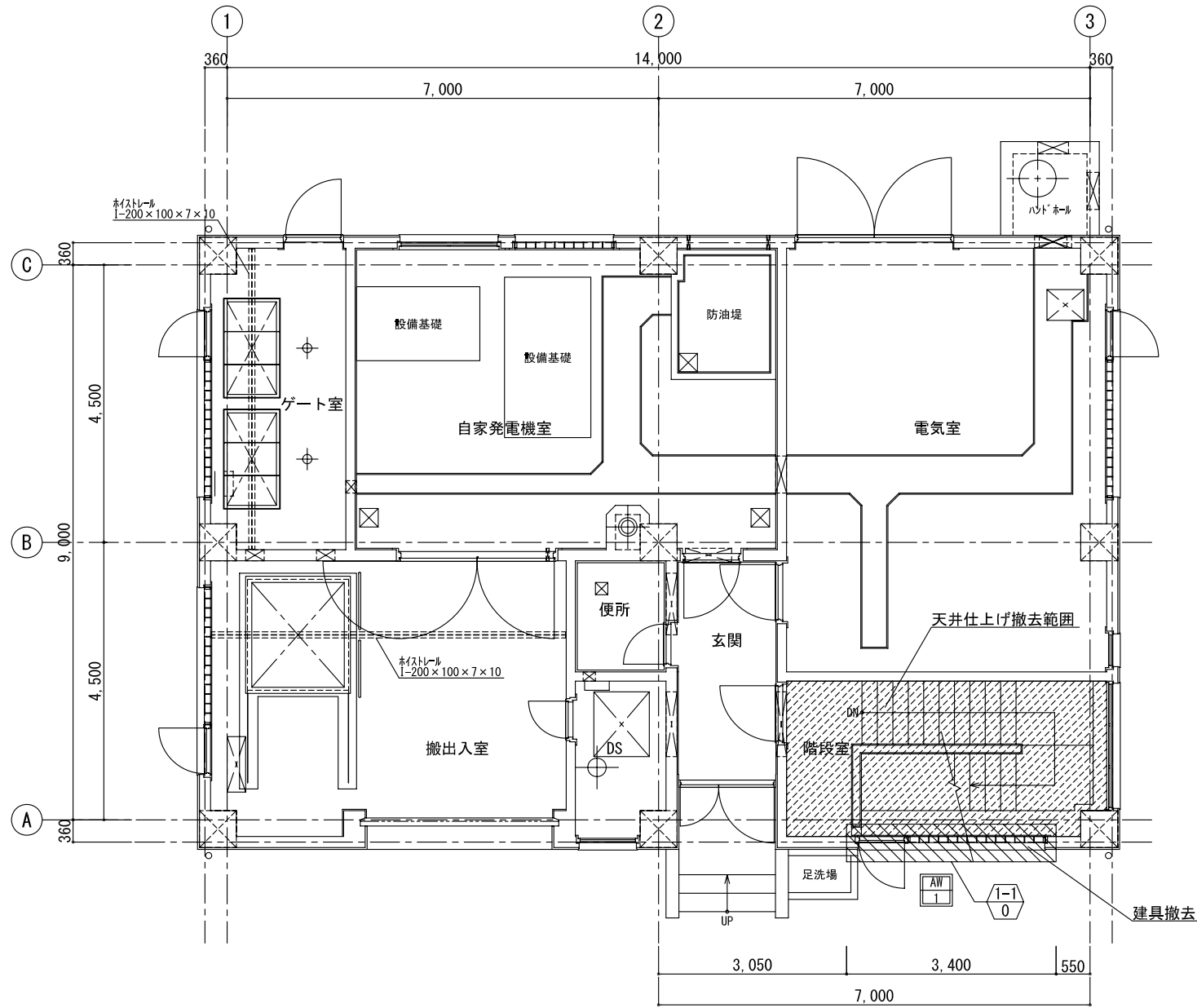


案内図

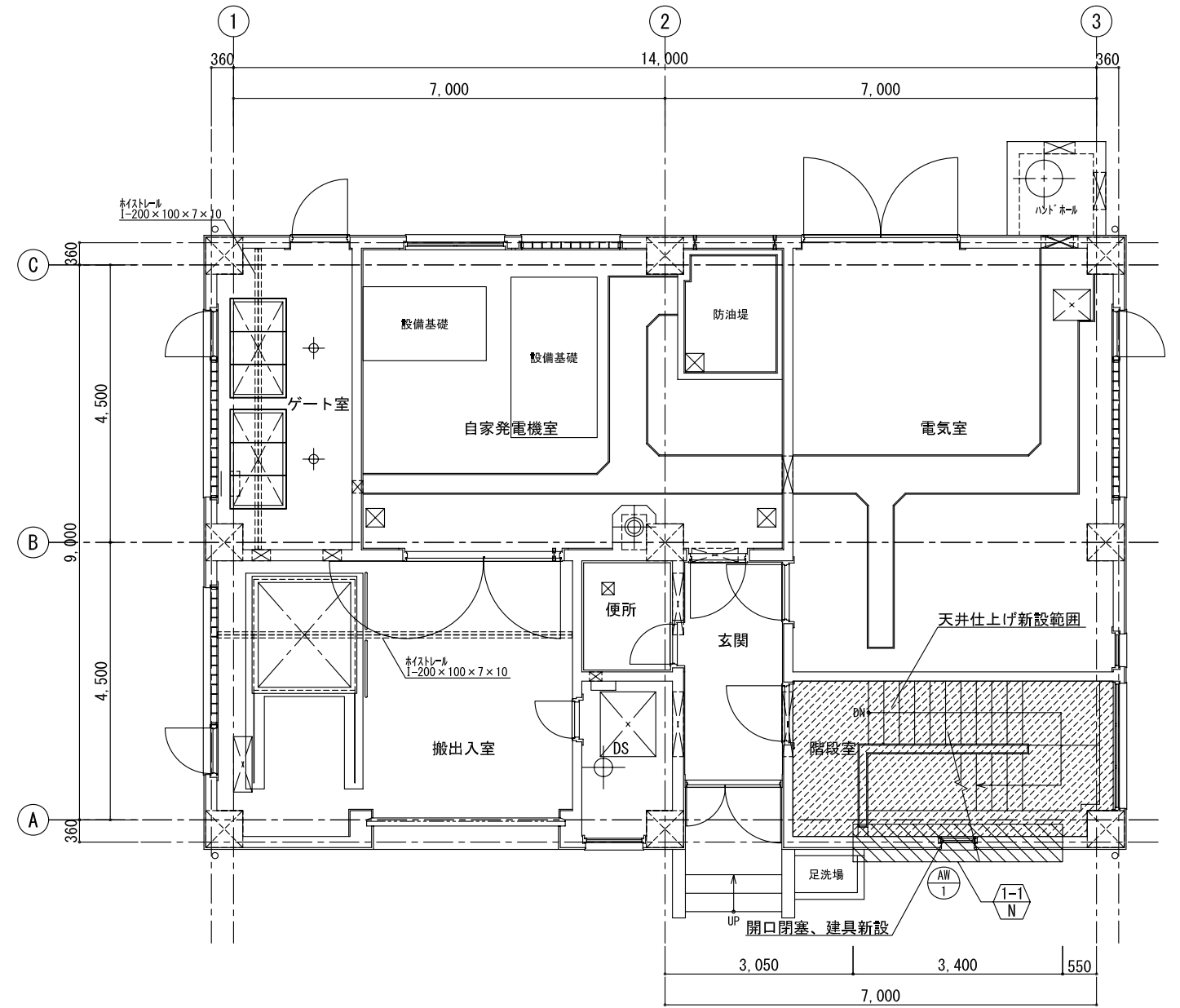
鴨居ポンプ場  
横須賀市鴨居2丁目595番地2

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(鴨居P) 一般平面図・案内図			
縮 尺	1:100	図 番	A-K1	
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

改修前・改修後 1階 補強範囲図 S=1:50

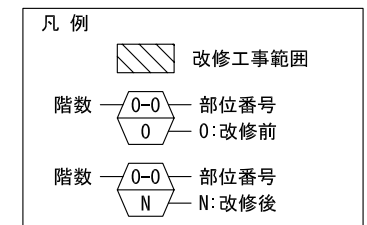


改修前 1階 平面図 S=1:50

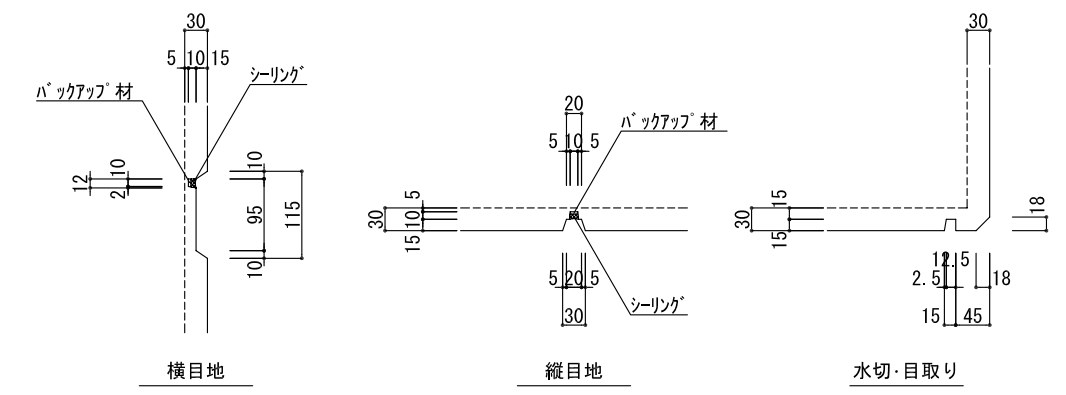
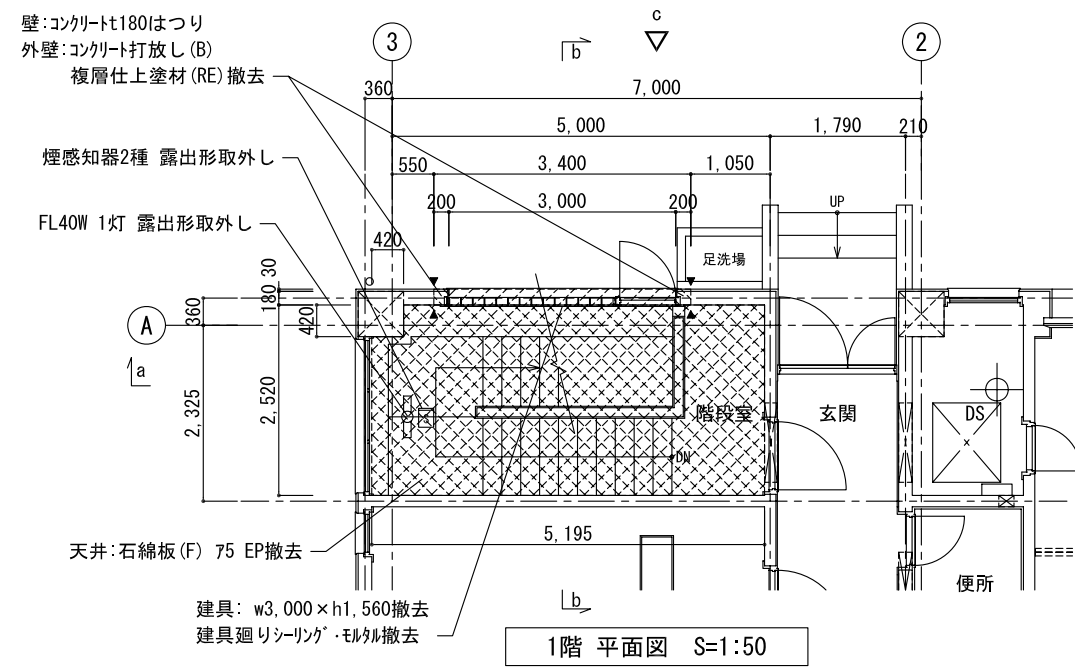


改修後 1階 平面図 S=1:50

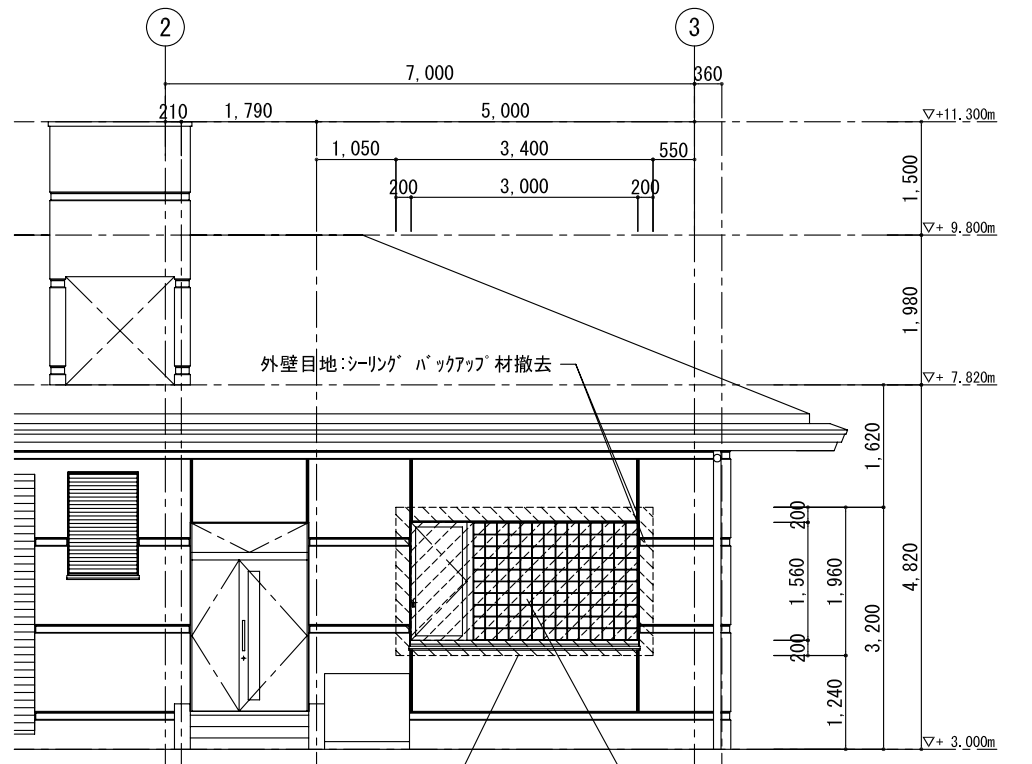
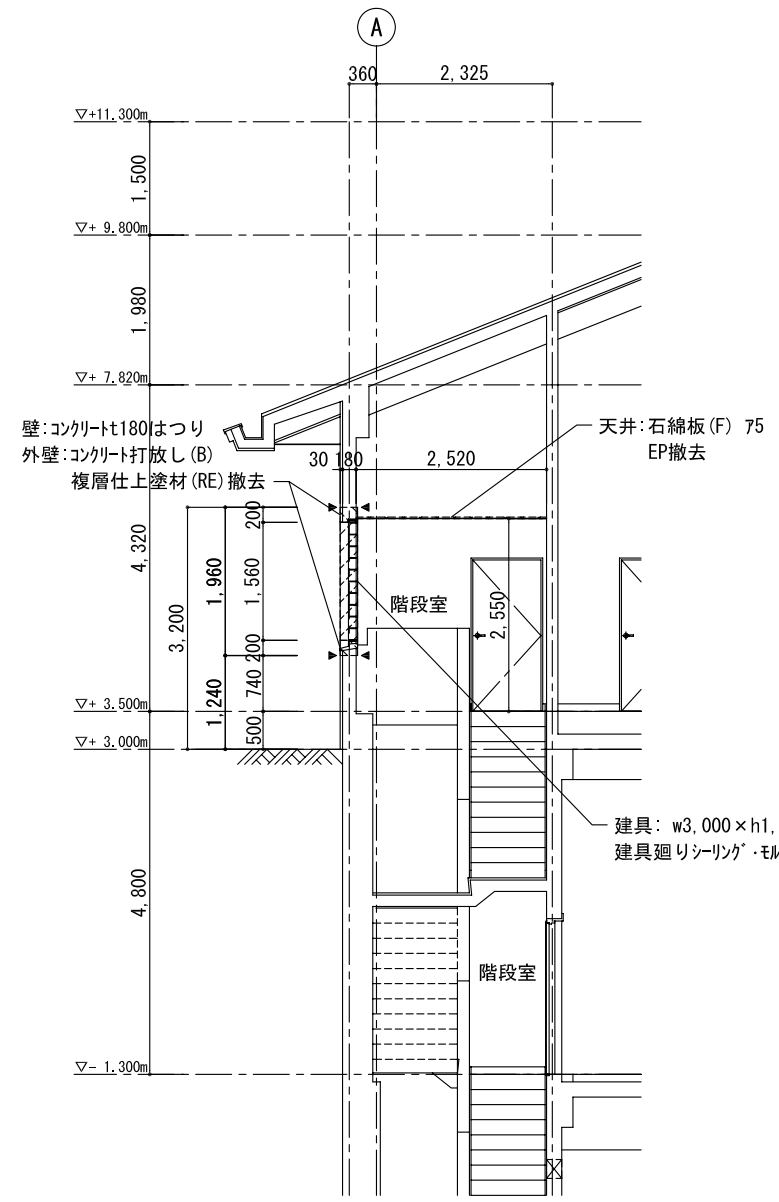
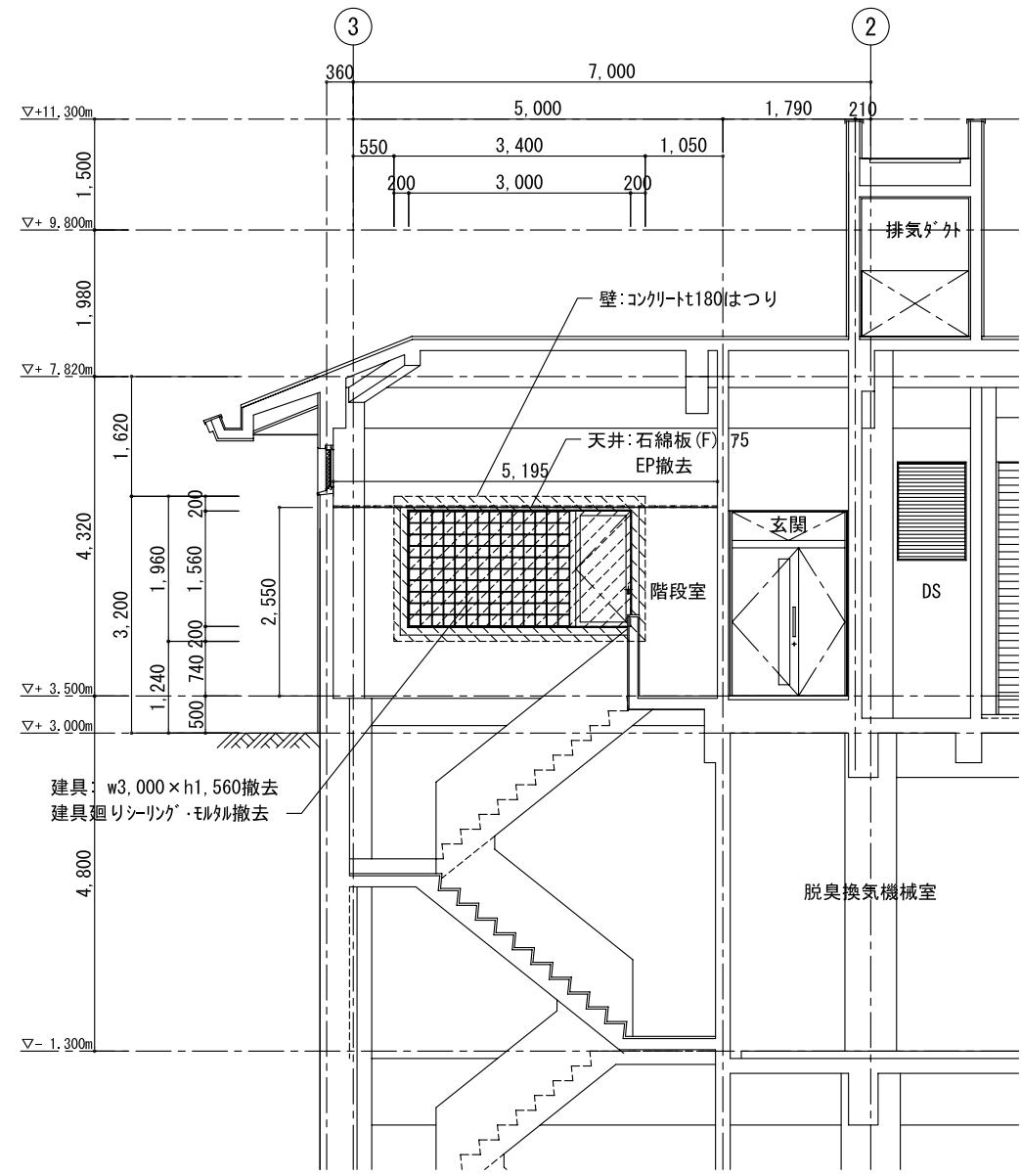
建具 リスト	撤去	新設
符号・名称・個数	アルミ製片開き窓 ガラスブロック窓 1	アルミ製FIX窓 1
姿 図		
仕上 (枠共)	電解着色皮膜	B-2
建具	枠見込・扉見込 100 ガラス・ガラリ NP 76.8 ガラスブロック145×145	70 カラーアルミ額縁 膳板 二重皿板 NP 76.8
特記事項	片開き一式	



横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(鶴居P) 改修前・改修後 1階 補強範囲図		
縮 尺	1:50	図 番	A-K2
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	監 査 者

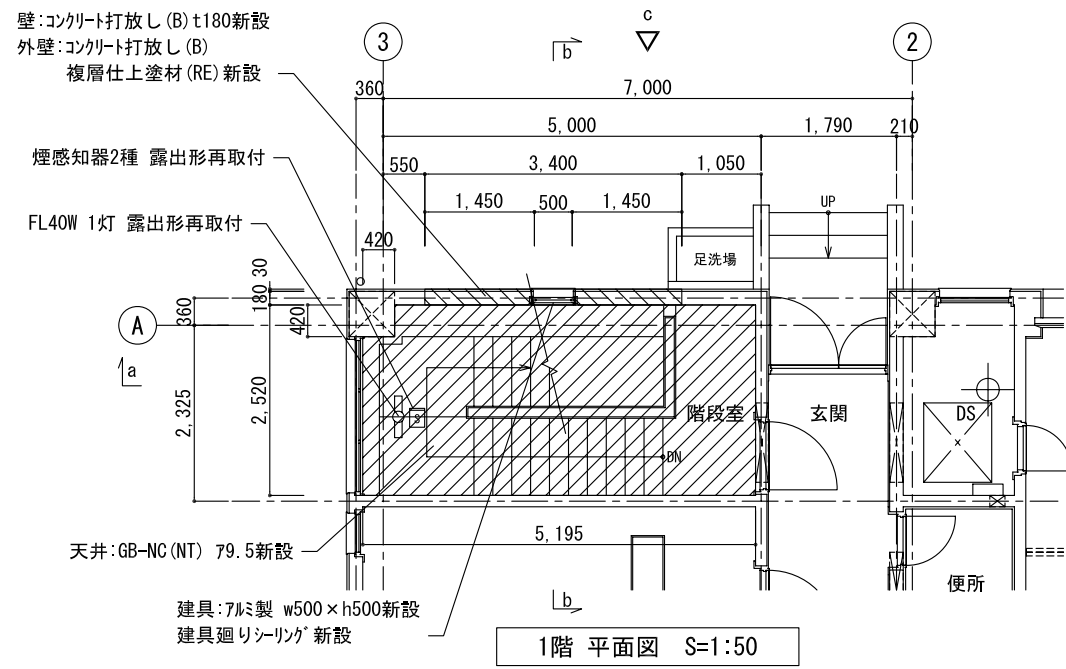


改修前

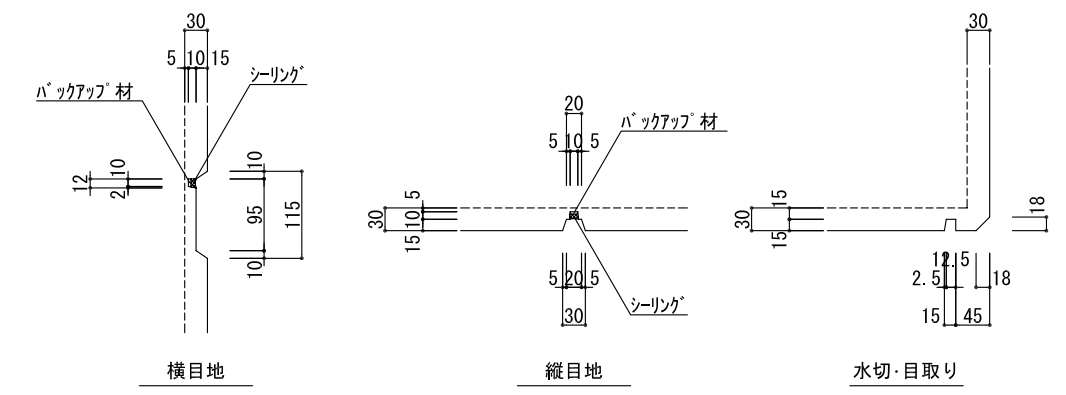


凡例 ▶ カッター入れ

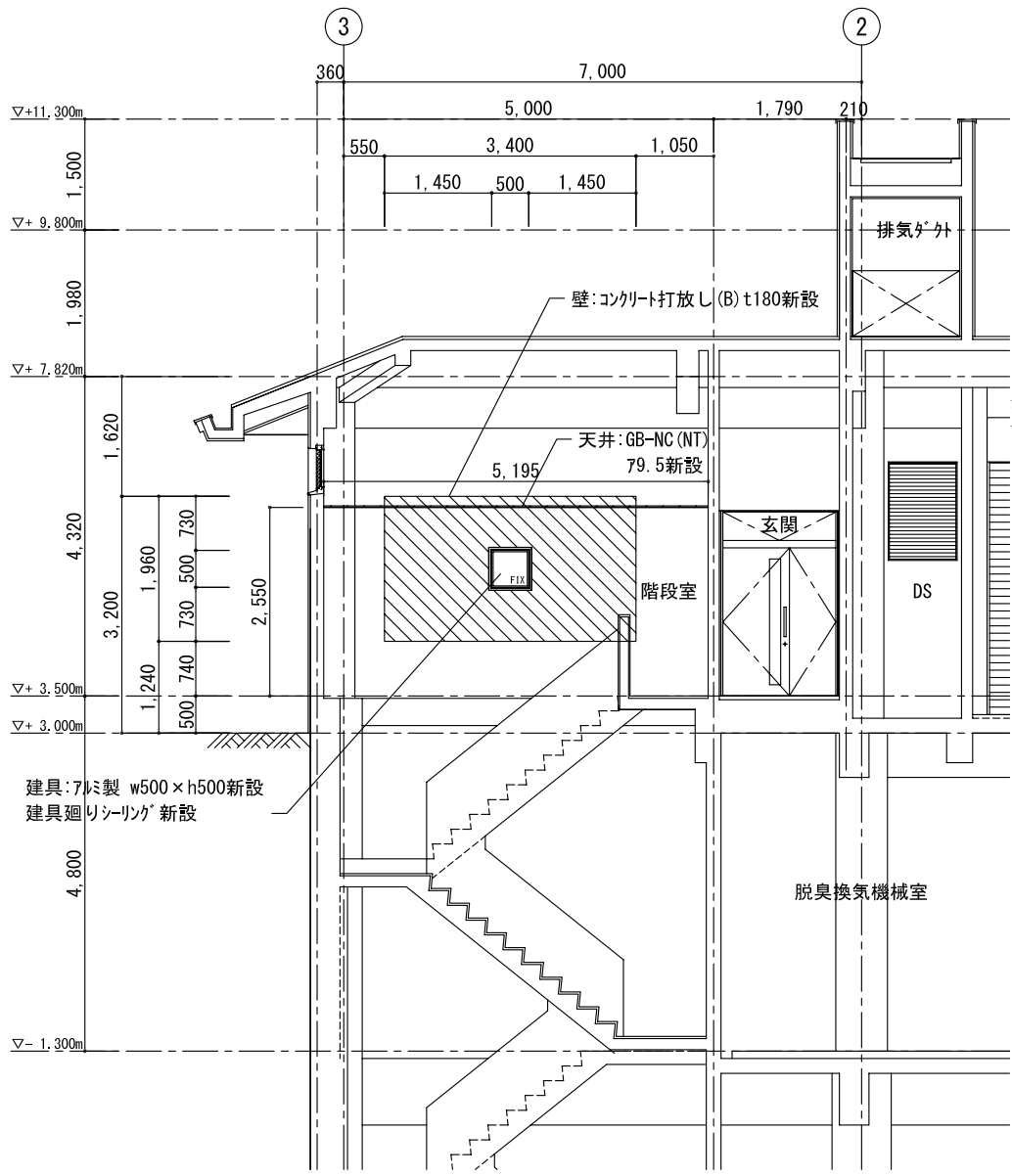
横須賀市上下水道局				
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面名称	(鴨居P) 改修前 1階 詳細図			
縮尺	1:50/1:5	図番	A-K3	
制作年	平成 30年 7月 日			
課長	係長	担当者	監査者	



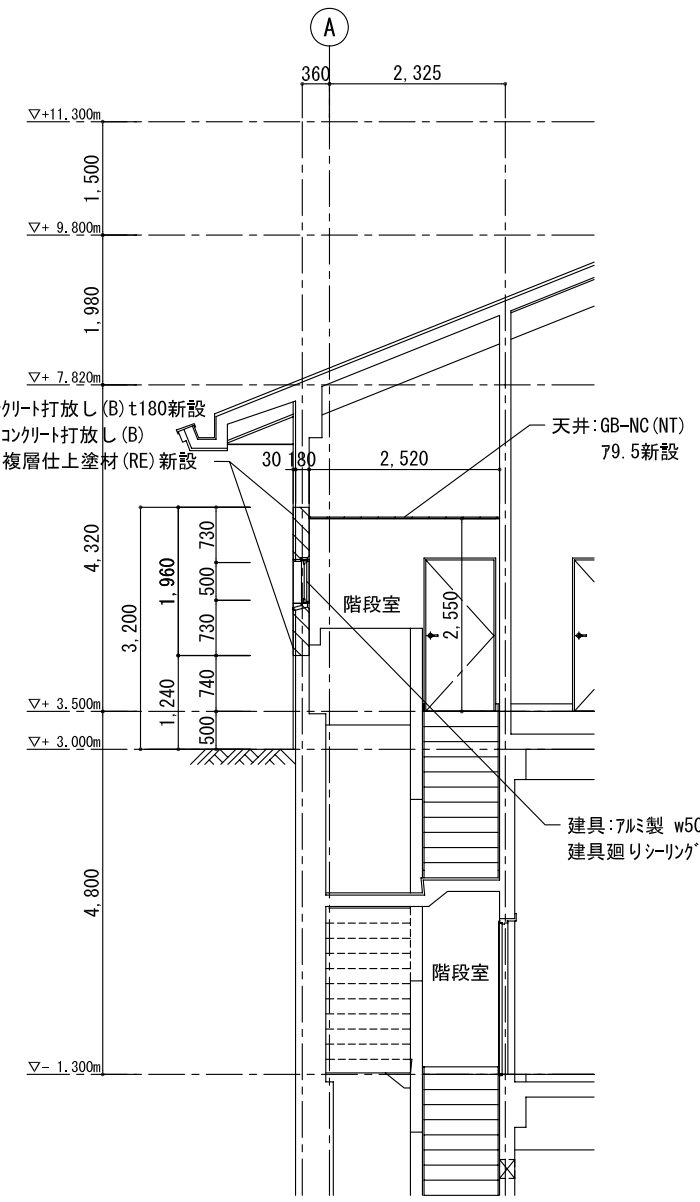
1階 平面図 S=1:50



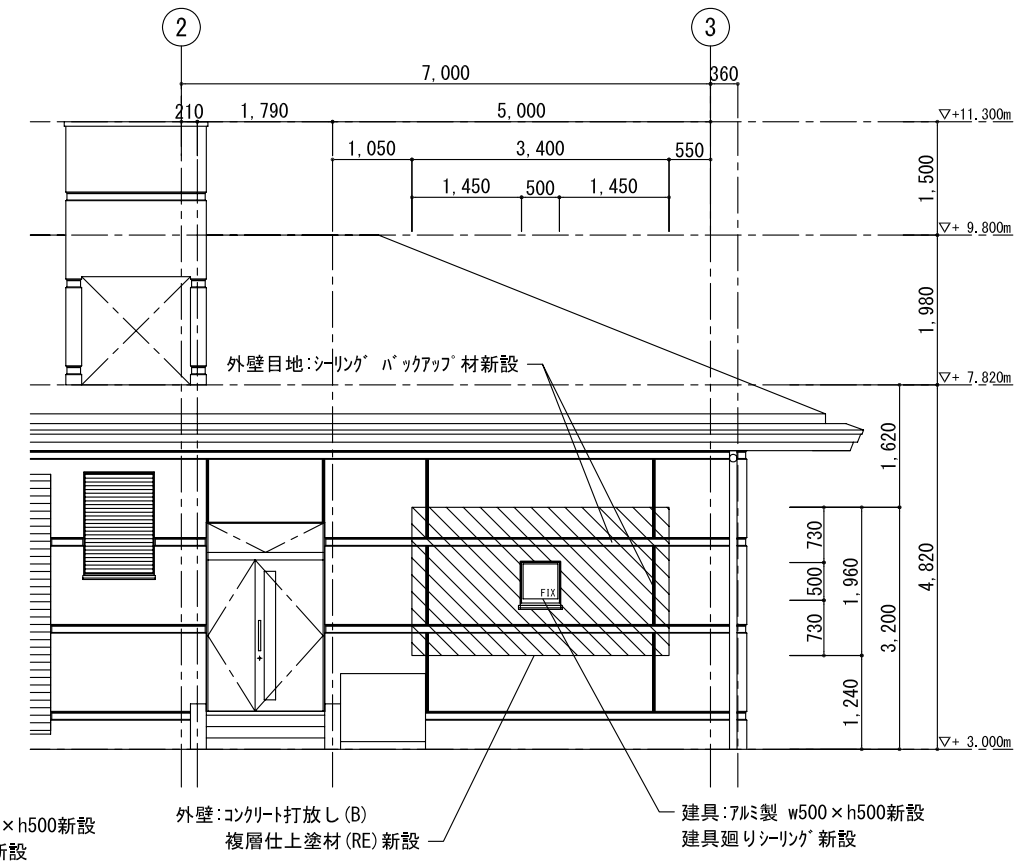
外壁目地 詳細図 S=1:5



a-a 断面図 S=1:50



b-b 断面図 S=1:50



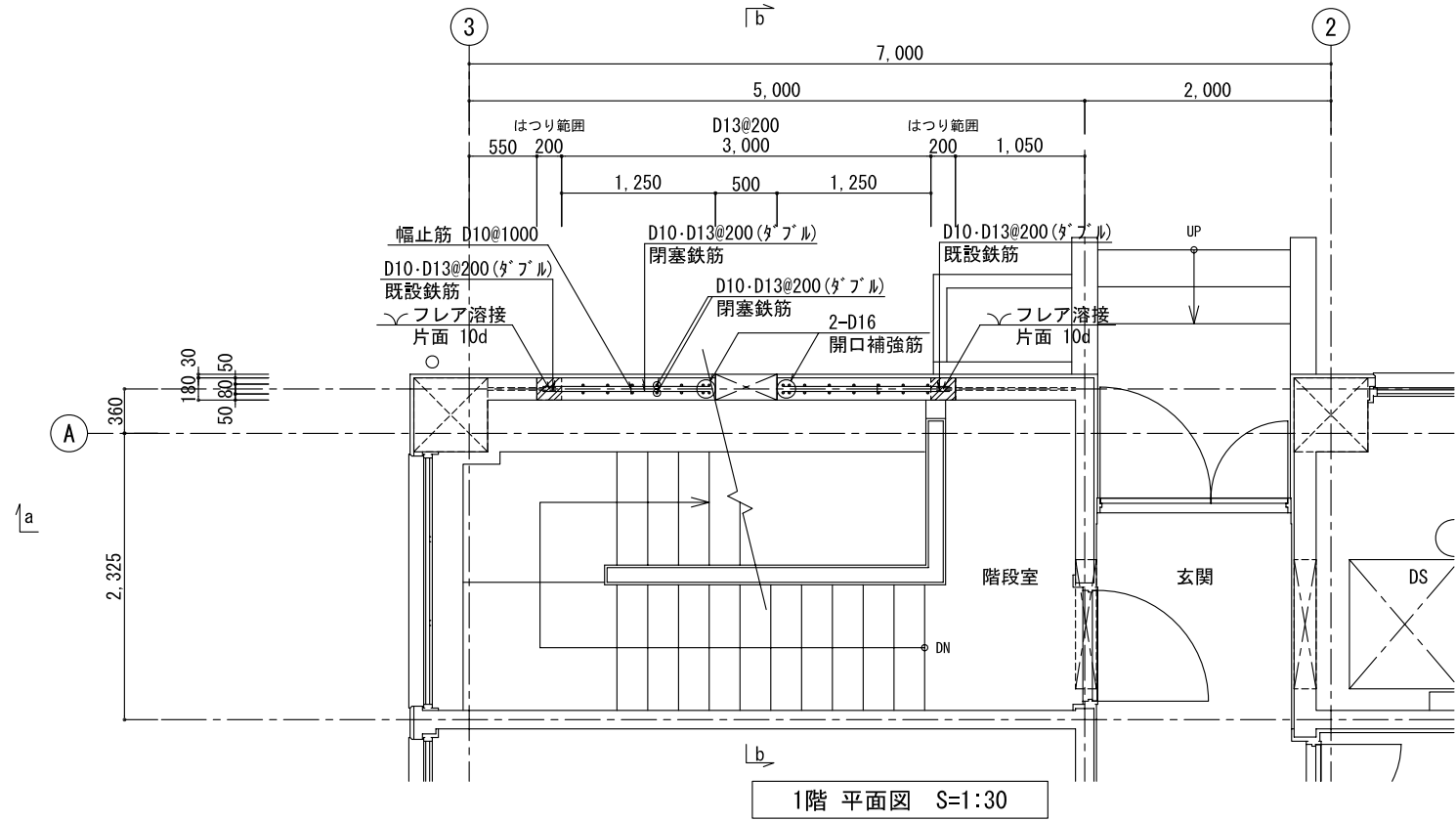
c面 立面図 S=1:50

改修後

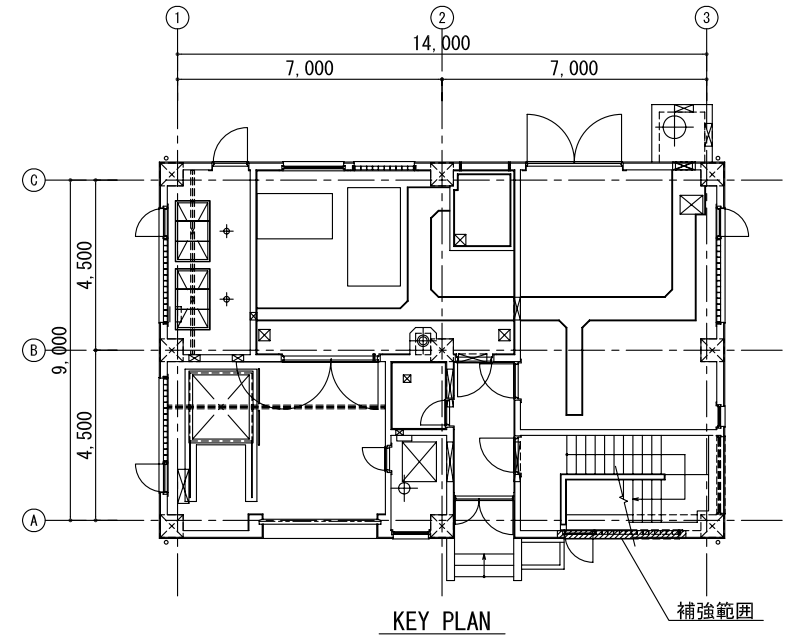
横須賀市上下水道局				
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面名称	(鴨居P) 改修後 1階 詳細図			
縮尺	1:50/1:5	図番	A-K4	
制作年	平成 30 年 7 月 日			
課長	係長	担当者	製図者	



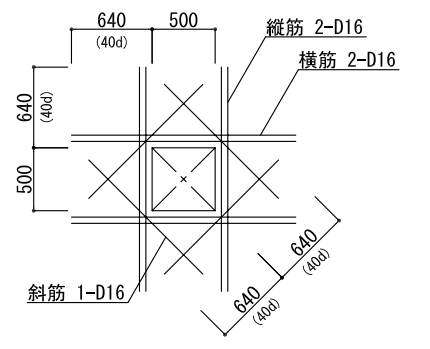
1階 A通 2-3間 詳細図 (開口縮小)



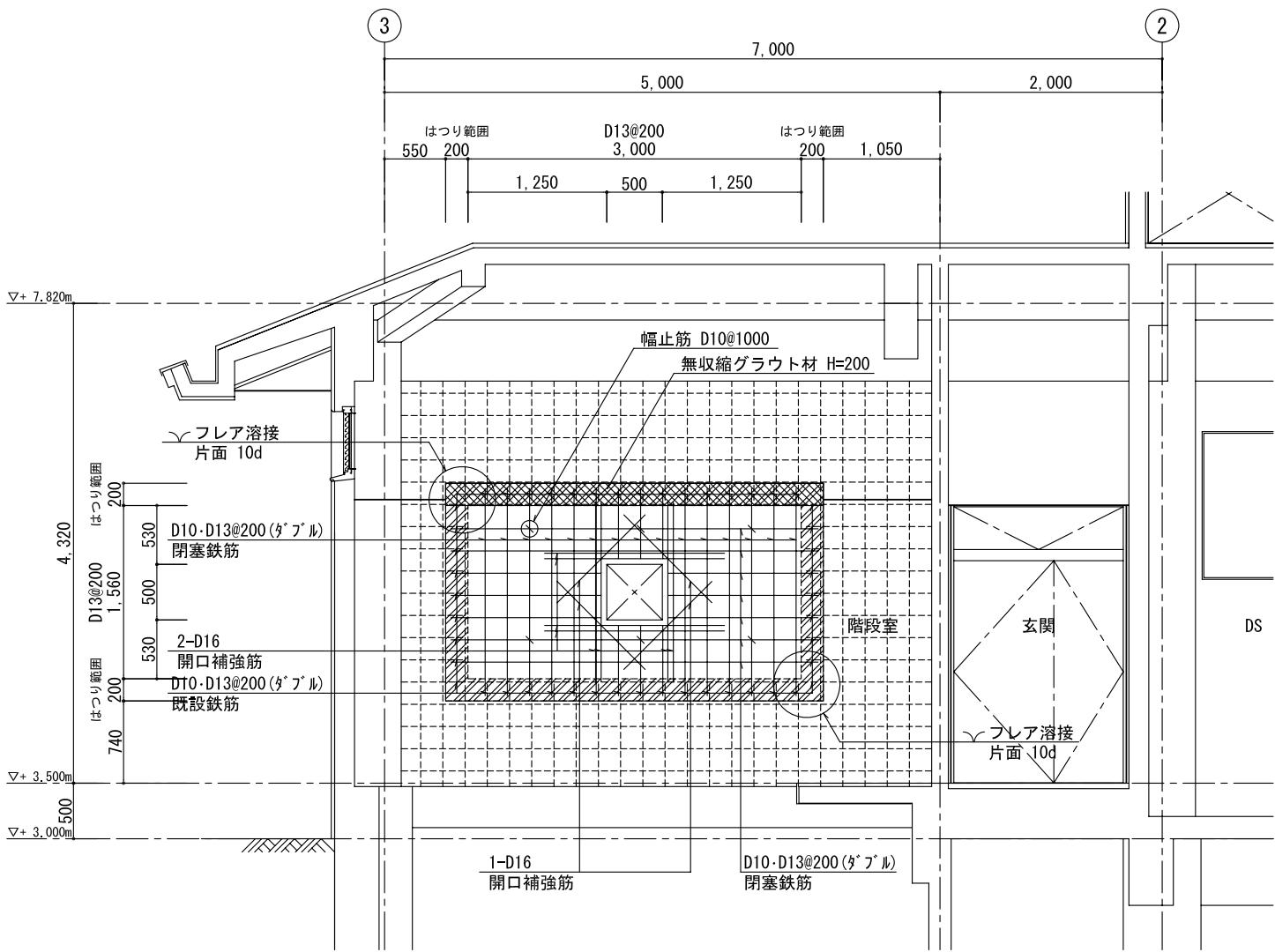
1階平面図 S=1:30



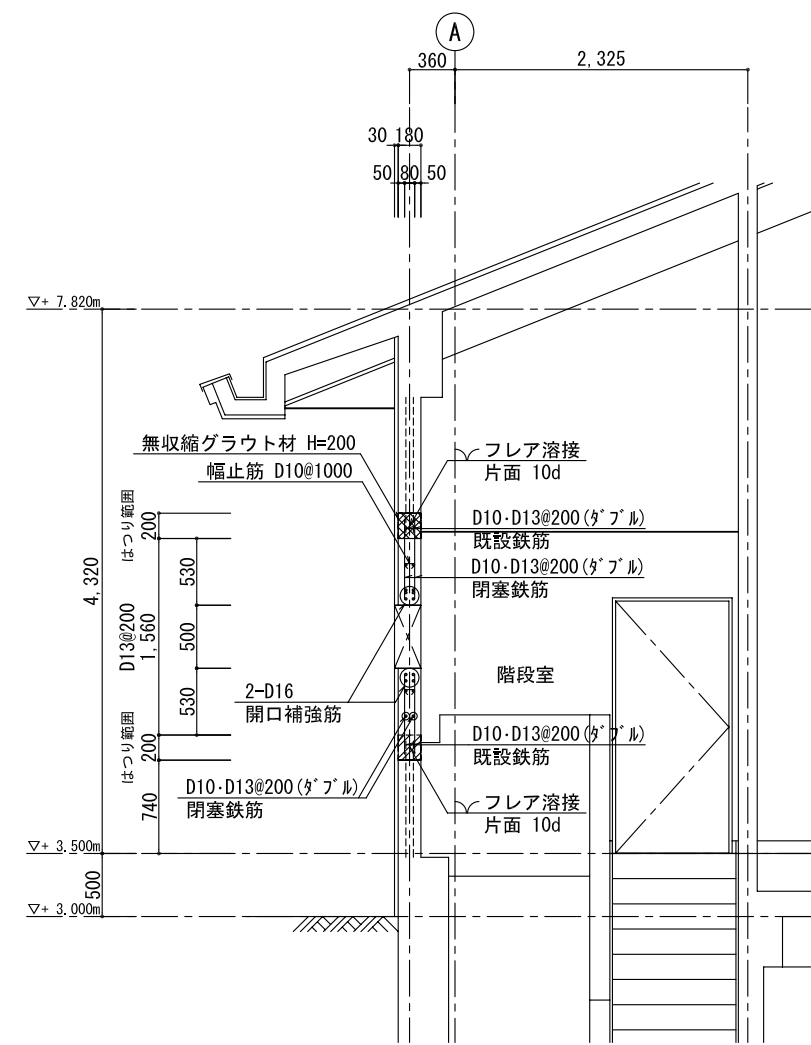
KEY PLAN



開口補強筋詳細図 S=1:30



a-a 断面図 S=1:30



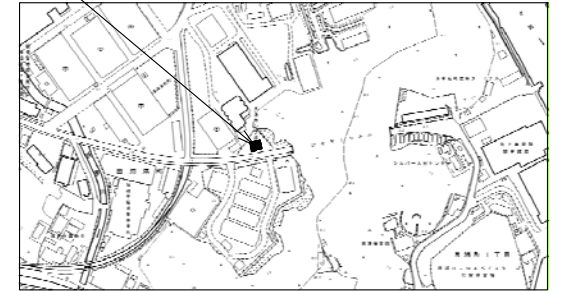
b-b 断面図 S=1:30

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(鶴居P)1階 壁 耐震補強配筋図			
縮 尺	1:30	図 番	A-K5	
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

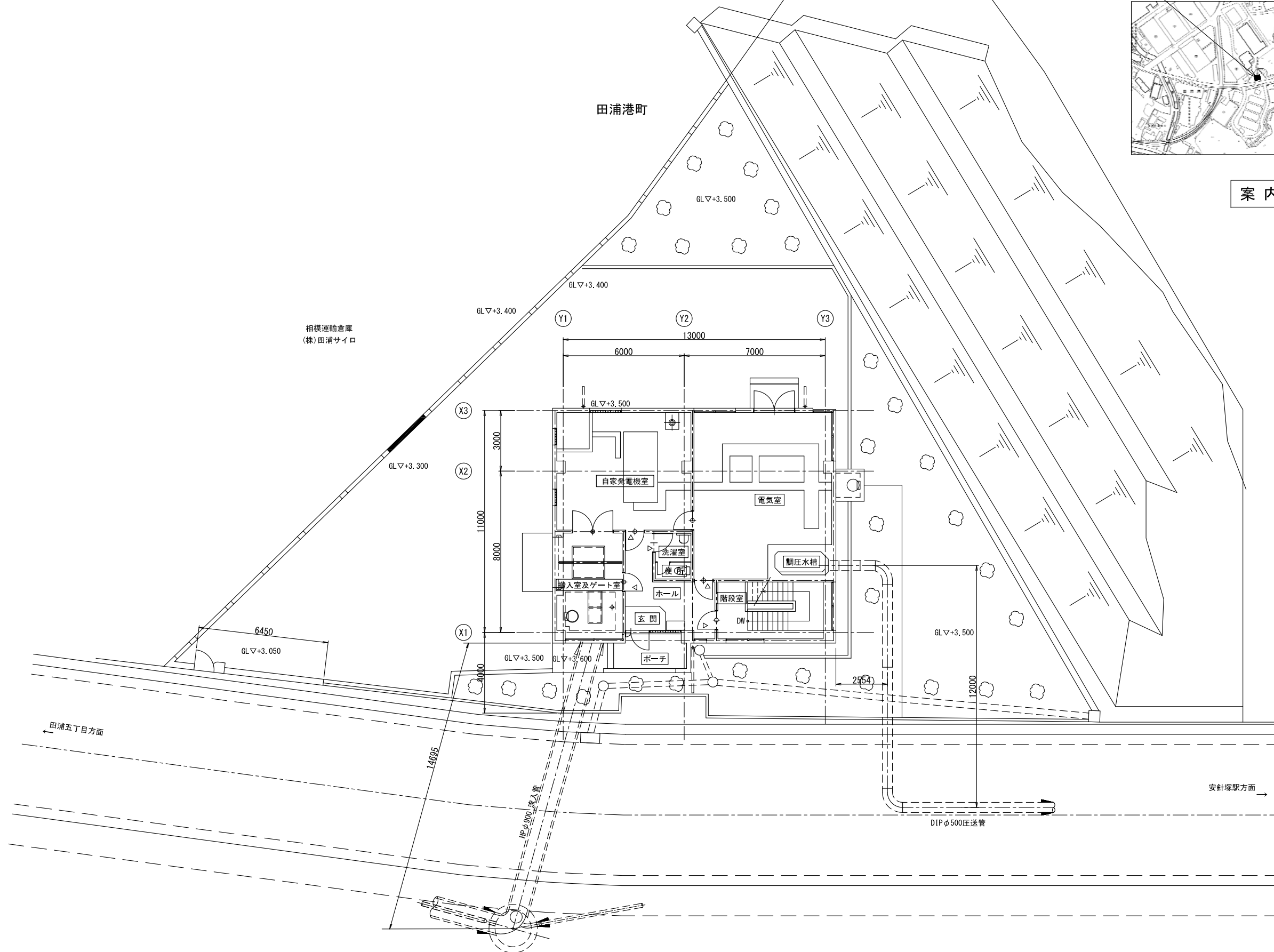
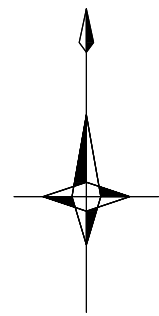
一般平面図 縮尺 1:100

(長浦ポンプ場)

長浦ポンプ場  
横須賀市田浦港町無番地



案内図

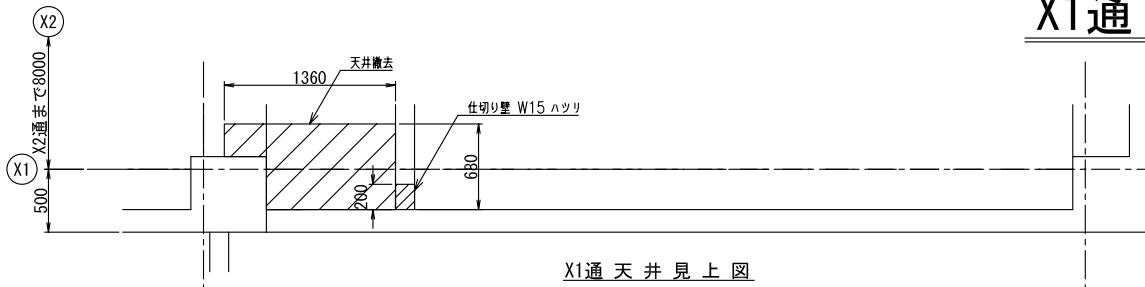


横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	(長浦P) 一般平面図・案内図		
縮 尺	1:100	図 番 号	A-N1
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

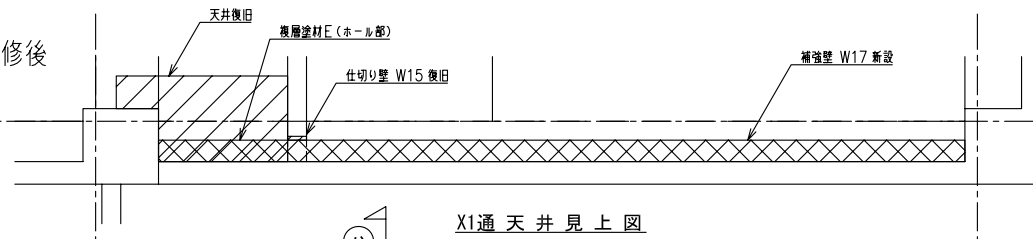


# X1通 現況・撤去・改修図 縮尺 1:30

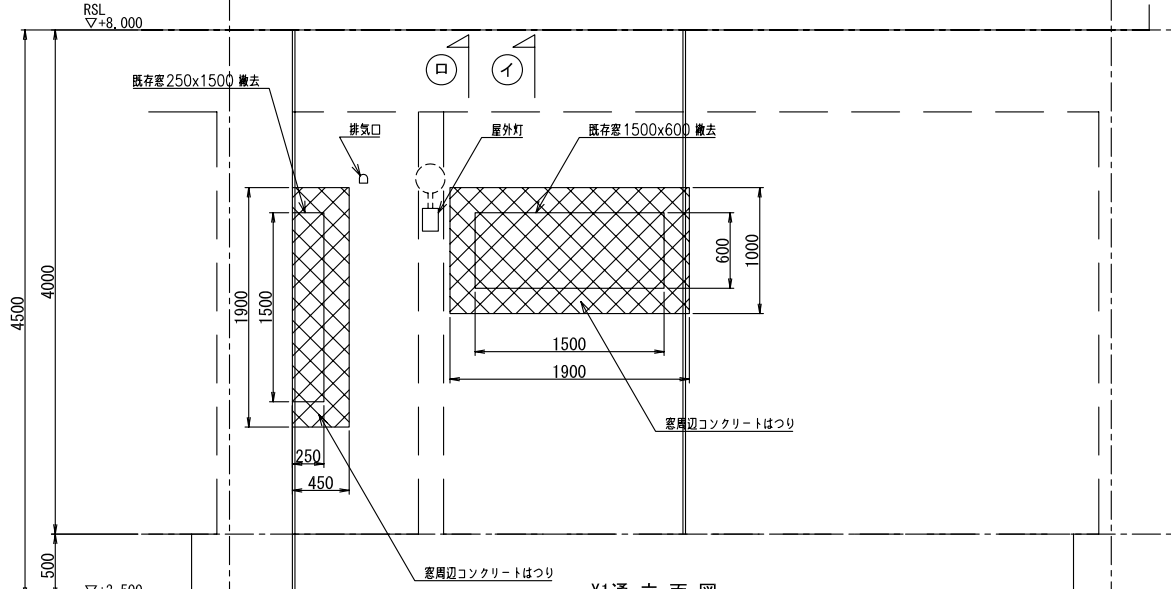
改修前 ⇨ 改修後



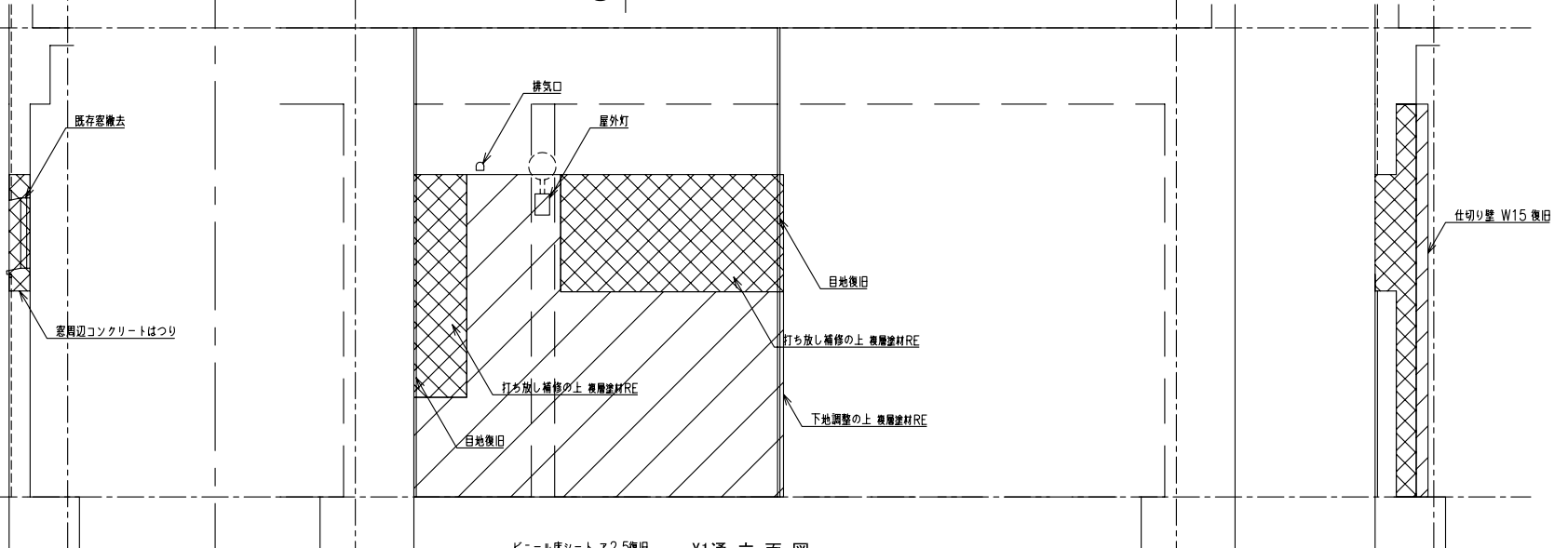
X1通天井見上図



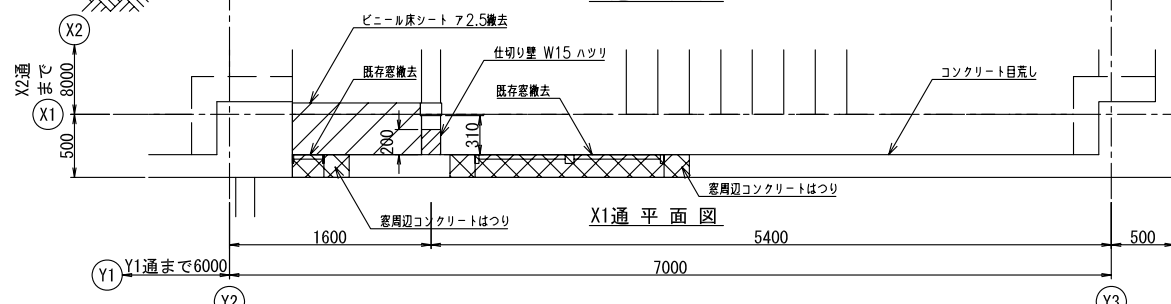
X1通天井見上図



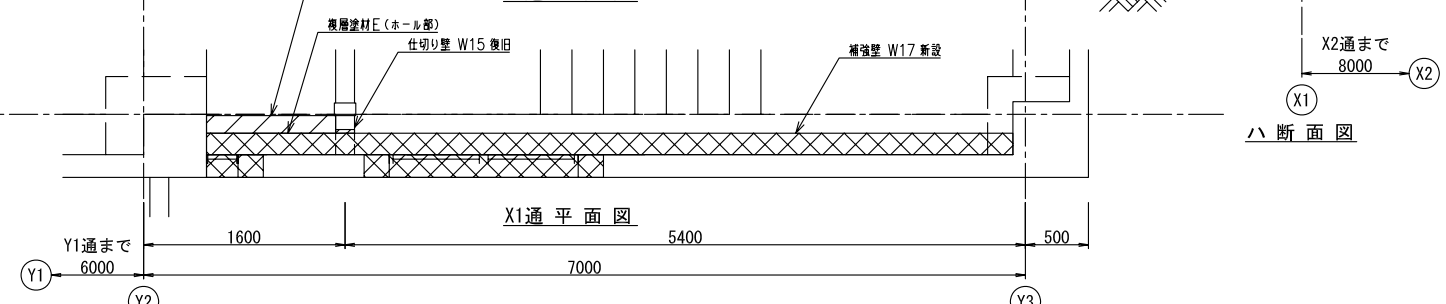
X1通立面図



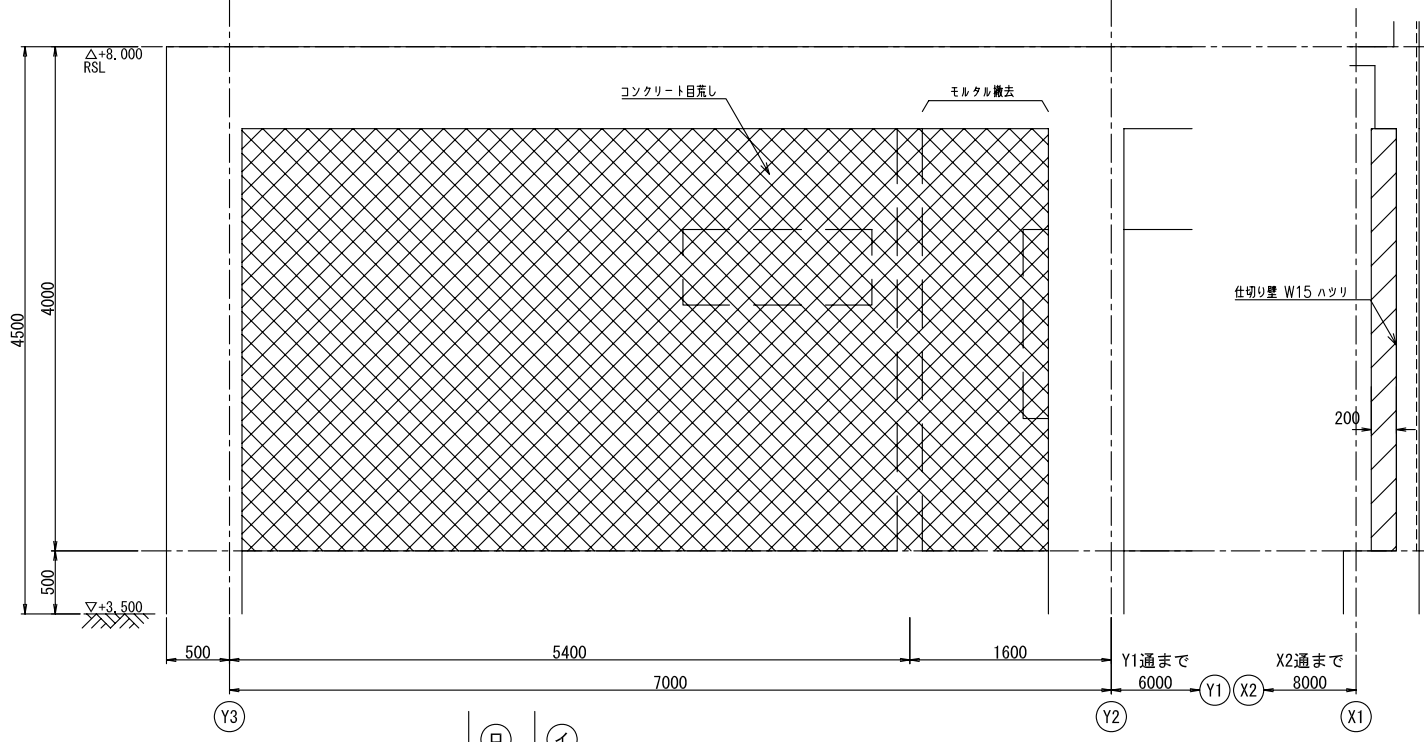
X1通立面図



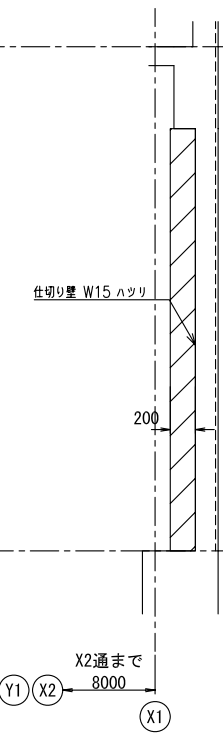
X1通平面図



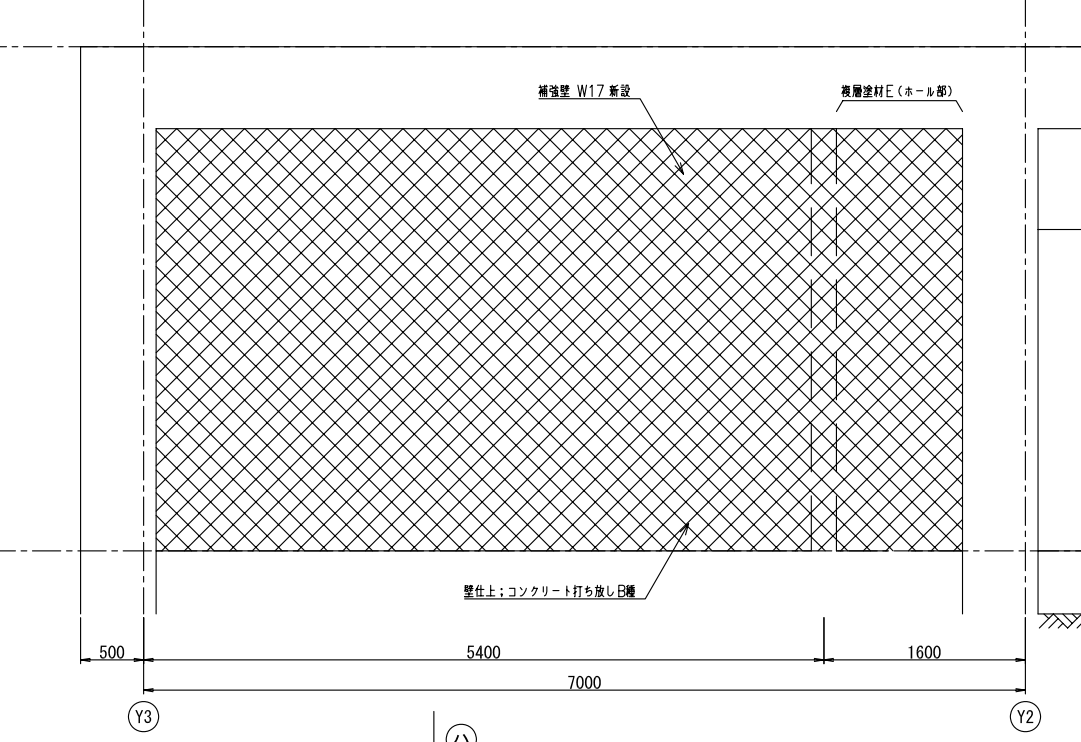
X1通平面図



X1通展開図



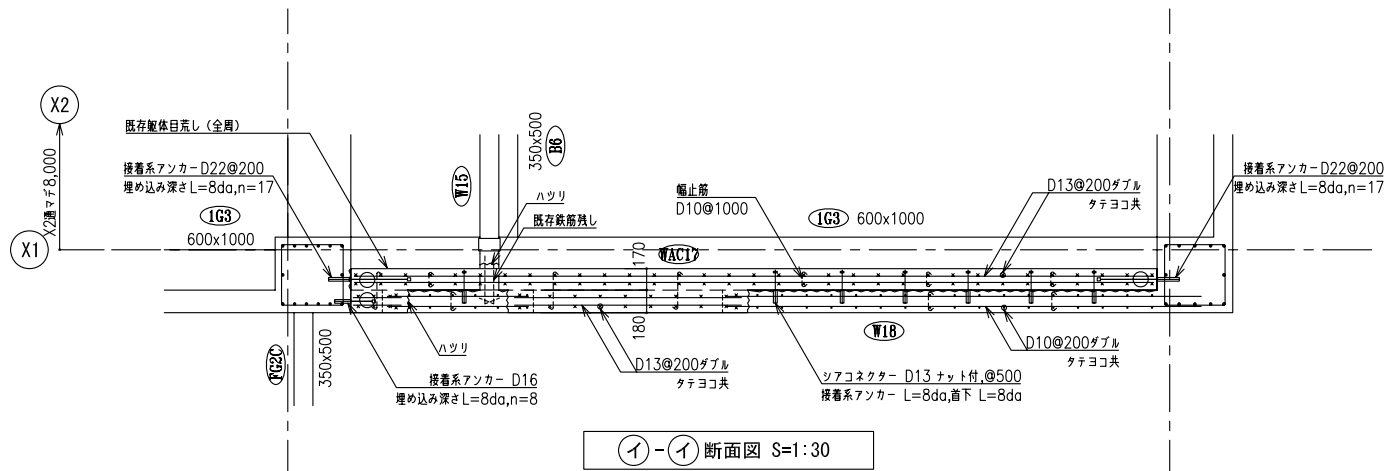
口断面図 (W15壁断面)



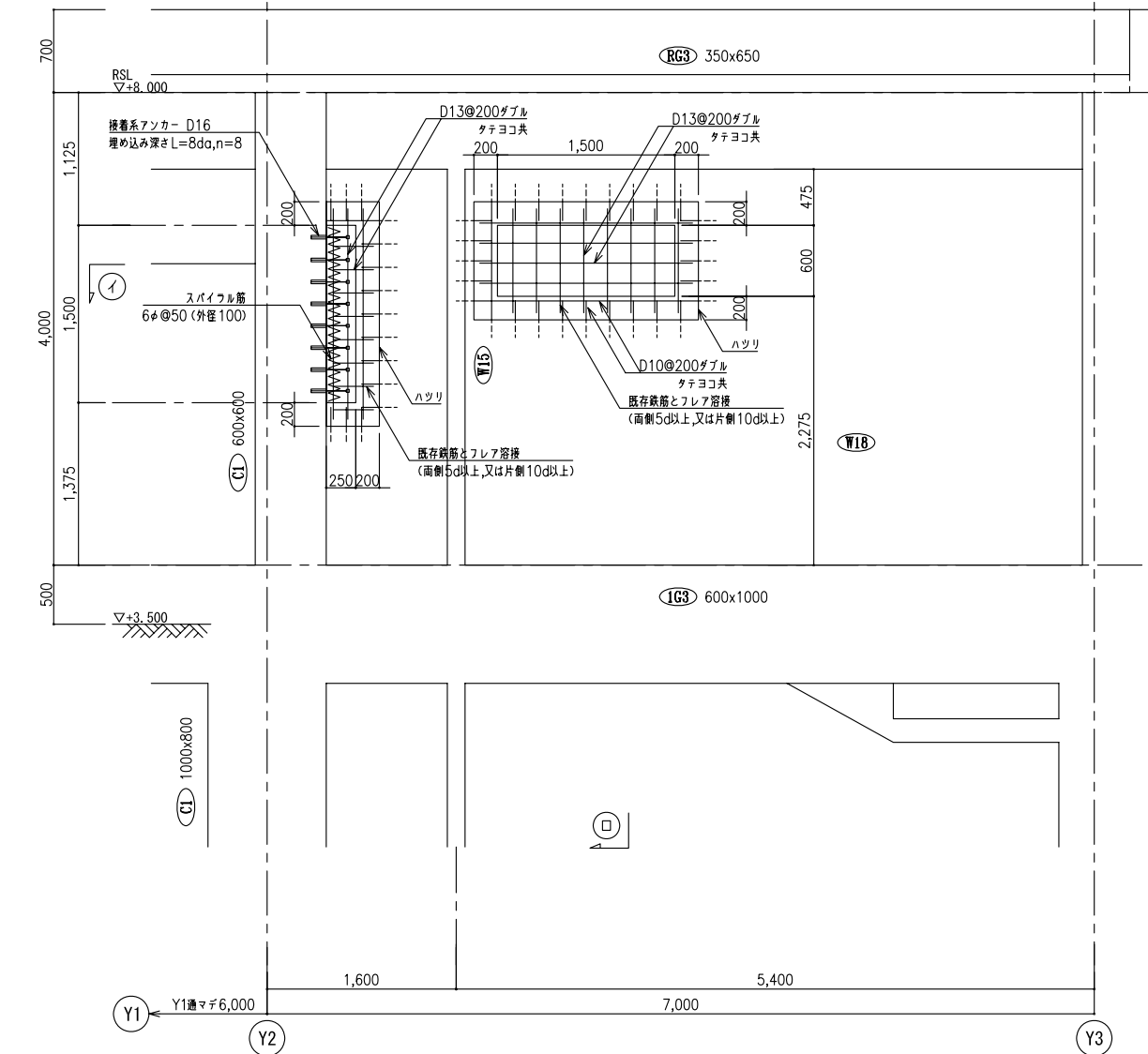
X1通展開図

(注1) 本補強範囲には電気設備および空調設備に係る改修は存在しない。ただし、外壁面に存在する屋外灯および排気口に関連した埋設物等は、非破壊による探査により把握・確認すること。

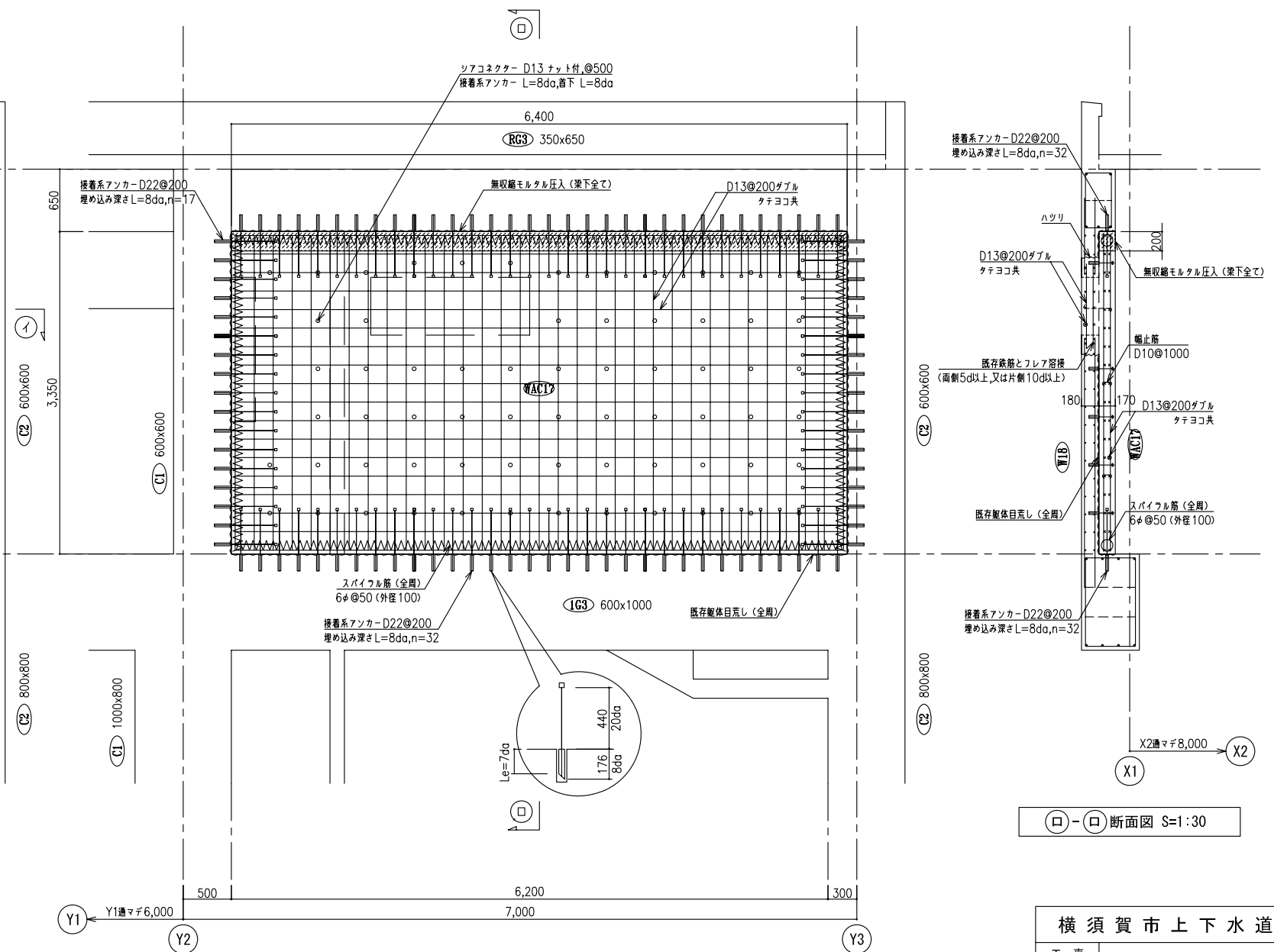
横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図 面 名 称	(長浦P) X1通 現況・撤去・改修図			
縮 尺	1:30	図 号	A-N3	
制 作 月	平成 30 年 7 月 日			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	



①-① 断面図 S=1:30



①① 通補強詳細図 S=1:30



②-② 断面図 S=1:30

①① 通補強詳細図 S=1:30

横須賀市上下水道局				
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面名称	(長浦P) 補強詳細図			
縮尺	1:30	図号	A-N4	
制作年	平成 30 年 7 月 日			
課長	係長	担当者	設計者	

特記仕様書	
1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。	
2. 本特記仕様書における採用事項	
1. 項目欄は番号等に○印を附したものを適用する。	
2. 項目欄に○印を附し特記事項欄に○印を附していない場合は標準仕様書による。	
3. 特記事項は○印を附したものを適用する。但し○印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。 ○印と※印を附した場合は共に適用する。	
3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。	
○国土交通省大臣官房長官宮繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版（以下、「改修標準仕様書」という。）	
○国土交通省大臣官房長官宮繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版（以下、「標準仕様書」という。）	
○2017年改訂版 既存コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説 ・「改正建築基準法に対応した建築物のシックハウス対策マニュアル」（編集：国土交通省住宅局建築指導課他）	
4. その他事項	
・各項目欄の番号(例：1.4 ○○○)は「改修標準仕様書」の番号(章番号を除く)に照合する	
・各項目欄の番号(例：1.* ○○○)は「改修標準仕様書」の番号(章番号を除く)に該当しない項目とする	

章 項目	特記事項
1章 一般共通事項	<p>1.4 工事実績情報登録 登録：○適用 ・不適用</p> <p>1.5 建築基準法の風圧・積雪に関する規定 基準風速：○V<sub>0</sub> = 3.6 (m/s) 平成12年建告第1454号第2 地表面粗度区分：・I ○II ○III ・IV 積雪区分：・30cm</p> <p>1.6 電気保安技術者 技術者の適用：○適用 ○不適要</p> <p>1.7 施工条件 施工順序等の制約：○無し ・有り【・現場説明書による ・図示 ・】 工事車両の駐車場所：・図示 ・現場説明書による ○監督員協議による 資材、機材置場：・図示 ・現場説明書による ○監督員協議による 発生土仮置場：・図示 ・現場説明書による ・監督員協議による その他の施工条件：・図示 ・現場説明書による ○監督員協議による</p> <p>3.8 発生材の処理等 ・発注者への引渡発生材； ・特別管理産業廃棄物； ・リサイクル発生材； ひ素・カドミウム含有せつこうボードの処理： ・製造業者回収委託処理 ・管理型最終処分場埋立処理 標準仕様書1.3.8(b)(5)(I)及び(11)以外のせつこうボードの処理： ・管理型最終処分場埋立処理 ・再資源化 PCB含有シーリングの調査方法：・図示 ・ PCB含有シーリングの撤去方法：・図示 ・</p> <p>4.9 使用材料 ○仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量はJIS等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。</p> <p>5.2 施工数量調査 調査範囲：・図示 ・ 調査方法：・非破壊検査 ・破壊検査 ・ 補修方法：・破壊検査後の復旧に関しては監督員と協議の上決定する ・図示 ・</p> <p>5.3 調査のための破壊部分の補修</p> <p>6.5 施工の検査等 見本施工の実施：・実施しない ・実施する【実施箇所等：・図示 ・】 濃度測定：・未実施 ・実施</p> <p>6.9 化学物質の濃度測定 化学物質濃度を下配のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。 測定対象物質：・ホルムアルデヒド ・トルエン ・キシレン ・エチルベンゼン ・スチレン ・図示 ・ 測定方法：・簡易法 ・パッシブ型採取機器 ・測定パッジ； 測定対象室：・図示 ・ 1F電気室、2F事務室 測定箇所数：・図示 ・ 箇所 ・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。</p> <p>8.1 完成時の提出図書 完成図：○必要 ・不要 保全に関する資料：・必要 ○不要 提出部数：・部</p> <p>8.2 完成図 種類：※表1.8.1 ・一般図 ・実施設計図一式 記入内容：※表1.8.1 ・図示 ・ 提出要領：工事完成図書類作成要領書（土木・建築編）横須賀市上下水道局技術部下水道施設 による ○A3原稿2つ折り製本 ・A3版原図（CAD作図による） ○CADデータ ・A2版製本：2部 施工計画書：○監督員の承諾を受けたもの ・ 施工図：・A3原稿2つ折り製本 ・A3縮刷版第2原図 ・CADデータ（可能なもの） ○監督員の承諾を受けたもの ・</p> <p>8.3 保全に関する資料 ○環境への配慮 ・保全に関する資料 提出部数：※各2部 ・部 (1.4.1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から②を満たすものとする。 ① 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ② 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-n-エチルヘキシル等を含む可塑性可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。</p>

章 項目	特記事項																																							
2章 仮設工事	<p>2.1 足場その他 足場は公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年度版2.2.1「足場その他」により関係法令に従い設置すること。 （すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置） 内部足場の種別：○脚立 ・足場板 ・ローリングタワー ○単管足場 外部足場の種別：○A種 ・B種 ○C種 ・D種 ・E種 保護シートの設置：○設置する ・設置しない 材料等の運搬方法：・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 既存部分養生材料：○ビニールシート ・その他：施工者にて適材適所を選択する 既存家具養生材料：○ビニールシート ・その他：施工者にて適材適所を選択する 既存ブラインド、カーテンの養生方法： ・指定場所に保管し再設置 ・指定場所に保管し清掃の上再設置 ○同上 仮設間仕切り：・無し ○有り 設置箇所：・図示（参考図） ○監督員協議による 種別：・A種 ○B種 ・C種 仮設扉：・不要 ○必要 【設置箇所：・図示 ・任意の場所 ○監督員協議による】 仮設扉の種別：・鋼製 ・木製 ・図示 ○監督員協議による 監督員事務所の設置：・不要 ・必要 構造：・プレハブ造 ・その他： 規模：・30m2内外 ・20m2内外 ・10m2内外 ・その他： 備品：・机、椅子、書棚、図版、定規、黒板又は白板、温湿度計、テストハンマー、ノギス、安全帽（来客用共）、水平・垂直器、ロッカー ・その他： 設備：・電灯 ・給排水 ・空調換気 ・給湯 ・通風 ・消化器 ・冷蔵庫 ・その他： 構内既存の用水施設：・利用できない ○利用できる（○有償 ・無償） 構内既存の電力施設：○利用できない ・利用できる（・有償 ・無償） ・動力以外利用できる（・有償 ・無償）</p> <p>4.1 仮設物</p> <p>4.2 仮設物</p> <p>4.3 仮設物</p> <p>4.4 仮設物</p>																																							
3章 防水改修工事	<p>1. 一般事項 防水工事の保証書の提出及び保証年限 ・保証年限10年：アスファルト防水 ・合成高分子ルーフィング防水 ・保証年限5年：塗膜防水 ・その他： &lt;保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各2通提出する。防水施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける&gt; 降雨等による養生方法：※改修標準仕様書3.1.3(e)による ・図示 ・ ○防水改修工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>工法の種類</th> <th>備考(特配工程)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・屋上防水押え</td> <td>PIB工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ルーフバルコニー防水押え</td> <td>POS機械工法</td> <td>#1工程有り</td> </tr> <tr> <td>・浴室防水押え</td> <td>M4SI工法</td> <td>#2工程無し</td> </tr> </tbody> </table> <p>○シーリング改修工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>工法の種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・外壁コンクリート打継目地</td> <td>シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・外壁コンクリート誘発目地</td> <td>シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・外壁開口部建具廻り目地</td> <td>シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 既存防水層の処理 2重ドレンの設置：・行わない ・行う（施工箇所） 補修箇所の形状、長さ、数量等：・下表による ・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>形状・長さ数量等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・脆弱部の補修</td> <td>m2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・既存目地の欠損部補修</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・欠損部の補修</td> <td>m2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・防水層表面の仕上げ塗装の除去</td> <td>m2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>既存防水層表面の仕上げ塗装の除去：・行わない ・行う 設備架台等防水層取り合い部の処置：・協議による ・図示 ・</p> <p>3. アスファルト防水 改質アスファルトルーフィングシートの種別・厚さ： ※改修標準仕様書3.3.2(c)(6)による ・メーカー仕様による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種別・厚さ： ※改修標準仕様書3.3.2(c)(7)による ・メーカー仕様による 保護防水断熱工法の断熱材の材質：※改修標準仕様書3.3.2(h)による・メーカー仕様による 保護防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示 ・ 露出防水断熱工法の断熱材の材質：※改修標準仕様書3.3.2(i)による・メーカー仕様による 露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示 ・ 絶縁シートの材料の指定：※改修標準仕様書3.3.2(j)による・メーカー仕様による 保護コンクリートの設計基準強度：※18N/mm<sup>2</sup> ・21N/mm<sup>2</sup> ・ 防水立上り部の保護：・湿式 ・乾式 ・ 立上り部の保護レンガの材料：※改修標準仕様書3.3.2(o)による ・</p>	施工部位	工法の種類	備考(特配工程)	・屋上防水押え	PIB工法		・ルーフバルコニー防水押え	POS機械工法	#1工程有り	・浴室防水押え	M4SI工法	#2工程無し	施工部位	工法の種類	備考	・外壁コンクリート打継目地	シーリング充填工法		・外壁コンクリート誘発目地	シーリング再充填工法		・外壁開口部建具廻り目地	シーリング再充填工法		施工部位	形状・長さ数量等	備考	・脆弱部の補修	m2		・既存目地の欠損部補修	m		・欠損部の補修	m2		・防水層表面の仕上げ塗装の除去	m2	
施工部位	工法の種類	備考(特配工程)																																						
・屋上防水押え	PIB工法																																							
・ルーフバルコニー防水押え	POS機械工法	#1工程有り																																						
・浴室防水押え	M4SI工法	#2工程無し																																						
施工部位	工法の種類	備考																																						
・外壁コンクリート打継目地	シーリング充填工法																																							
・外壁コンクリート誘発目地	シーリング再充填工法																																							
・外壁開口部建具廻り目地	シーリング再充填工法																																							
施工部位	形状・長さ数量等	備考																																						
・脆弱部の補修	m2																																							
・既存目地の欠損部補修	m																																							
・欠損部の補修	m2																																							
・防水層表面の仕上げ塗装の除去	m2																																							
3章 防水改修工事	<p>1.1 適用範囲</p> <p>1.3 施工一般</p> <p>1.4 改修工法の種類及び工程</p> <p>3.5 保護層等の施工</p> <p>4.2 材料</p> <p>4.3 種別及び工法</p> <p>5.2 材料</p>																																							

章 項目	特記事項																																				
3章 種別及び工程	<p>○屋根保護防水 防水立上りの保護コンクリートの適用：・適用しない ・適用する 防水立上りの保護コンクリートの工法：・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>工法/種別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・PHR階屋上</td> <td>・PIB/・B-1 ※B-2 ・B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・R階屋上</td> <td>・PIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・TIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・P2A1/・AI-1 ※AI-2 ・AI-3 断熱材：t=</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・P2A/・A-1 ※A-2 ・A-3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○屋根露出防水 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・M4C/・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4 仕上塗料； ・R階屋上 ・M3D/・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4 仕上塗料； ・POD/・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4 仕上塗料；</p> <p>◇M3D工法及びPOD工法の脱気装置 脱気装置の種類：※製造メーカー仕様による ・図示 ・ 脱気装置の設置数量：※製造メーカー仕様による ・図示 ・</p> <p>○屋根露出防水断熱工法 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・POD1/・DI-1 ※DI-2 仕上塗料； ・R階屋上 ・M3D1/・DI-1 ※DI-2 仕上塗料； ・M4D1/・DI-1 ※DI-2 仕上塗料；</p> <p>脱気装置の種類：※製造メーカー仕様による ・図示 ・ 脱気装置の設置数量：※製造メーカー仕様による ・図示 ・</p> <p>○屋内防水 施工部位 工法/種別 備考 ・浴室 ・PIE/・E-1 ※E-2 保護層：普通コンクリート ・機械室 ・P2E/・E-1 ※E-2 保護層：普通コンクリート 保護層：軽量コンクリート 保護層：モルタルt=30</p> <p>保護層のコンクリートの厚さ：・100mm ※80mm ※60mm ・図示 ・ 防水立上り部の保護：・露出 ・コンクリート ・レンガ押え ・乾式保護材；</p> <p>4. 改質アスファルトシート防水 改質アスファルトシートの種別・厚さ： ※改修標準仕様書表3.4.1~3.4.3Iによる ・メーカー仕様による 粘着層付改質アスファルトシートの種別・厚さ： ※改修標準仕様書表3.4.1~3.4.3Iによる ・メーカー仕様による 露出防水断熱工法の断熱材の材質・厚さ： ※A種硬質ウレタンフォーム保温板1号又は2号 ・メーカー仕様による ・</p> <p>○屋根露出防水密着工法 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・M4AS/・AS-T1、AS-T2、AS-J3 ・R階屋上</p> <p>○屋根露出防水絶縁工法 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・M3AS/・AS-T3、AS-T4、AS-J2、AS-J4 脱気装置：・設置 ・R階屋上 ・POAS/・AS-T3、AS-T4、AS-J2、AS-J4 脱気装置：・設置</p> <p>○屋根露出防水断熱工法 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・M3AS1/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：・設置 脱気装置：・設置 ・R階屋上 ・M4AS1/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：・設置 脱気装置：・設置 ・POAS1/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：・設置 脱気装置：・設置</p> <p>5. 合成高分子系ルーフィングシート防水 ルーフィングシートの種類・厚さ：※改修標準仕様書表3.5.1~3.5.2Iによる 絶縁用シート：※発泡ポリエチレンシート ・図示 ・ 断熱工法に用いる断熱材：※改修標準仕様書3.5.2(c)(2)による ・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法種別</th> <th>種類/種別</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S-F1 (S1-F1)</td> <td>・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート</td> <td>※1.2 ・1.5 ・2.0</td> </tr> <tr> <td>S-F2 (S1-F2)</td> <td>・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート</td> <td>・1.2 ・1.5 ※2.0</td> </tr> <tr> <td>S-M1 (S1-M1)</td> <td>・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート</td> <td>・1.2 ※1.5 ・2.0</td> </tr> <tr> <td>S-M2 (S1-M2)</td> <td>・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート</td> <td>・1.2 ※1.5 ・2.0</td> </tr> <tr> <td>S-M3 (S1-M3)</td> <td>・塩化ビニル樹脂系/・均質シート・複合シート</td> <td>※1.2 ・1.5 ・2.0</td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	工法/種別	備考	・PHR階屋上	・PIB/・B-1 ※B-2 ・B-3		・R階屋上	・PIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=			・TIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=			・P2A1/・AI-1 ※AI-2 ・AI-3 断熱材：t=			・P2A/・A-1 ※A-2 ・A-3		工法種別	種類/種別	厚さ(mm)	S-F1 (S1-F1)	・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート	※1.2 ・1.5 ・2.0	S-F2 (S1-F2)	・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート	・1.2 ・1.5 ※2.0	S-M1 (S1-M1)	・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート	・1.2 ※1.5 ・2.0	S-M2 (S1-M2)	・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート	・1.2 ※1.5 ・2.0	S-M3 (S1-M3)	・塩化ビニル樹脂系/・均質シート・複合シート	※1.2 ・1.5 ・2.0
施工部位	工法/種別	備考																																			
・PHR階屋上	・PIB/・B-1 ※B-2 ・B-3																																				
・R階屋上	・PIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=																																				
	・TIB1/・BI-1 ※BI-2 ・BI-3 断熱材：t=																																				
	・P2A1/・AI-1 ※AI-2 ・AI-3 断熱材：t=																																				
	・P2A/・A-1 ※A-2 ・A-3																																				
工法種別	種類/種別	厚さ(mm)																																			
S-F1 (S1-F1)	・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート	※1.2 ・1.5 ・2.0																																			
S-F2 (S1-F2)	・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート	・1.2 ・1.5 ※2.0																																			
S-M1 (S1-M1)	・加硫ゴム系/・均質シート・複合シート	・1.2 ※1.5 ・2.0																																			
S-M2 (S1-M2)	・エチレン酢酸ビニル樹脂系/・均質シート	・1.2 ※1.5 ・2.0																																			
S-M3 (S1-M3)	・塩化ビニル樹脂系/・均質シート・複合シート	※1.2 ・1.5 ・2.0																																			
3章 種別及び工程	<p>6.3 種別及び工程 施工部位 工法/種別 備考 ・PHR階屋上 ・POS/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・R階屋上 ・POS/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3 ・POS1/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・POS1/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3 ・S4S/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・S4S/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3 ・S4SI/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・S4SI/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3 ・S3S/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・S3SI/・S-F1 (S1-F1) ・S-F2 (S1-F2) ・M4S/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3 ・M4SI/・S-M1 (S1-M1) ・S-M2 (S1-M2) ・S-M3</p> <p>5.4 施工 脱気装置：・設置 断熱材の種類：・押出法ポリスチレンフォーム3種B(スキん付) ・図示 ・ 断熱工法の断熱材の厚さ：・25mm ・35mm ・50mm ・ PCコンクリート下地の場合： 目地処理：・図示 ・ 入隅部の増張り：・図示 ・ 機械的固定工法の場合の風圧力に対応した工法：・メーカー仕様による ・</p> <p>6. 塗膜防水 施工部位 工法/種別 備考 ・POX/※X-1 ・X-2 脱気装置：・設置 ・L4X/・X-1 ※X-2 脱気装置：・設置</p> <p>7. シーリング 種類及び施工箇所：・種類は改修標準仕様書表3.7.1により施工箇所は下表による ・ ノンブリードタイプシーリング材の適用：※使用する ・使用しない 施工箇所：・ポリウレタン系シーリングで仕上げありの部位 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>シーリング材の種類</th> <th>目地寸法(mm)</th> <th>保証年限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・各階打継部分</td> <td>※改修標準仕様書9.6.2Iによる</td> <td>15(W)x10(D)</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>・タイル伸縮目地</td> <td></td> <td>15(W)x10(D)</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>・ガラス止め付け</td> <td></td> <td>5(W)x5(D)</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>・サッシ廻り</td> <td></td> <td>20(W)x10(D)</td> <td>年</td> </tr> <tr> <td>・カッター入れ部分</td> <td>PU-2</td> <td>10(W)x7(D)</td> <td>年</td> </tr> </tbody> </table> <p>※簡易接着性試験 ・引張接着性試験 シーリング保証書：・提出する ・提出しない ・保証書（請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証）は各2通提出すること。</p> <p>8. とい 軒どいの材種：・アスファルト被覆鋼板 ・耐候性被覆鋼板 ・ 縦どいの材種：・配管用銅管 ・塩化ビニル管【・カラーVP ・カラーVU ・VP ・】 掃除口：・有 ・無 飾り樹：・塩ビ製 ・銅板製 ・ とい受け金物：・ステンレス製 ・亜鉛めっき鋼板製 ・ ルーフトレイン：・ステンレス製 ・鉄製 ・アルミニウム製 既存といの撤去及び降雨時の養生：・仮設のといを設置する ・図示 ・ 鋼管製といの防露：・行う ・行わない 施工箇所：※改修標準仕様書表3.8.5Iによる ・ たてとい受金物の取付：・図示 ・@2,000内外 ・@1,800内外 ルーフトレインの取替え：・行わない ・行う【・改修標準仕様書3.8.3(h)による ・】</p> <p>9. アルミニウム製笠木 施工部位 工法/種別 備考 ・250形 ・300形 ・350形 ・板材折曲げ形</p> <p>アルミニウム製笠木の厚み：※2.0mm ・ 笠木本体の表面処理：・A-1 ・B-1 ・ 新規笠木の地下及び撤去後の補修：・ 板材折曲げ型笠木の取付方法：・図示 ・</p>	施工箇所	シーリング材の種類	目地寸法(mm)	保証年限	・各階打継部分	※改修標準仕様書9.6.2Iによる	15(W)x10(D)	3年	・タイル伸縮目地		15(W)x10(D)	年	・ガラス止め付け		5(W)x5(D)	年	・サッシ廻り		20(W)x10(D)	年	・カッター入れ部分	PU-2	10(W)x7(D)	年												
施工箇所	シーリング材の種類	目地寸法(mm)	保証年限																																		
・各階打継部分	※改修標準仕様書9.6.2Iによる	15(W)x10(D)	3年																																		
・タイル伸縮目地		15(W)x10(D)	年																																		
・ガラス止め付け		5(W)x5(D)	年																																		
・サッシ廻り		20(W)x10(D)	年																																		
・カッター入れ部分	PU-2	10(W)x7(D)	年																																		
3章 種別及び工程	<p>6.3 種別及び工程</p> <p>7.2 材料</p> <p>7.3 目地寸法</p> <p>7.8 シーリング材の試験</p> <p>7.* 保証年限</p> <p>8.2 材料</p> <p>8.3 工法</p> <p>9.2 材料</p> <p>9.3 工法</p>																																				

横須賀市上下水道局				
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面名称	建築改修工事特記仕様書(1)			
縮尺	NON-SCALE	図面番号	A-1	
制作年月	平成 30 年 7 月 日			
課長	係長	担当者	監査者	

章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項
4章 外壁改修工事	1. 一般事項 ①コンクリート打直し仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類： ※樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 欠損部改修工法の種類： ※充填工法 ・ ②モルタル塗り仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類： ※樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 欠損部改修工法の種類： ・充填工法 ・モルタル塗替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 ・充填工法 ・モルタル塗り替え工法	4章 外壁改修工事	2.2 工法別仕様材料 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・外装薄塗材 E ・砂壁状・ゆず肌状・着色骨材砂壁状 吹付け ・平たん状・凹凸状・着色骨材砂壁状 こて塗り ・ゆず肌状・さざ波状 ローラー塗り ・可とう形外装薄塗材 E ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け ・平たん状・凹凸状 こて塗り ・ゆず肌状・さざ波状 ローラー塗り ・防水形外装薄塗材 E ・ゆず肌状・さざ波状 ローラー塗り ・凹凸状 吹付け 薄付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有 ( ) 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・外装薄塗材 S ・砂壁状 吹付け 厚付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有 ( ) 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・外装厚塗材 C ・吹放し・凸部処理 吹付け ・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り ・外装厚塗材 S i ・吹放し・凸部処理 吹付け ・外装厚塗材 E ・平たん状・凹凸状・ひき起し こて塗り ・平たん状・凹凸状・ひき起し ローラー塗り 複層仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有 (不燃認定品) 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・複層塗材 S i ・ゆず肌状 ローラー塗り ・複層塗材 E ③複層塗材 R E ・可とう形複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・ゆず肌状 ローラー塗り ・防水形複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・防水形複層塗材 E ・ゆず肌状 ローラー塗り ・防水形複層塗材 R S ・防水形複層塗材 R E ・可とう形改修塗材 E ・平たん状・さざ波 ローラー塗り ・可とう形改修塗材 R E ・ゆず肌状 吹付け ・可とう形改修塗材 C E 耐候性： ※耐候形3種 ・ 上塗材溶媒： ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 上塗材樹脂： ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・ふっ素系 上塗材外観： ※つやあり ・つやなし ・メタリック ・ 防水形の増塗材の適用： ・する ・しない	4.10~4.15 アンカーピンニング工法 ④アンカーピンニング工法 工法名称 アンカーピン(本) 注入孔数(箇所/m2) 1箇所当り 一般部分 指定部分 一般部分 指定部分 充填量(cc) ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 16 25 16 25 ※25 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 13 20 12 20 ※25 ・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 13 20 12 20 ※50 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 9 16 ※25 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 9 16 9 16 ※50 ⑤ タイル張り仕上げ外壁の改修 注入工法の種類： ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ・ ⑥自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ※200~300mm ・300~400mm ・ 注入量： ・約 cc/m ⑦手動式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ ⑧機械式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個/500m ・ 】 ⑨充填 充填材： ・シーリング用材充填 ・シーリング材の上にポリマーセメント充填 ・可とう性エポキシ樹脂充填 ・ ⑩張り材料： ・ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・ 伸縮目地の位置： ※改修標準仕様書表4.5.11による ・図示 ○現地合わせ 誘発目地の位置： ※改修標準仕様書表4.5.11による ・図示 ○現地合わせ タイル下地モルタルの接着力試験： ・行う ○行わない ⑪タイル張り工法 施工部位 工法 接着力試験 ・密着張り ・改良圧着張り ・行う ○行わない ・改良積上げ張り 外壁 ・マスク張り ○モザイクタイル張り ・図示 ・陶磁器タイル接着剤張り ⑫有機系接着剤による陶磁器タイル張り工法 打継ぎ目地・ひび割れ誘発目地： ※ポリウレタン系シーリング材 ・ 伸縮調整目地・その他の目地： ※変成シリコン系シーリング材 ・ ⑬アンカーピンニング工法 工法名称 アンカーピン(本) 注入孔数(箇所/m2) 1箇所当り 一般部分 指定部分 一般部分 指定部分 充填量(cc) ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 16 25 16 25 ※25 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 13 20 12 20 ※25 ・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 13 20 12 20 ※50 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 9 16 ※25 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 9 16 9 16 ※50 指定部分：見上げ部、庇の鼻先、まぐさ隅部 ⑭塗り仕上げ外壁等の改修 塗り仕上げ： 建築用塗膜防水材 (JIS A 6021) アクリルゴム系シリコン仕上について 「建築改修工事監理指針 平成25年度版(上巻)」表4.6.11に準拠する 工程ごとの所要量： ・改修標準仕様書表4.6.11による ・メーカー仕様による ・図示 施工部位 工法/種別 備考 ・サンダー工法 ・高圧水洗工法 ・塗膜はく離剤工法 ・水洗い工法 サンダー工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・ 高圧水洗工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・ 塗膜はく離剤工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・ 水洗い工法の処理範囲： ・既存仕上全面 ・図示 ・ 下地調整剤 C-1 (4.6.4) ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材 (4.6.5) 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 種別： ・A種 ・B種	5章 建具改修工事 ①改修工法 1.4 防火戸 1.5 見本の制作等 ②性能及び構造 2.3 材料 ④形状及び仕上げ 2.5 工法 3.2 性能及び構造 3.2 性能及び構造 3.3 材料 3.4 形状及び仕上 3.5 工法 4.2 性能及び構造 4.3 材料 4.4 形状及び仕上げ 5.2 性能及び構造 5.3 材料	①. 一般事項 工法： ・かぶせ工法 ○撤去工法 ・ 新規建具用開口部の補強方法： ○図示 ・ 新規建具用開口部の範囲： ○図示 ・ 防火戸の指定： ・図示 ・ ・防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター許定品とする。 建具見本の制作： ・必要 ・不要 仮組の実施： ・行う ・行わない 防犯建物部品の適用： ・図示 ・適用 ・適用しない ②. アルミニウム製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 (mm) ③A種 S-4 A-3 W-4 70 ・B種 S-5 ・C種 S-6 A-4 W-5 100 防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ○適用しない ・図示 遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ○適用しない ・図示 断熱性の等級： ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 耐震ドアセットの適用： ・適用 ○適用しない ・図示 面内変形追随性の等級： ・D-1 ・D-2 ・D-3 防虫網の適用： ・適用 ・適用しない ・図示 網の材質： ※合成樹脂製 ・ステンレス製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 形式： ・外面納まり可動式 ・外面納まり固定式 建具枠の見込： ○図示 ・70 ・100 ・ 外部に面する建具の表面処理： ○B-1種 ・B-2種 屋内の建具の表面処理： ○C-1種 ・C-2種 表面色： ○標準色 ・特注色 引違い建具落下防止機構： ・採用する ・採用しない 結露水の処理方法： ・ 水切り板： ・取付ける ・取付けない ぜん板： ・取付ける ・取付けない 3. 樹脂製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 (mm) ・A種 S-4 A-4 W-4 70 ・B種 S-5 ・C種 S-6 W-5 防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・ 断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 断熱性の等級： ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 ガラスの形式： ・複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス ・ 建具の表面色： ・標準色 ・特注色 水切り板： ・取付ける ・取付けない ぜん板： ・取付ける ・取付けない 4. 鋼製建具 性能及び構造： ※JIS規格による ・ 外部に面する鋼製建具の耐風圧性能： ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・ 亜鉛メッキ鋼板のメッキの最小付着量(両面)： ・Z12又はF12 (120 g/m <sup>2</sup> ) 以上 ・ 鋼板類の厚さ： ※改修標準仕様書表5.4.21による ・図示 ・ 鋼板類の厚さ(W>950mm, H>2,100mmの場合)： ・図示 ・ 防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 5. 鋼製軽量建具 性能及び構造： ※JIS規格による ・ 簡易気密型ドアセットの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 気密性： ・A-1 ・A-2 ※A-3 水密性： ・W-1 鋼板の種別： ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 ・図示 ・ 召合わせ、縦小口包み板等の材質： ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金押出型材 横須賀市上下水道局 工事名称 津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事 図面名称 建築改修工事特記仕様書(2) 縮尺 NON-SCALE 図面番号 A-2 制作年 平成30年7月日 課長 係長 担当者 監査者	
	1.4 外壁改修工法の種類 ②工法別仕様材料		2. 材 料 ③タイル張り仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類： ・樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 欠損部改修工法の種類： ・タイル部分張替え工法 ・タイル貼り替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・タイル部分張替え工法 ・タイル貼り替え工法 目地改修工法の種類： ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法 ④塗り仕上げ外壁 新規仕上の種類： ・薄付け仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ○複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・マステック塗材塗り 樹脂注入工法のエポキシ樹脂： ・低粘度形 ・中粘度形 Uカットシール材充填工法用材料： ・シーリング材【※1成分ポリウレタン系 ※2成分ポリウレタン系 ・ 】 ・可とう性エポキシ樹脂 ・ポリマーセメントモルタル シール工法用材料： ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 充填工法用材料： ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル アンカーピンニング(注入口付アンカーピンニング)注入工法用材料： ポリマーセメントスラリー： ・図示 ・ アンカーピンの材質： ※ステンレス鋼(SUS304・φ4mm・全ネジ) ・図示 ・ 注入口付アンカーピンの材質： ※ステンレス鋼(SUS304・φ6mm) ・図示 ・ モルタル塗替え工法の既製目地材の適用： ・適用しない ・適用する： タイル貼替え、及びタイル部分貼替え工法用接着剤： ・ポリマーセメントモルタル ・エポキシ樹脂 ・変成シリコン樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 タイルの種類： ・図示 ○下表による ・				2.2 工法別仕様材料 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・外装厚塗材 C ・吹放し・凸部処理 吹付け ・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り ・外装厚塗材 S i ・吹放し・凸部処理 吹付け ・外装厚塗材 E ・平たん状・凹凸状・ひき起し こて塗り ・平たん状・凹凸状・ひき起し ローラー塗り 複層仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有 (不燃認定品) 種類(呼び名) 仕上げの形状 工法 ・複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・複層塗材 S i ・ゆず肌状 ローラー塗り ・複層塗材 E ③複層塗材 R E ・可とう形複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・ゆず肌状 ローラー塗り ・防水形複層塗材 C E ・凸部処理・凹凸模様 吹付け ・防水形複層塗材 E ・ゆず肌状 ローラー塗り ・防水形複層塗材 R S ・防水形複層塗材 R E ・可とう形改修塗材 E ・平たん状・さざ波 ローラー塗り ・可とう形改修塗材 R E ・ゆず肌状 吹付け ・可とう形改修塗材 C E 耐候性： ※耐候形3種 ・ 上塗材溶媒： ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 上塗材樹脂： ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・ふっ素系 上塗材外観： ※つやあり ・つやなし ・メタリック ・ 防水形の増塗材の適用： ・する ・しない 3. コンクリート打直し仕上げ外壁の改修 注入工法の種類： ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ・ ④自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ※200~300mm ・300~400mm ・ 注入量： ・約 cc/m ⑤手動式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ ⑥機械式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個/500m ・ 】 コア抜き取り部の補修方法： ・エポキシ樹脂モルタル充填 ・ポリマーセメントモルタル充填 ・ ⑦充填 充填材： ・シーリング用材充填 ・シーリング材の上にポリマーセメント充填 ・可とう性エポキシ樹脂充填 ・ 材料： ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・ 4. モルタル塗り仕上げ外壁の改修 ⑧自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ※200~300mm ・300~400mm ・ 注入量： ・約 cc/m ⑨手動式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ ⑩機械式エポキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200~300mm ・300~400mm ・ コア抜き検査： ・行わない ・行う【個数： ※1個/500m ・ 】 コア抜き取り部の補修方法： ・エポキシ樹脂モルタル充填 ・ポリマーセメントモルタル充填 ・ ⑪充填 充填材： ・シーリング用材充填 ・シーリング材の上にポリマーセメント充填 ・可とう性エポキシ樹脂充填 ・ 材料： ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・ 塗り厚が25mmを超える場合： ・図示 ・

章 項目	特記事項
5章 5.2 材 料	6. ステンレス製建具 性能及び構造： ※JIS規格による ステンレス鋼板の材質： ※SUS304、430J1L、430 ・ SUS304 ・ SUS430 表面仕上げ： ※HL ・ 鏡面 ・ パフ（ ） 曲げ加工： ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ
6.5 工 法	7. 建具用金物 適用範囲： ・ 建具製作所仕様以外の金物（ 金物の種類、材質： ・ 改修標準仕様書表5.7.1による 軸吊りヒンジ： ・ 自閉装置付き ・ 自閉装置なし ドアクローザのディレードアクション（遅延閉）機能の適用： ・ 適用 ・ 適用しない 戸当り： ・ あおり止め（フック）付き ・ あおり止め（フック）付きなし 樹脂製建具の丁番： ※改修標準仕様書表5.7.3による 握玉、レバーハンドル等の取付位置： ・ FL+900 ・ FL+950 ・ FL+1,000 クレセント類の取付位置： ・ FL+900～FL+1,500迄 マスターキー： ・ 製作する ・ 製作しない ・ マスターキーの製作については施設管理者及び監督員と協議する。 マスターキーの系統： ・ 系統 指定建物錠の防犯性能の適用： ・ する ・ しない 指定建物錠とは、建物の外部出入口用（用いるシリンダー錠・シリンダー/サムターン錠が該当） 耐ピッキング性能 ・ 5分未満 ・ 5分以上 ※10分以上 耐鍵穴壊し性能 ・ 5分未満 ・ 5分以上 ※10分以上 耐サムターン回し性能 ・ なし（5分未満） ※あり（5分以上） 耐カム送り解錠性能 ・ なし（5分未満） ※あり（5分以上） 耐こじ破り性能 ・ なし（5分未満） ※あり（5分以上） 出荷時の子鍵本数： ※3本 ・ 6本 鍵箱の適用： ・ 必要 ・ 不必要
7.1 適用範囲	
7.2 材質、形状、及び寸法	
7.3 取付け施工	
7.4 鍵	
8.2 性 能	8. 自動ドア開閉装置 スライディングドアの開閉性能： ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2  スイングドアの開閉性能： ・ SWD-1 ・ SWD-2 戸の開閉方法： ・ センサーの種類： ・ マットスイッチ ・ 光線スイッチ ・ 熱線スイッチ ・ 音波スイッチ ・ 光電スイッチ ・ タッチスイッチ ・ 押ボタンスイッチ ・ ベダルスイッチ ・ 多機能便所スイッチ  凍結防止装置： ・ 有 ・ 無
8.3 機 構	
9.3 性能等	9. 自閉式上吊り引戸装置 性能： ※改修標準仕様書表5.9.1による
10.2 形式及び機構	10. 重量シャッター シャッターの種類： ・ 図示 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧性能： ・ 50 ・ 80 ・ 120 開閉機能： ※上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式 シャッターケース： ・ 図示 ※設ける ・ 設けない
11.2 形式及び機構	11. 軽量シャッター <パイプシャッター> 開閉形式： ※手動式 ・ 上部電動式（手動併用） <開閉形式>： ※手動式 ・ 上部電動式（手動併用） 耐風圧性能： ・ 50 ・ 80 ・ 120
11.3 材 料	スラットの材質： ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 ※塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・ アルミ押出型材 <パイプの材質>： ・ ステンレス ・ スチール <パイプ径>： ・ 図示 ・ 13mm ・ 16mm ・ 19mm <パイプ間隔>： ・ 図示 ・ 70mm <格子間隔>： ・ 図示 ・ 500mm
11.4 形状及び仕上げ	スラットの形状： ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形
12.2 形式及び機構	12. オーバーヘッドドア セクション材料による区別： ・ 図示 ・ 下表による セクション材料による区別 開閉方式による種類 収納形式による区分 ガイドレールの材料 ・ スチールタイプ ・ バランス式 ・ スタンダード形 ・ 鋼製 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ・ ローヘッド形 ・ ステンレス製 ・ ファイバークラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形
12.3 材 料	耐風圧性能： ・ 50 ・ 75 ・ 100 ・ 125 ガイドレールの材質： ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板
13. 材 料	⑬. ガラス ガラスの種類： ⑬. 図表による ガラス留め材 建具の種類 種類・材質 ⑬. アルミニウム製 ・ シーリング材 ※ガスケット ・ パテ材（・1種 ・ 2種） ・ 鋼 製 ※シーリング材 ・ パテ材（・1種 ・ 2種） ・ ステンレス製 ※シーリング材 ・ パテ材（・1種 ・ 2種） ・ 木 製 ※シーリング材 ・ パテ材（・木製用 ・ ） 金属性製建具用パテはJISA5752による。

章 項目	特記事項
5章 13.3 ガラス溝の寸法、形状等	ガラス溝の大きさ： ※改修標準仕様書表5.13.1による
13.4 工 法	熱線反射ガラスの映像調整： ・ 行う ・ 行わない
13.5 ガラスブロック積み	表面形状： ・ 図示 ・ プレーン ・ 梨地 ・ カスミ 寸法、厚み： ・ 図示 ・ 190x190x95 ・ 145x145x95 壁用金属枠： ・ 図示 ・ アルミニウム製 ・ スチール製 ・ ステンレス製 補強剤： ・ 図示 化粧目地の色： ・ 白 ・ グレー ・ 黒 シーリング材： ・ ポリサルファイド系 ・ ウレタン系 ・ シリコン系 金属製化粧カバー： ・ 図示 風圧力に対応した工法： 目地幅： ※標準仕様書による 伸縮調整目地の位置： ※改修標準仕様書による 伸縮調整目地の仕上： ※改修標準仕様書による
6章 1.3 他部位との取合い等	①. 一般事項 既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲： ※壁厚程度 ・ 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲： ※両側600mm程度 ・ 図示 天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲： ※既存のまま ・ 図示 既存部分の撤去工法： ○適用する【・改修標準仕様書6.2 ○改修標準仕様書6.3 ・改修標準仕様書6.4】 ・ 図示 新設下地の工法： ○適用する【・改修標準仕様書6.5 ○改修標準仕様書6.6 ・改修標準仕様書6.7】 ・ 図示 仕上げの工法： ※該当項の有無により適用する ○図示
⑬. 工 法	2. 既存床の撤去並びに下地補修 合成樹脂塗り床材の除去： ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法 改装後の床の清掃範囲： ・ 影響範囲全て ・ 図示
2.2 工 法	③. 既存壁の撤去並びに下地補修 コンクリート間仕切り壁等の撤去に伴う構造体の補修： ※行う ・ 既存のまま ・ モルタル塗り（改修標準仕様書4.4.9による） ・ 図示
⑬. 工 法	5. 木下地等 ⑤. 見え掛り面の表面仕上げの適用箇所、種類： ・ 図示 ・ 下表による 適用箇所 種 類 ・ 開口部額縁 ・ 建具枠 ・ 笠木 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 ・ ブラインドボックス・カーテンボックス ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 ・ 飾り柱 ・ 格子 ・ カウンター天板 ・ 衝立 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 ・ 棚板 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 ・ 梯子 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種
5.1 一般事項	⑤. 一般事項 木材の含水率： ※A種 ・ B種 保存処理木材： ・ 使用する ・ 使用しない 適用箇所： ・ 標準仕様書6.5.2(h)(3)「腐処理を行う」としている部材 ・ 屋根下地等（瓦葺・登り淀・広小舞） 構造材・下地材の品質基準： ※改修標準仕様書による 造作材の品質基準： ※A種 ・ B種 樹種： ※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。
5.2 木 材	使用箇所 材 種 ・ 小屋組 ・ はり類 ・ 松 ・ その他 ・ 杉又は松 ・ 屋根野地、軒廻り ・ 鼻隠し、破風板 ・ 杉 ・ その他 ・ 杉又は松 ・ R C造等の内部間仕切 軸組及び床組 ・ 床組 ・ 杉又は松 ・ 窓、出入口、その他 ・ 吊元枠、水掛かり の下枠及び敷居 ・ くつぎり ・ 桧 ・ タモ又はシオジ類

章 項目	特記事項
6章 5.2 木 材	使用箇所 材 種 ・ 窓、出入口、その他 ・ 敷居 ・ 桧 ・ 松 ・ その他 ・ 杉又は松 ・ 床板張り ・ 下張り用床材 ・ 杉又は松 ・ 合板 ・ 畳下床板 ・ 合板 ・ 床改め口（畳下） ・ 合板 ・ 床板 ・ 板厚18mm以下（・杉 ・ ） ・ 上り框 ・ 縁甲板張り（・桧 ・ ） ・ 壁及び天井下地 ・ 桧 ・ 見切り縁、回り縁、幅木、かさ木、幅木台 ・ 杉又は松 ・ 押入 ・ 棚板 ・ 杉又は桐 ・ その他 ・ 合板(2類) ・ 床の間、階段 ・ 杉又は桐 代用樹種を適用しない箇所： ◎集成材等 ○構造用集成材 施工箇所 品名 強度等級 材面の品質 接着性能 樹種名 寸法等 ・ 1種 ※2種 ・ 図示 ○構造用単板積層材 施工箇所 接着性能 樹種名 曲げ性能 寸法等 ・ 図示 ○造作用集成材 施工箇所 樹種名 寸法等 上り框 ゴム ・ 図示 カウンター タモ ・ 図示 ○化粧ばり造作用集成材 施工箇所 心材樹種名 化粧樹種名 表面の品質 寸法等 ・ 図示 ○造作用単板積層材 施工箇所 表面の品質 防虫処理 寸法等 ・ 図示 ◎床張り用合板等 ○合板t=5.5mm材 施工箇所 表板樹種名 接着の程度 板面の品質 等級・処理・寸法等 ・ 1類 ・ 1等 ・ 2等 ・ 図示 ・ 1類 ・ C-0 ○合板t=12mm材 施工箇所 表板樹種名 接着の程度 板面の品質 等級・処理・寸法等 各室床下地捨て張り ラワン ・ 1類 ・ 1等 ・ 2等 ・ 図示 ○パーティクルボード： ・ t=15mm材 ・ 18mm材 施工箇所 曲げの区分 接着の区分 等級・処理・寸法等 ◎接着剤： ※接着剤に含まれる可塑剤は難揮発性とする。 ◎防腐処理 防腐剤： ※（社）日本木材保存協会認定品又は同等品 ◎防蟻処理 防蟻剤： ・ 非有機リン系 ◎防虫処理 防虫処理剤： ・ 非有機リン系 樹種： ・ ナラ ・ ケヤキ ・ サクラ ・ クリ ・ シオジ 使用箇所： 種別： ・ 真物 ・ 貼物 樹種： 使用箇所：
5.3 接合具等	
5.5 防腐・防蟻・防虫処理	
5.* 堅 木	
5.* 銘 木	

章 項目	特記事項
6章 6.2 材 料	⑥. 軽量鉄骨天井下地 種類： ※改修標準仕様書表6.6.1による 屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ・ 近似記号@900mm 屋外の野縁の間隔： ※改修標準仕様書表6.6.2による あと施工アンカーの引抜き試験： ・ 行わない ・ 行う 試験法： ・ 改修標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・ 図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・ 図示 ・ 屋内と同程度 屋外の軒天井、ピロティータ井の補強： ・ 図示 ・ 天井内配管類及びダクト等により、野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・ 吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。
6.3 形状及び寸法	
6.4 工 法	
7.3 形状及び寸法	7. 軽量鉄骨壁下地 種類： ・ 50形 ・ 65形 ・ 90形 ・ 100形 スタッドの高さが5mを超える場合： ・ 図示
8.2 材 料	8. ビニル床シート、ビニル床タイル、及びゴム床タイル張り ビニル床シートの材料： ・ 図示 ・ 下表による 種 類 色柄 厚さ(mm) ・ 発泡層のないビニル床シート ※FS ※無地 ※2.0 ・ 2.5 ・ NS ・ マーブル ・ 発泡層のあるビニル床シート ・ D0 ・ ※2.3 ・ 3.5 （クッションフロア） ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料： ・ 図示 ・ 下表による 種 類 厚さ(mm) ・ コンポジションビニル床タイル 半硬質(CT) ※2.0 ・ コンポジションビニル床タイル 軟質(GTS) ※2.0 ・ ホモジニアスビニル床タイル(HT) ※2.0 ・ ゴム床タイル ・ 無地 ・ 4.0 ・ マーブル ・ 4.0 ・ 帯電防止床シート張り ・ 帯電防止床タイル貼り 種類： 性能： ・ 体積抵抗値(1.0x10 <sup>5</sup> Ω) 厚さ： ・ 2.0mm ・ 4.0mm ・ 4.5mm ・ 視覚障害者用床タイル張り 種類： ・ 合成ゴム貼付用 ・ 合成ゴム埋込用 ・ 合成ゴム表面CON ・ セツ器質タイル ・ コンクリート 厚み： ・ 2mm ・ 15mm ・ 20mm ・ 30mm ・ 耐動荷重性床シート張り： 種類（ ）厚さ（ ） ・ ビニル幅木の厚み： ※1.5mm以上 ・ ビニル幅木の高さ： ※60mm ・ 100mm 下地の工法： ※モルタル塗り下地 ※木造下地 ・ 図示 熱溶接工法： ・ 適用する ・ 適用しない
8.3 工 法	9. カーペット敷 ◎織じゅうたん 種別： ・ A種 ・ B種 ・ C種 バイル形状： ・ カットバイル ・ ループバイル ・ カットノループ併用 色柄： ・ 無地 ・ 柄物 帯電性の適用： ・ 適用しない ・ 適用する【人体帯電圧： ※3kV以下 ・ 】 ◎タフテッドカーペット バイル形状： ・ ループ ・ カット バイル長： ・ 図示 ・ mm ◎ニードルパンチカーペット 厚さ： ・ 4mm ・ 7mm ◎タイルカーペット バイル形状 種 類 寸法(mm) 総厚さ(mm) ※第1種ループバイル ※第1種 ※500x500 ※6.5 ・ 第2種 ・ カットバイル ・ カットノループ併用
9.3 材 料	◎下敷き材 下敷き材： ※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm) タフテッドカーペットの工法： ・ グリッパー工法 ・ 全面接着工法 タイルカーペットの敷き方 (平場)： ※市松敷き (階段部分)： ※模様敷き
9.4 工 法	横須賀市上下水道局 工 事 津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事 名 称 図 面 建築改修工事特記仕様書(3) 縮 尺 NON-SCALE 図 面 号 A- 3 制 作 平成 30 年 7 月 日 年 月 日 課 長 係 長 担当者 監 査 者





章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項	章 項目	特記事項																								
8章 耐震改修工事	2.7 鋼材	鋼材の材質： ・下表による ・図示 ・	④ 溶接技能者	④ 溶接接合	2.4 既存部分の撤去等	9章 環境配慮改修工事	7.2 既存舗装の撤去及び再利用																								
	2.8 高力ボルト	鋼材の形状及び寸法： ・図示 ・ 種類： ・トルシア型高力ボルト2種(S10T) ・JISの高力ボルト2種(F10T) ・溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当)	14.4 材料準備	溶接技能者の技量付加試験： ○行わない ・行う	24.2 減衰材		7.3 路床																								
	2.9 溶接材料	高力ボルトの径： ・図示 ・ 溶接棒等(標準仕様書表8.2.7)及びガス以外の溶接材料： ・図示 ・複層アーク溶接棒	14.7 溶接施工	開先の形状： ・図示 ・鉄骨構造標準図による	24.4 減衰材の設置		24.8 仕上げ	7.4 路盤																							
2.11 柱底均しモルタル	モルタルの種類： ・図示 ・無収縮モルタル ・ 無収縮モルタルの割合： ※改修標準仕様書8.2.11(b)(1)～(4)による ・図示	8.3 塗料の種類	⑤ 工場溶接の場合	エンドタブの切除の有無： ・有り ・無し 【エンドタブの切除の適用箇所： ・図示 ・】	24.9 検査	7.5 舗装の構成及び仕上り	7.9 試験																								
2.12 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等	材料： ・図示 ・ 工法： ・図示 ・ 引張強度、ヤング係数等： ・図示 ・ 引張力を受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・		14.11 溶接部の試験	完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験： ・適用する ・適用しない	9章 環境配慮改修工事		1.1 一般事項	2.1 断熱アスファルト防水改修工事																							
2.13 鋼材の材料試験等	③ 鉄筋の加工及び組立		① 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	既存在上の撤去範囲： ※改修標準仕様書8.19.2(a)(1)による ・協議による	1.3 アスベスト含有吹付け材の除去		1.5 アスベスト含有成形品の除去	2.2 断熱材の打込工法	2.3 改修工法の種類等																						
③ 継手及び定着	継手の種類： ・重ね継手 ・ガス圧継手 ・機械継手 ○図示 ・ 継手の位置： ○図示 ・ 主筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 ・ 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ： ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 ・ 先組み工法等の継手の位置： ・図示 ・ 柱への梁引張り鉄筋の定着長さ： ※標準仕様書5.3.4(d)(1)による ・図示 ・ 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ(軽量コンクリートの場合)： ・図示 ・40mm ・50mm ・60mm ○構造細目による 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ： ・図示 ・ 特殊な鉄筋継手のあき寸法： ・図示 ・	17.2 種別及び性能	1.6 鉄骨の錆止め塗装	2.3 改修標準仕様書9.1.5による	3.2 材料	指定メーカー等リスト	指定工事業者等リスト																								
③ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	④ 鉄筋の機械式継手及び溶接継手	20.7 既存との取合い	SRC造の鋼製スリーブ(鉄骨に溶接されたもの)の内面： ・図示 ・標準仕様書 表7.3.1【※A種 ・B種 ・C種】 ・ 耐火被覆材の接着面： ・図示 ・標準仕様書 表7.3.1【・A種 ・B種 ・C種】 ・	3.3 既存外壁の処置	3.4 工法	指定工事業者等リスト																									
③ 壁の配筋及び補強	④ 鉄筋の加工・組立	20.9 仕上げ	1.7 耐火被覆	3.4 工法	4.2 材料																										
3.9 圧接完了後の試験	⑤ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	1.8 耐火被覆	3.4 工法	5.2 断熱材打込工法																										
③ 鋼材の加工及び組立	⑥ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	1.9 耐火被覆	3.4 工法	5.3 現場吹付免砲断熱材	指定工事業者等リスト																									
③ 鋼材の加工及び組立	⑦ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	2.0 耐火被覆	3.4 工法	6.2 材料																										
③ 鋼材の加工及び組立	⑧ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	2.1 耐火被覆	3.4 工法	6.3 工法																										
③ 鋼材の加工及び組立	⑨ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	2.2 耐火被覆	3.4 工法	6.4 枯補償	指定工事業者等リスト																									
③ 鋼材の加工及び組立	⑩ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	2.3 耐火被覆	3.4 工法																											
③ 鋼材の加工及び組立	⑪ 鉄筋の加工・組立	21.5 溶接金網巻き工法	2.4 耐火被覆	3.4 工法																											
9.1 一般事項	9. 軽量コンクリート	21.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法	2.5 耐火被覆	3.4 工法		指定工事業者等リスト																									
9.1 一般事項	9.1 一般事項	21.7 連続繊維補強工法	2.6 耐火被覆	3.4 工法																											
9.1 一般事項	9.1 一般事項	21.8 仕上げ	2.7 耐火被覆	3.4 工法																											
10.2 材料及び割合	10. 暑中コンクリート	21.8 仕上げ	2.8 耐火被覆	3.4 工法		指定工事業者等リスト																									
11.2 穿孔	10.2 材料及び割合	21.9 養生	2.9 耐火被覆	3.4 工法																											
11.5 施工確認試験	10.2 材料及び割合	21.10 支保材又は減衰材の設置	3.0 耐火被覆	3.4 工法																											
12.9 板組	11. 施工確認試験	21.11 支保材又は減衰材の設置	3.1 耐火被覆	3.4 工法		指定工事業者等リスト																									
13.2 摩擦面の性能及び処理	11.2 穿孔	21.12 仕上げ	3.2 耐火被覆	3.4 工法																											
13.7 補付け	11.5 施工確認試験	21.13 耐火被覆	3.3 耐火被覆	3.4 工法																											
	12.9 板組	21.14 免震エキスパンションジョイント等	3.4 耐火被覆	3.4 工法		指定工事業者等リスト																									
	13.2 摩擦面の性能及び処理	21.15 検査	3.4 耐火被覆	3.4 工法																											
	13.7 補付け	21.16 検査	3.4 耐火被覆	3.4 工法																											
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="4">横須賀市上下水道局</th> </tr> <tr> <td>工事名称</td> <td colspan="3">津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事</td> </tr> <tr> <td>図面名称</td> <td colspan="3">建築改修工事特記仕様書(5)</td> </tr> <tr> <td>縮尺</td> <td>NON-SCALE</td> <td>図面番号</td> <td>A-5</td> </tr> <tr> <td>制作年</td> <td colspan="3">平成 30年 7月 日</td> </tr> <tr> <td>課長</td> <td>係長</td> <td>担当者</td> <td>監査者</td> </tr> </table>								横須賀市上下水道局				工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			図面名称	建築改修工事特記仕様書(5)			縮尺	NON-SCALE	図面番号	A-5	制作年	平成 30年 7月 日			課長	係長	担当者	監査者
横須賀市上下水道局																															
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事																														
図面名称	建築改修工事特記仕様書(5)																														
縮尺	NON-SCALE	図面番号	A-5																												
制作年	平成 30年 7月 日																														
課長	係長	担当者	監査者																												

# 構造細目共通図 (IV類複合構造物建築用)

## 1 特記事項

### 1.1 適用範囲

- 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
- 土木工と建築工の区分は図面による。
- 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工		
建築工	1) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 2) 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部	(平成28年版) (平成28年版)

- (4) 項目は○印のついたものを適用する。◎印のない場合は、※印のあるものを適用する。●印と◎印のある場合は、共に適用する。

### 1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。

1.2.1表 鉄筋の種類及び継手

鉄筋の種類	種別	径	
		土木	建築
鉄筋の種類	SD 295A	—	※D16以下
	・SD 345 ・SD 390 ・SD 490	・D13以上	—
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	・D19以上の柱、梁主筋 ・D16以上の増設端の床、壁鉄筋	・D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	・図面による。	

### 1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.3.1表による。

1.3.1表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランプ(cm)	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート	・普通コンクリート ・24 ・30	・12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント
建築	鉄筋コンクリート	※普通コンクリート	※24	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
		地上	◎21	
土木	無筋コンクリート	・普通コンクリート	・18	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント
		地下基礎、基礎梁	・24 ・21	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
建築	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

## 1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

1.4.1表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部位	種別	厚さ(mm)
土木工	砂利または砕石	・200
	均しコンクリート	・100
建築工	砂利または砕石	・60
	捨てコンクリート	・50

## 2 共通事項

### 2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

2.1.1表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	∅	●	○	◎	⊗	◎
土木		●又は建築による。							

2.1.2表 一般凡例

記号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1、2、3- - - Y方向A、B、C- - -
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(c m)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(c m) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(c m)
////	打ち増し範囲	
////	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの+、-に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(k N/m <sup>2</sup> )
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

### 2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

## 4 建築工事

### 4.1 鉄筋の曲げ加工

鉄筋の曲げ加工は、4.1.1表及び4.1.2表を標準とする。

- Dは、曲げ内法直径を示す。
- dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

4.1.1表 末端部

曲げ角度	折曲げ図	D	すべてのコンクリート		使用箇所
			SD 295A SD 345		
180°		D	3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		D	3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		D	3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		D	3d以上	4d以上	幅止め筋

- (注) 1. 片保ちスラブ先端、壁筋の自由端側先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4dとする。  
2. 90°未満の折曲げの内法直径は図面による。

4.1.2表 中間部

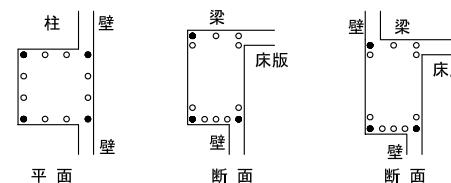
曲げ角度	折曲げ図	D	すべてのコンクリート			使用箇所
			SD 295A SD 345			
90°以下		D	D16以下	D19~D25	D29~D38	あばら筋、帯筋 スパイラル筋 その他の鉄筋
			3d以上	4d以上	—	
		D	4d以上	6d以上	8d以上	

### 4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

部位	継手方式		備考	
	重ね継手	圧接継手		
柱	四隅の主筋	1) 最上階の柱頭 2) 継手部	1) 最上階の柱頭	4.2.1 図の○印 4.7.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	4.2.1 図の○印 4.7.1 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.8.1 図参照
梁	主筋	1) 出隅及び下端筋の両端(基礎梁は除く)	—	4.2.1 図の○印
	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.11.1 図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	—	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋	—	—	—	4.1.1 表参照



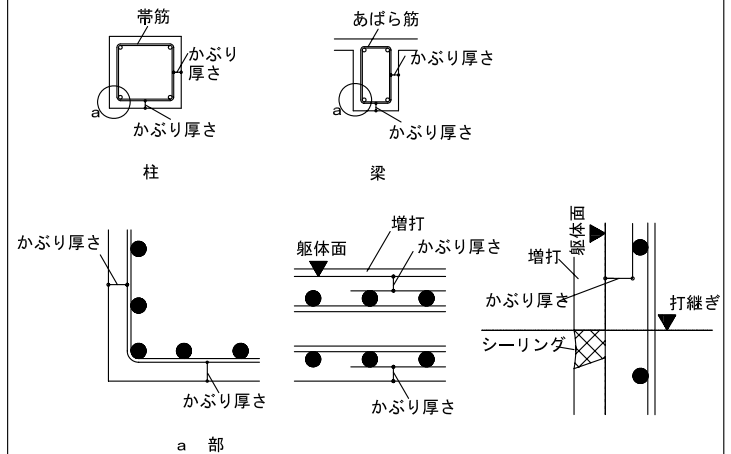
4.2.1図 異形鉄筋の末端部

### 4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

#### 4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(4.3.1図)をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

#### 4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。

- 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
- 溶接金網にも適用する。

4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

構造部分の種類	通常の場合		
	通常の施工の場合	塩害対策を必要とする場合	
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高温を受ける部分	60	70	

- 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
- 仕上なしの場合を標準とする。

## 横須賀市上下水道局

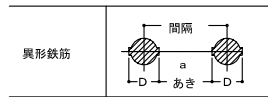
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図面名称	構造細目共通図(複合構造物)(1)		
縮尺	NON-SCALE	図番号	A-6
制作月	平成30年7月		
課長	係長	担当者	設計者

## 4 建築工事

### 4.4 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 異形鉄筋の直径(呼び名の数値)の1.5倍以上



(注) D: 鉄筋の最大径 d: 鉄筋直径(呼び名)  
4.4.1図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき: a			最小鉄筋芯間隔 a+D
鉄筋径 d	最大径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	42mm
D13	14			20mm	45mm
D16	18			24mm	49mm
D19	21			29mm	52mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

### 4.5 継手及び定着

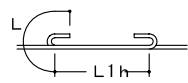
#### 4.5.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、4.5.1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と4.5.1表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	21	45d	30d
	24 27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注) 1. L1、L1h: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
2. フックありの場合のL1hは、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4.5.1図

#### 4.5.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

#### 4.5.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

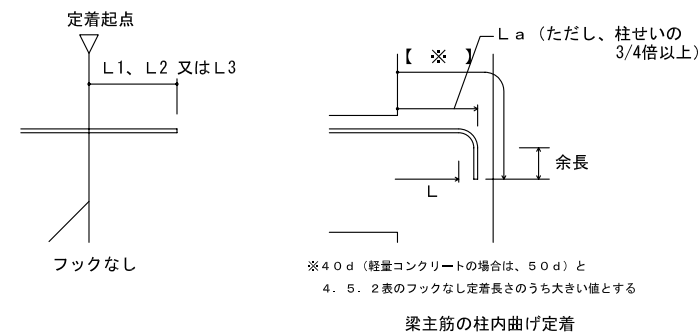
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし			フックあり		
		L1	L2	L3 小梁 スラブ	L1h	L2h	L3h 小梁 スラブ
SD295A	21	40d	35d	20d 10d かつ 150mm 以上	30d	25d	10d
	24, 27	35d	30d		25d	20d	
	30	35d	30d		25d	20d	
SD345	21	45d	35d	20d 10d かつ 150mm 以上	30d	25d	10d
	24, 27	40d	35d		30d	25d	
	30	35d	30d		25d	20d	

#### 4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。

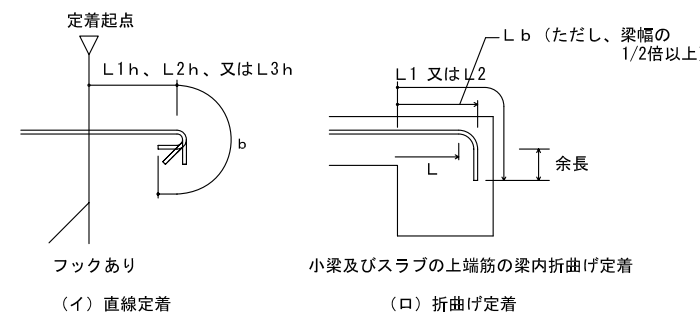
なお、(ロ) 折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上、小梁の場合は1/2以上)をのみ込ませる。

(注) 1、L<sub>a</sub>、L<sub>b</sub>は、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示す。



フックなし

梁主筋の柱内曲げ定着



フックあり

小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着

(イ) 直線定着

(ロ) 折曲げ定着

4.5.2図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295A	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	21	20d	20d
	24 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注) 1. L<sub>a</sub>: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)  
2. L<sub>b</sub>: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

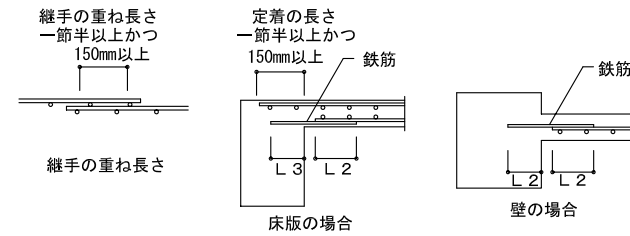
#### 4.5.5 隣り合う継手の位置及び定着

隣り合う継ぎ手の位置は、4.5.4表により、a寸法を守ることに。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

4.5.4表 隣り合う継手の位置

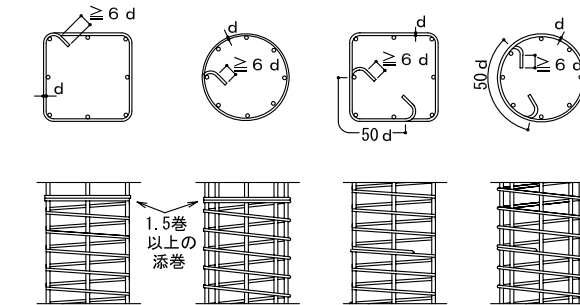
条 件	重ねる場合	離す場合
重ね継手	フック有りの場合	$a \geq 0.5L1h$
	フックなしの場合	$a \geq 0.5L1$
圧接継手	$a \geq 400mm$	

#### (1) 溶接金網の継手及び定着



4.5.3図 溶接金網の継手及び定着要領

#### (2) スパイラル筋の継手及び定着

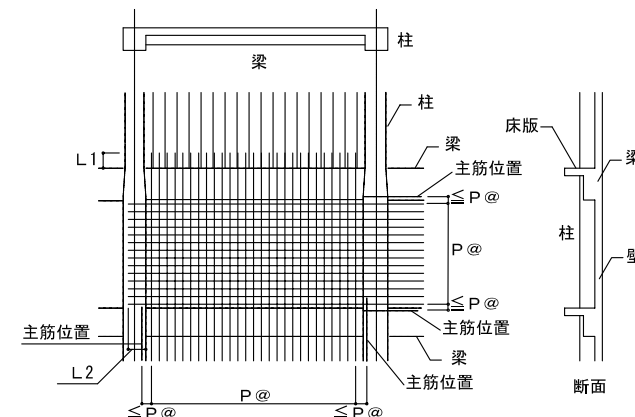


4.5.4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

### 4.13 壁の配筋要領

#### 4.13.1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手の長さはL1、及び定着の長さは、L2とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをL1、定着長さはL2とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは、40dと4.5.2表のフックなし重ね継手長さのうち大きい値とする。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、4.13.1図による。



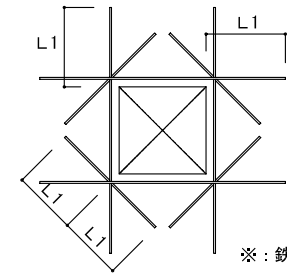
4.13.1図 壁の配筋

#### 4.13.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面に示すもの以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

#### 4.13.3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、4.13.3図を標準とする。



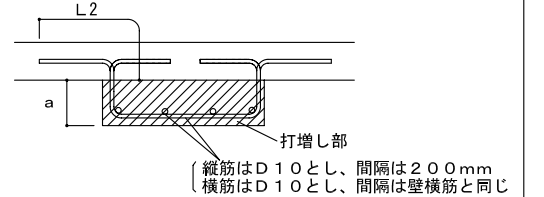
※: 鉄筋径及び本数は、図面による

4.13.3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2) 壁開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

### 4.14 壁の打増し要領

- (1) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、4.14.1図による。打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。200mmを超える場合は、特記による。

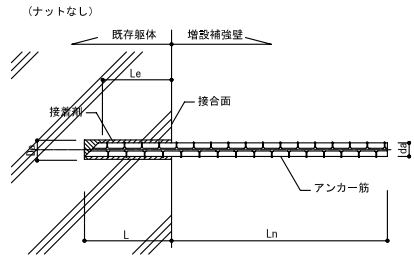
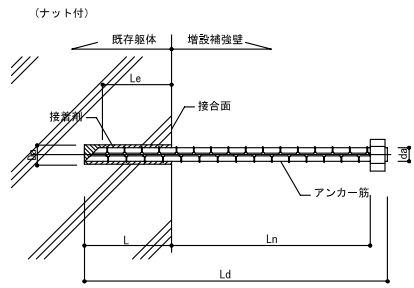


4.14.1図 壁の打増し補強配筋

横須賀市上下水道局				
工事 名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事			
図面 名称	構造細目共通図(複合構造物)(2)			
縮尺	NON-SCALE	図書 番号	A-7	
制作 年月	平成30年7月 日			
課長	係長	担当者	設計者	

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



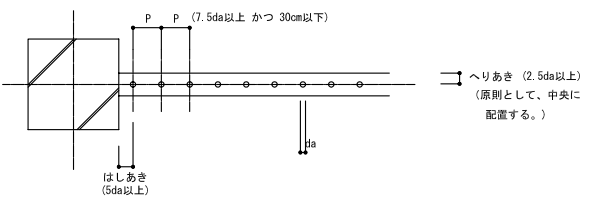
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
 Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
 Ld : アンカー筋の全長  
 Ln : 有効定着長さ  
 da : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
 da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項	
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部 : $Le=7da$ 開口補強筋 : $Le=10da$
接着系アンカーの有効定着長さ	一般部 : $Ln=20da$ 開口補強筋 : $Ln=L_1+5da$ (=補強筋との継手長さ+クリップ)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。

施工確認試験荷重 (終局引張強度)		終局せん断強度
アンカー筋呼び名 (da)	荷重 (kN)	荷重 (kN)
D16	※	
D22	※	

・上記荷重は終局引張強度のため、引張試験はその強度の2/3以上とする。  
 条件変更等がある場合は、耐震改修設計指針 (日本建築防災協会) により算出のこと。  
 上記に示す箇所以外とするときは、別途確認強度を算出すること。  
 ・国土交通省「あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針」(平成18年7月)による。  
 ※: メーカー所定の強度とする

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



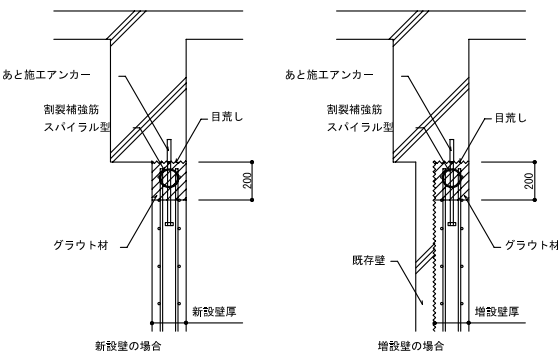
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下配による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁厚	スパイラル径	割裂補強筋	備考
180	100φ	6φ#50	
200	120φ	6φ#50	
220	140φ	6φ#50	
250	170φ	6φ#50	
270	190φ	6φ#50	
300	220φ	6φ#50	

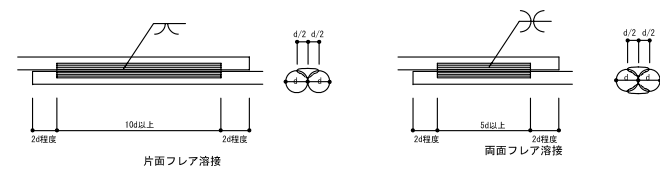
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

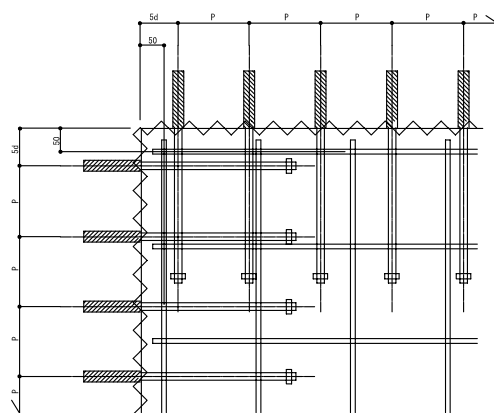


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。



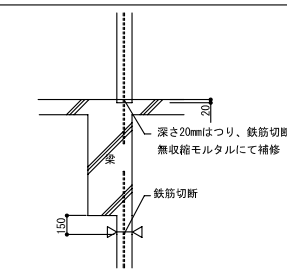
アンカー筋ピッチ標準



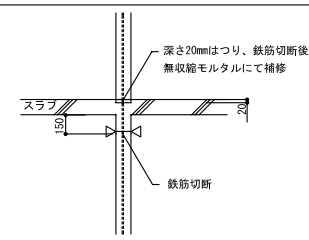
既存壁等撤去要領図 S=1/30

注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。  
 注記) <印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。  
 注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。  
 注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

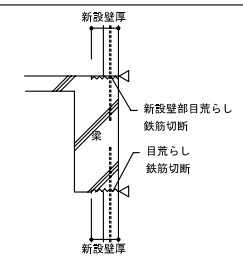
撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)



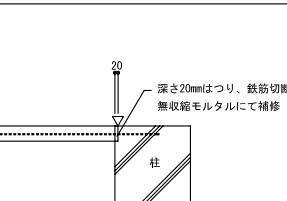
撤去壁-スラブ 取合部



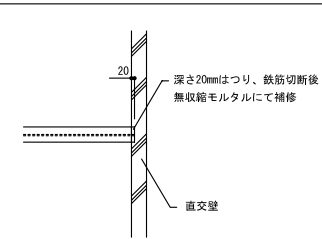
撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)



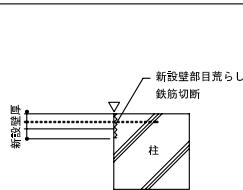
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)



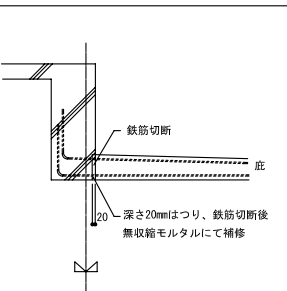
撤去壁-直交壁 取合部



撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)



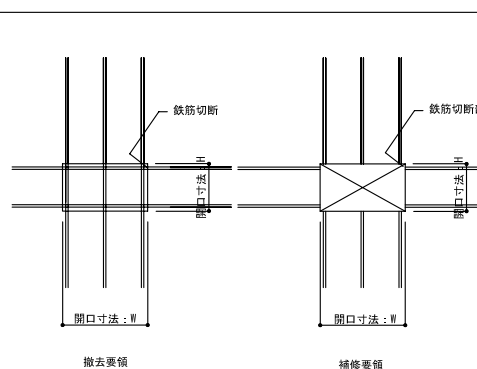
撤去庇-梁 取合部



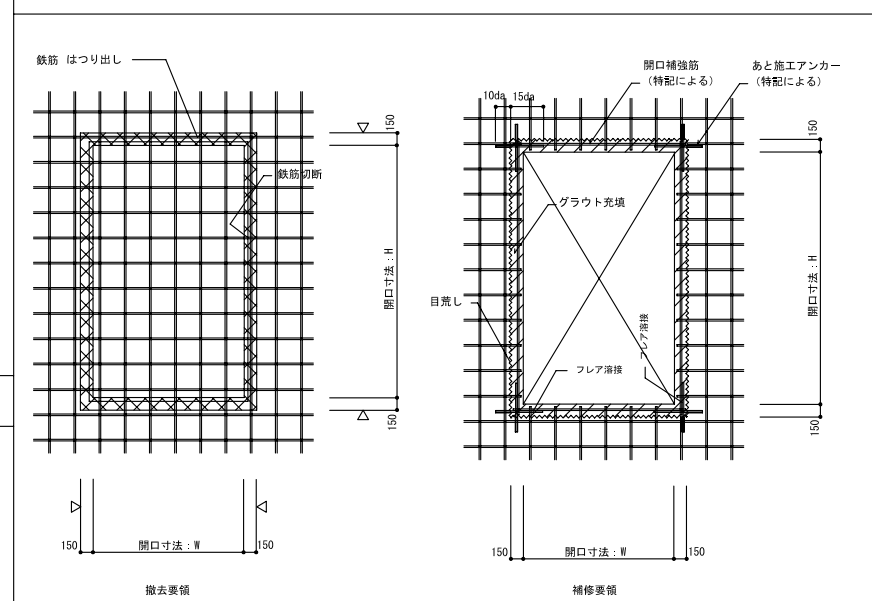
新設壁開口配筋要領図

- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。  
 大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を敷ける。  
 開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○小開口部 ・適用は特記による。



○大開口部 ・適用は特記による。



注記) <印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	構造細目共通図 建築工事(1)		
縮 尺	NON-SCALE	図 番	A- 8
制 作 年 月	平成 30 年 7 月 日		
課 長	係 長	担 当 者	監 査 者

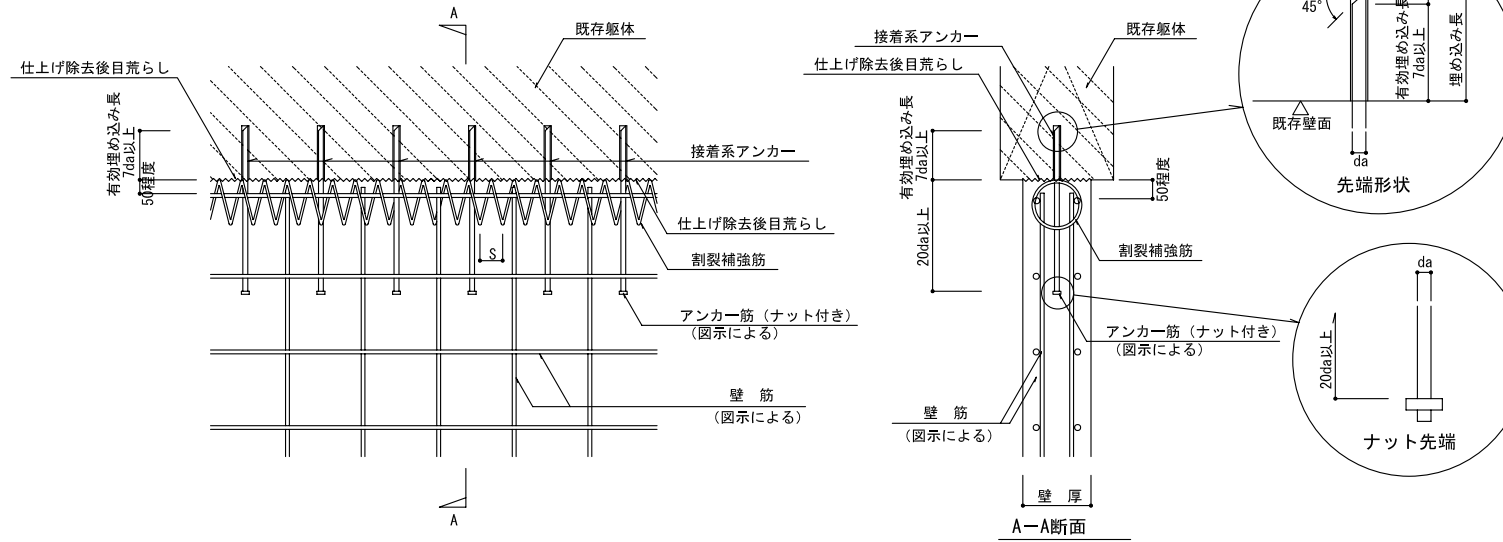
一般仕様

1. 使用材料

コンクリート	$F_c=21\text{N/mm}^2$	スラブ18
無収縮グラウト材	$F_m=30\text{N/mm}^2$ 以上	スラブ15
無筋コンクリート	$F_c=18\text{N/mm}^2$	
鉄筋	JIS G 3112 SD295A (D16以下) JIS G 3112 SD345 (D19以上) JIS G 3112 SR235 (割裂補強筋)	
アンカー筋	JIS G 3112 SD295A (D16以下) JIS G 3112 SD345 (D19以上)	
接着系アンカー	有機系カプセル型アンカー	
シャコネクター	有機系カプセル型アンカー SD295A [増し壁の場合に使用する]	

割裂補強筋配筋要領図 1/10

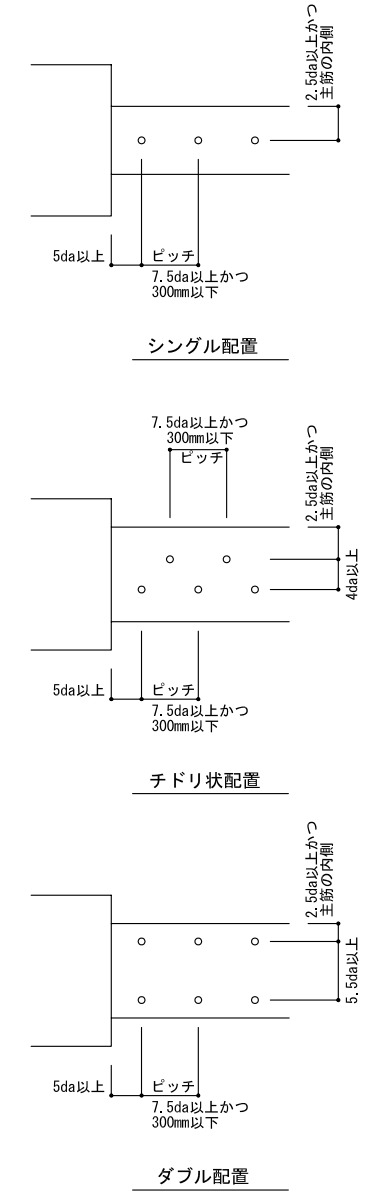
※1 daは鉄筋呼び径  
※2 開口補強筋に接着系アンカーを用いる場合の有効埋め込み長は10da以上とする



注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。

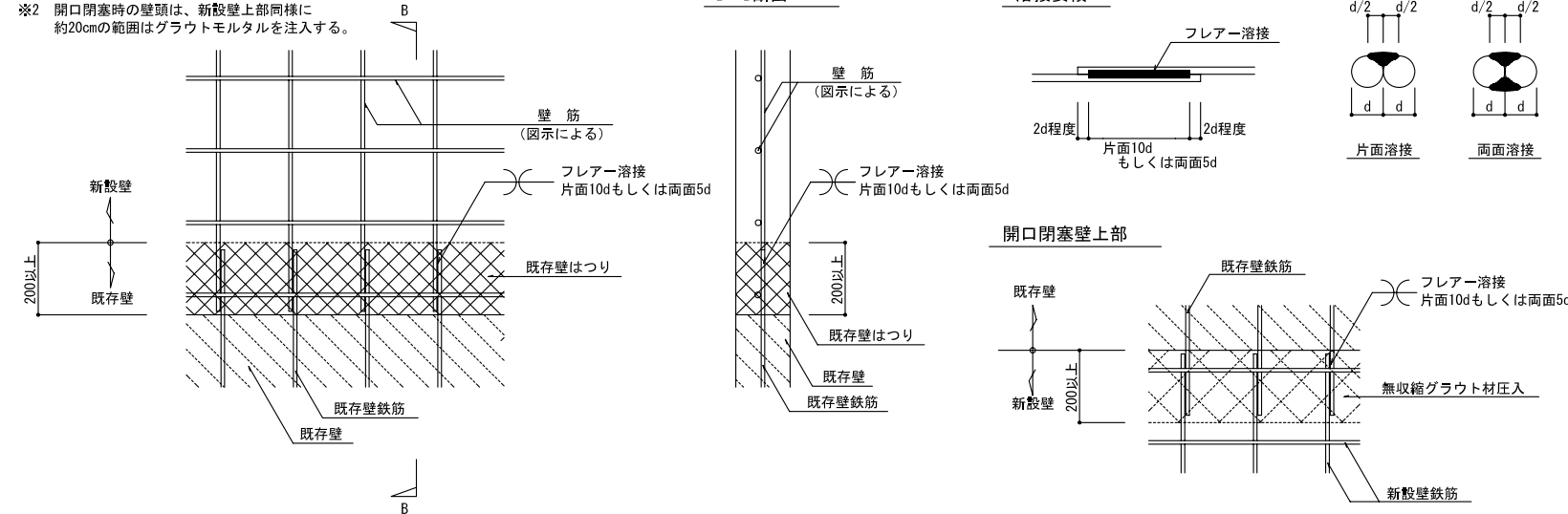
後施工アンカーの間隔 1/10

※ daは鉄筋呼び径



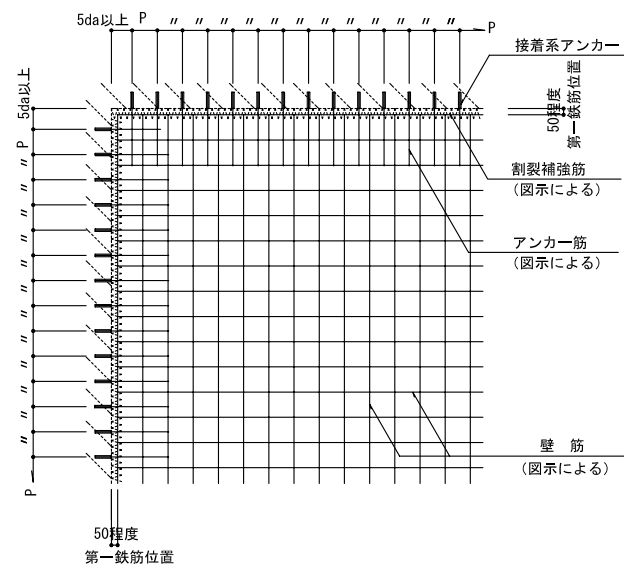
既存壁鉄筋利用時配筋要領図 1/10

※1 dは鉄筋呼び径を示す。  
※2 開口閉塞時の壁頭は、新設壁上部同様に約20cmの範囲はグラウトモルタルを注入する。



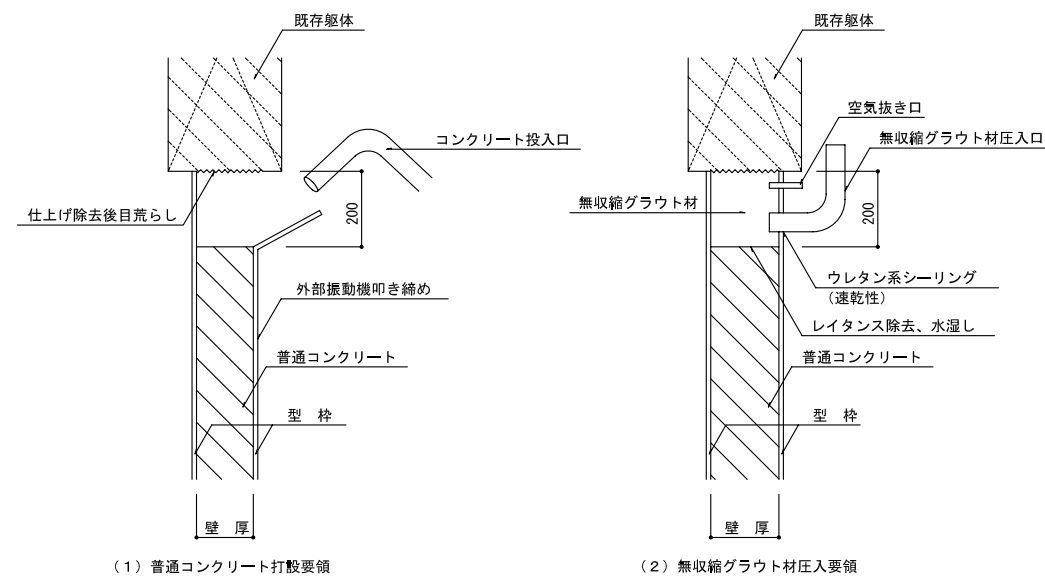
増設壁配筋要領図 1/30

※ Pは図示による。

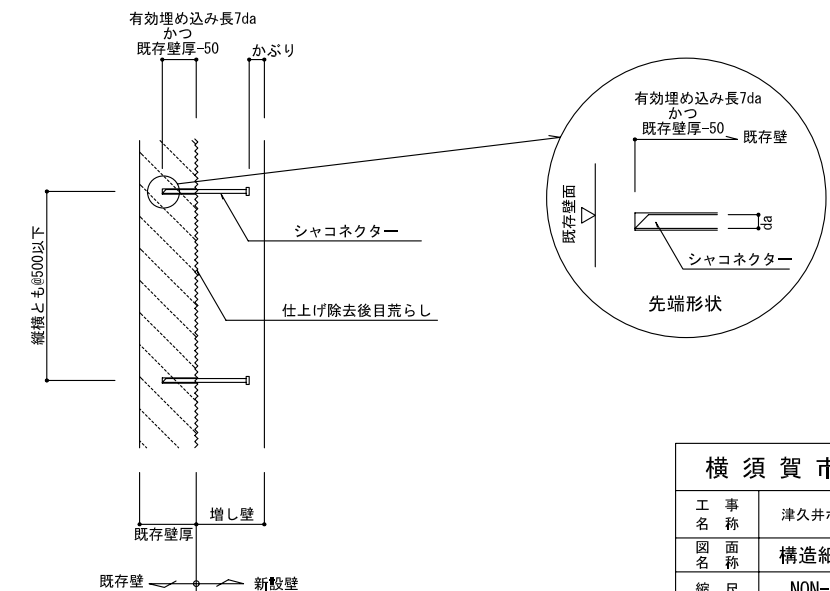


コンクリート及び無収縮グラウト材圧入要領図 1/10

(1) 普通コンクリート打設後、(2) 無収縮グラウト材を圧入する。



シャコネクター要領図 1/10



横須賀市上下水道局			
工事名称	津久井ポンプ場ほか耐震補強建築工事		
図面名称	構造細目共通図 建築工事(2)		
縮尺	NON-SCALE	図番	A-9
制作年	平成30年7月日		
課長	係長	担当者	製作者